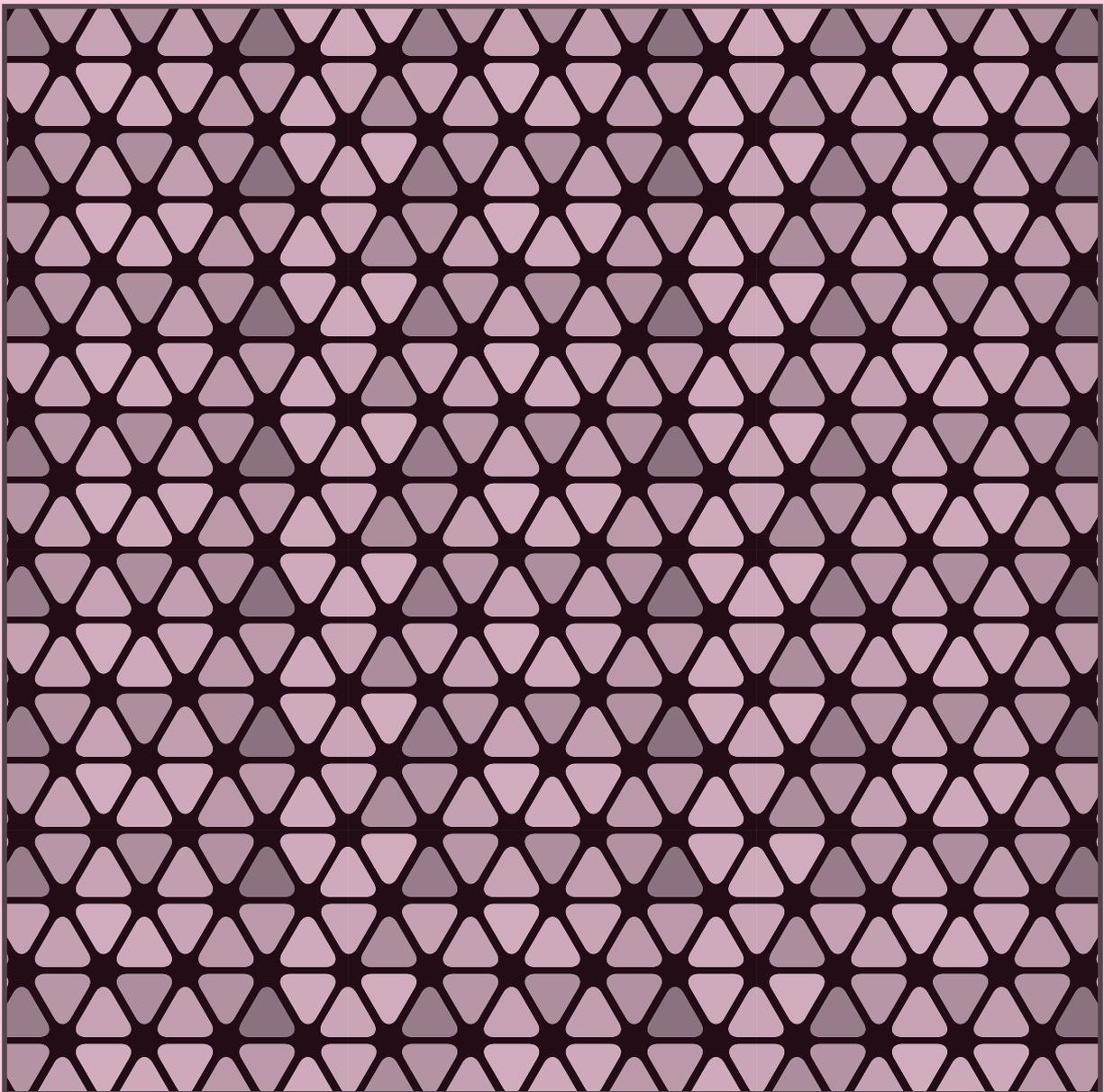

2018年度

シラバス

ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください◆

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合がありますので注意してください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科	経： 経済学部	律： 法律学科
英： 英語学科	済： 経済学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科	営： 経営学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科	環： 国際環境経済学科	免： 2013年度以降入学の教職課程登録者
全： ドイツ語学科以外の全学部・全学科		

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト

⑧参考文献

⑨評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③ 春学期 ④		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③ 秋学期 ④		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③履修登録

学期ごとに第1回目の授業で選考または抽選を行う授業もあるので、必ずシラバスを参照してください。

—— 目 次 ——

ドイツ語学科授業科目（2009 年度以降入学者用）

外国語科目、演習科目	-----	2
概論・専門講義・テキスト研究科目	-----	4
交流文化論	-----	6
外国語学部共通科目	-----	7
担当者別シラバス	-----	9

ドイツ語学科 授業科目(2009～2018年度入学者用)

外国語科目

09～18年度入学者用

科目名		担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
既 修	総合ドイツ語Ⅰ	A. ヴェルナー/堤 那美子	春	—	1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅱ	A. ヴェルナー/堤 那美子	秋	—	1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅲ	D. フジサワ/青山 愛香	春	—	1	2	全	10
	総合ドイツ語Ⅳ	D. フジサワ/青山 愛香	秋	—	1	2	全	10
	基礎ドイツ語Ⅰ	M. ビティヒ	春	—	1	1	全	11
	基礎ドイツ語Ⅱ	M. ビティヒ	秋	—	1	1	全	11
	応用ドイツ語Ⅰ	I. アルブレヒト	春	—	1	2	全	12
	応用ドイツ語Ⅱ	I. アルブレヒト	秋	—	1	2	全	12
未 修	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	1	全	13
	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	1	全	13
	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春	—	1	2	全	14
	総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋	—	1	2	全	14
	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	1	全	15
	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	1	全	15
	応用ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	2	全	16
	応用ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	2	全	16
レ ベ ル A	中級ドイツ語リーディング a	S. ヴィーク	春	火3	1	2		17
	中級ドイツ語リーディング b	S. ヴィーク	秋	火3	1	2		17
	中級ドイツ語ライティング a	H. W. ラーデケ	春	月3	1	2		18
	中級ドイツ語ライティング b	H. W. ラーデケ	秋	月3	1	2		18
	中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	木4	1	2		19
	中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	木4	1	2		19
	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	H. W. ラーデケ	春	金3	1	2		20
	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	H. W. ラーデケ	秋	金3	1	2		20
レ ベ ル B	中級ドイツ語リーディング a	R. ヘニング	春	月4	1	2		21
	中級ドイツ語リーディング b	R. ヘニング	秋	月4	1	2		21
	中級ドイツ語ライティング a	D. オルランド	春	月3	1	2		22
	中級ドイツ語ライティング b	D. オルランド	秋	月3	1	2		22
	中級ドイツ語スピーキング a	H. J. トロル	春	金1	1	2		23
	中級ドイツ語スピーキング b	H. J. トロル	秋	金1	1	2		23
	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	N. カネマツ	春	金5	1	2		24
	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	N. カネマツ	秋	金5	1	2		24
英語	M. J. クロフォード	春	金2	1	2		25	
英語	M. J. クロフォード	秋	金2	1	2		25	

外国語科目

科目名		担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
既修・ スーパ	総合ドイツ語Ⅴ	D. フジサワ	春	月3/金2	2	3		26
	総合ドイツ語Ⅵ	D. フジサワ	秋	月3/金2	2	3		26
	総合ドイツ語Ⅶ	A. ヴェルナー	春	火5/水2	2	3		27
	総合ドイツ語Ⅷ	A. ヴェルナー	秋	火5/水2	2	3		27
標準	総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春	—	2	3		28
	総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋	—	2	3		28
	総合ドイツ語Ⅶ	J. シュトライト	春	月4/木2	2	3		29
	総合ドイツ語Ⅷ	J. シュトライト	秋	月4/木2	2	3		29
上級ドイツ語リーディング a		D. オルランド	春	月1	2	3		30
上級ドイツ語リーディング b		D. オルランド	秋	月1	2	3		30
上級ドイツ語リーディング a		R. ヘニング	春	金2	2	3		31
上級ドイツ語リーディング b		R. ヘニング	秋	金2	2	3		31
上級ドイツ語ライティング a		H. W. ラーデケ	春	月2	2	3		32
上級ドイツ語ライティング b		H. W. ラーデケ	秋	月2	2	3		32
上級ドイツ語ライティング a		N. カネマツ	春	金4	2	3		33
上級ドイツ語ライティング b		N. カネマツ	秋	金4	2	3		33
上級ドイツ語ライティング a		S. メルテンス	春	火2	2	3		34
上級ドイツ語ライティング b		S. メルテンス	秋	火2	2	3		34
上級ドイツ語スピーキング a		D. フジサワ	春	月2	2	3		35
上級ドイツ語スピーキング b		D. フジサワ	秋	月2	2	3		35
上級ドイツ語スピーキング a		R. メッツィング	春	金2	2	3		36
上級ドイツ語スピーキング b		R. メッツィング	秋	金2	2	3		36
上級ドイツ語スピーキング a		S. ヴィーク	春	火2	2	3		37
上級ドイツ語スピーキング b		S. ヴィーク	秋	火2	2	3		37
上級ドイツ語リスニング(CAL) a		R. ヘニング	春	月2	2	3		38
上級ドイツ語リスニング(CAL) b		R. ヘニング	秋	月2	2	3		38
上級ドイツ語リスニング(CAL) a		S. メルテンス	春	木2	2	3		39
上級ドイツ語リスニング(CAL) b		S. メルテンス	秋	木2	2	3		39
中世ドイツ語 a		I. アルブレヒト	春	水2	2	3		40
中世ドイツ語 b		I. アルブレヒト	秋	水2	2	3		40
ビジネスドイツ語 a		S. メルテンス	春	木3	2	3		41
ビジネスドイツ語 b		S. メルテンス	秋	木3	2	3		41
上級英語		辻田 麻里	春	金2	2	3		42
上級英語		辻田 麻里	秋	金2	2	3		42

演習科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏入門Ⅰ	伊豆田 俊輔	春	水3	2	1	全	43
ドイツ語圏入門Ⅱ	伊豆田 俊輔	秋	水3	2	1	全	43
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春	水2	2	2	全	44
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋	水2	2	2	全	44
通訳特殊演習	中山 純	春	水3	2	3		45
通訳特殊演習	中山 純	秋	水3	2	3		45
翻訳特殊演習	上田 浩二	春	水2	2	3		46
インターンシップ特殊演習	I. アルブレヒト	春	木1	2	2		47
留学準備特殊演習	A. ヴェルナー	春	水3	2	2		48
外国語教育特殊演習	M. ビティヒ	春	月5	2	2		49
外国語教育特殊演習	M. ビティヒ	秋	月5	2	2		49
外国語教育特殊演習	上田 浩二	秋	水2	2	3		50

概論・専門講義・テキスト研究科目

語学・文学・思想研究コース

09～18年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語概論 a	金井 満	春	火1	2	1		51
ドイツ語概論 b	金井 満	秋	火1	2	1		51
ドイツ語圏文学・思想概論 a	渡部 重美	春	水2	2	1		52
ドイツ語圏文学・思想概論 b	渡部 重美	秋	水2	2	1		52
ドイツ語圏の言語 a	黒子 葉子	春	金3	2	2		53
ドイツ語圏の言語 b	黒子 葉子	秋	金3	2	2		53
ドイツ語圏の文学 a	矢羽々 崇	春	火1	2	2		54
ドイツ語圏の文学 b	矢羽々 崇	秋	火1	2	2		54
ドイツ語圏の思想 a	工藤 達也	春	月3	2	2	交	55
ドイツ語圏の思想 b	工藤 達也	秋	月3	2	2	交	55
テキスト研究(語学・ <u>文学</u> ・思想) a	D. フジサワ	春	金3	2	3		56
テキスト研究(語学・ <u>文学</u> ・思想) b	D. フジサワ	秋	金3	2	3		56
テキスト研究(語学・文学・ <u>思想</u>) a	S. ヴィーク	春	木4	2	3		57
テキスト研究(<u>語学</u> ・文学・思想) a	柿沼 義孝	春	金3	2	3		58
テキスト研究(<u>語学</u> ・文学・思想) b	柿沼 義孝	秋	金3	2	3		58
テキスト研究(<u>語学</u> ・文学・思想) b	中川 純子	秋	木2	2	3		59
テキスト研究(語学・文学・ <u>思想</u>) a	永本 哲也	春	火4	2	3		60
テキスト研究(語学・文学・ <u>思想</u>) b	永本 哲也	秋	火4	2	3		60
テキスト研究(<u>語学</u> ・文学・思想) a	中山 純	春	水4	2	3		61
テキスト研究(<u>語学</u> ・文学・思想) b	中山 純	秋	水4	2	3		61
テキスト研究(語学・ <u>文学</u> ・思想) a	本橋 右京	春	木2	2	3		62
テキスト研究(語学・ <u>文学</u> ・思想) b	本橋 右京	秋	木2	2	3		62

芸術・文化研究コース

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本 淳	春	木1	2	1		63
ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本 淳	秋	木1	2	1		63
ドイツ語圏の美術 a	青山 愛香	春	月3	2	2		64
ドイツ語圏の美術 b	青山 愛香	秋	月3	2	2		64
ドイツ語圏の音楽 a	木村 佐千子	春	金3	2	2		65
ドイツ語圏の音楽 b	木村 佐千子	秋	金3	2	2		65
ドイツ語圏の演劇 a	上田 浩二	春	水3	2	2		66
ドイツ語圏の演劇 b	上田 浩二	秋	水3	2	2		66
ドイツ語圏のメディア文化 a	秋野 有紀	春	月3	2	2	全	67
ドイツ語圏のメディア文化 b	秋野 有紀	秋	月3	2	2	全	67
テキスト研究(芸術・文化) b	I. アルブレヒト	秋	木1	2	3		68
テキスト研究(芸術・文化) a	青山 愛香	春	水1	2	3		69
テキスト研究(芸術・文化) b	青山 愛香	秋	水1	2	3		69
テキスト研究(芸術・文化) a	木村 佐千子	春	水3	2	3		70
テキスト研究(芸術・文化) a	佐藤 恵	春	火1	2	3		71
テキスト研究(芸術・文化) b	佐藤 恵	秋	火1	2	3		71
テキスト研究(芸術・文化) a	高橋 輝暁	春	水4	2	3		72
テキスト研究(芸術・文化) b	高橋 輝暁	秋	水4	2	3		72
テキスト研究(芸術・文化) a	高橋 輝暁	春	水5	2	3		73
テキスト研究(芸術・文化) b	高橋 輝暁	秋	水5	2	3		73
テキスト研究(芸術・文化) a	前田 智	春	木1	2	3		74
テキスト研究(芸術・文化) b	前田 智	秋	木1	2	3		74

現代社会・歴史研究コース

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏現代社会概論 a	M. ビティヒ	春	月4	2	1		75
ドイツ語圏現代社会概論 b	M. ビティヒ	秋	月4	2	1		75
ドイツ語圏歴史概論 a	古田 善文	春	火4	2	1		76
ドイツ語圏歴史概論 b	古田 善文	秋	火4	2	1		76
ドイツ語圏の政治・経済 a	大重 光太郎	春	月3	2	2	交	77
ドイツ語圏の政治・経済 b	大重 光太郎	秋	月3	2	2	交	77
ドイツ語圏の歴史 a	伊豆田 俊輔	春	金3	2	2	交	78
ドイツ語圏の歴史 b	伊豆田 俊輔	秋	金3	2	2	交	78
ドイツ語圏の地域・環境問題 a	岡村 りら	春	火1	2	2	交	79
ドイツ語圏の地域・環境問題 b	岡村 りら	秋	火1	2	2	交	79
ドイツ語圏とEU a	伊豆田 俊輔	春	金5	2	2	全	80
ドイツ語圏とEU b	伊豆田 俊輔	秋	金5	2	2	全	80
テキスト研究(現代社会・歴史) a	H. W. ラーデケ	春	金2	2	3		81
テキスト研究(現代社会・歴史) b	H. W. ラーデケ	秋	金2	2	3		81
テキスト研究(現代社会・歴史) a	R. メッツィング	春	月2	2	3		82
テキスト研究(現代社会・歴史) b	R. メッツィング	秋	月2	2	3		82
テキスト研究(現代社会・歴史) b	S. ヴィーク	秋	木4	2	3		83
テキスト研究(現代社会・歴史) a	秋山 大輔	春	金5	2	3		84
テキスト研究(現代社会・歴史) b	秋山 大輔	秋	金5	2	3		84
テキスト研究(現代社会・歴史) a	有信 真美菜	春	木2	2	3		85
テキスト研究(現代社会・歴史) b	有信 真美菜	秋	木2	2	3		85
テキスト研究(現代社会・歴史) a	井上 周平	春	月5	2	3		86
テキスト研究(現代社会・歴史) b	井上 周平	秋	月5	2	3		86
テキスト研究(現代社会・歴史) a	大重 光太郎	春	月4	2	3		87
テキスト研究(現代社会・歴史) b	大重 光太郎	秋	月4	2	3		87
テキスト研究(現代社会・歴史) a	岡村 りら	春	月1	2	3		88
テキスト研究(現代社会・歴史) b	岡村 りら	秋	月1	2	3		88
テキスト研究(現代社会・歴史) a	黒田 多美子	春	木3	2	3		89
テキスト研究(現代社会・歴史) b	黒田 多美子	秋	木3	2	3		89
テキスト研究(現代社会・歴史) a	中川 純子	春	木2	2	3		90

交流文化論

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))【2013年度以降入学者】	花本 広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバルイゼーションと子ども))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木1	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木2	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	金1	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	100
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	101
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル経済とジェンダー))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	102
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木1	2	2	交・養・経・法	103
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (シティズンシップ教育論))【2013年度以降入学者】	花本 広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	104
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	105
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	106
交流文化論(食の文化論)	中野 美季	秋	木4	2	2	交・養・経・法	107
交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】 交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】	中野 美季	秋	木5	2	2	交・養・経・法	108
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】 交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	109

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	柿田 秀樹	春	水3	2	1	養・経・法	111
総合講座	A. ゴーリンジャー	秋	水3	2	1	養・経・法	111
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	112
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	112
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	113
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	114
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	114
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	114
(情報処理演習)[英語]	黄 海湘	春	金1	2	1	養・経・法	115
(情報処理演習)[英語]	黄 海湘	秋	金1	2	1	養・経・法	115
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	木2	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	木2	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	116
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	117
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	117
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	118
(Word中級)	松山 恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	119
(Word中級)	松山 恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	119
(Word中級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	119
(Word中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	119
(Office中級)	松山 恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	120
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	121
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	121
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	122
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	123
(HTML中級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	123
経済原論a	野村 容康	春	木3	2	2	養・経・法	124
経済原論b	野村 容康	秋	木3	2	2	養・経・法	124
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	125
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	125
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金3	2	2	養・経・法	126

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※「情報科学各論(情報処理演習)」は言語が異なる場合でも重複履修はできません。

ドイツ語学科科目シラバス

09年度以降	総合ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	A. ヴェルナー 堤 那美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 1-4</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Ziel B1+ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅰの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅱへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	A. ヴェルナー 堤 那美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 5-8</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Ziel B1+ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅱの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅲへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅲ（既修）	担当者	D. フジサワ 青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 1-4</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅳ（既修）	担当者	D. フジサワ 青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 5-8</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴ～Ⅷへ進めません。		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Unterricht hat - durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung - die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).		Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Verben, Präsens 1 2. Verben, Präsens 2 3. Verben, Perfekt 1 4. Verben, Perfekt 2 5. Partizip II als Adjektiv 1 6. Partizip II als Adjektiv 2 7. Adjektivdeklination 1 8. Adjektivdeklination 2 9. Adjektivdeklination 3 10. Artikel und Artikelwörter 1 11. Artikel und Artikelwörter 2 12. Passiv 1 13. Passiv 2 14. Passiv 3 15. Wiederholung	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung (ca. 90 Minuten) Wiederholung und Hausaufgaben (ca. 90 Minuten)		
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
参考文献	PONS Grammatik Kurz & Bündig: Deutsch als Fremdsprache (ISBN: 978-3-12-562693-5)		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, schriftliche Tests		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Unterricht hat die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).		Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Präteritum 1 2. Präteritum 2 3. Präteritum 3 4. Pronomina 1 5. Pronomina 2 6. Pronomina 3 7. Konjunktiv II (1) 8. Konjunktiv II (2) 9. Konjunktiv II (3) 10. Präpositionen 1 11. Präpositionen 2 12. Konjunktiv I 13. Indirekte Rede 1 14. Indirekte Rede 2 15. Wiederholung	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung (ca. 90 Minuten) Wiederholung und Hausaufgaben (ca. 90 Minuten)		
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
参考文献	PONS Grammatik Kurz & Bündig: Deutsch als Fremdsprache (ISBN: 978-3-12-562693-5)		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, schriftliche Tests		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentation mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Dabei werden bei der Progression die Kompetenzen der Studierenden berücksichtigt. Niveau B1 ist jedoch vorausgesetzt.</p> <p>Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit sind nötig.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung des Semesters und Kennenlernen 2. Grammatische Übungen 3. Grammatik, z.B. Präpositionen 2 4. Konnektoren 2 5. Konnektoren 2 6. Modalverben 2 7. Modalpartikeln 2 8. Übungen 9. Sprachmittel verschiedener Sprachanlässe, z.B. 10. Entschuldigung 11. Ablehnung-Annahme 12. Einladung-Dank 13. Übungen 14. Übungen 15. Abschlussbesprechung, Evaluation 	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung, Hausaufgaben, Vorbereitung von Präsentationen, mindestens 90 Minuten pro Einheit		
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
参考文献	Grammatiken von B2 Niveau bis C2 Niveau		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Präsentationen, Aufgaben, Tests		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentation mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Dabei werden bei der Progression die Kompetenzen der Studierenden berücksichtigt. Niveau B1 ist jedoch vorausgesetzt.</p> <p>Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit sind nötig.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Planung des Semesters 2. Sprachliche Mittel für Mündliches Berichten 3. Präsentationen 4. Schriftliches Arbeiten 5. Schriftliche Präsentationen, usw. 6. Übungen 7. Übungen 8. Wissenschaftliches Arbeiten 9. Aufbau einer wissenschaftlichen Arbeit 10. Argumentationen mündlich 11. Argumentationen schriftlich 12. Interkulturelle Übungen 13. Interkulturelle Übungen 14. Erklärungen der eigenen Kultur 15. Abschlussbesprechung, Evaluation. 	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung, Hausaufgaben, Vorbereitung von Präsentationen, mindestens 90 Minuten pro Einheit		
テキスト	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
参考文献	Grammatiken von B2 Niveau bis C2 Niveau		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Präsentationen, Aufgaben, Tests		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅰ、Ⅱの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe-Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブ教員の授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1～7課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	『Schritte international Neu 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅰの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅱへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅰ、Ⅱの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe-Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブ教員の授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの8～14課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	『Schritte international Neu 2 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅱの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅲへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅲ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅲ、Ⅳの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA2レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe・Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1～7課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	『Schritte international Neu 3 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅳ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅲ、Ⅳの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA2レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe・Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの8～14課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	『Schritte international Neu 4 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴ～Ⅷへ進めません。		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><未修クラス（2～7組）> 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で、ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み、基本語彙、基本表現など）をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。 詳細（授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等）については、初回授業時に説明します。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 文字と発音について 6. } 教科書の1～10課 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業以外の学修、特に復習には積極的に取り組んでください。		
テキスト	矢羽々(他)：『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009		
参考文献			
評価方法	小テストを含む平常点と学期末統一試験の結果によって評価		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><未修クラス（2～7組）> 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で、ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み、基本語彙、基本表現など）をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 教科書の11～20課 6. } 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業以外の学修、特に復習には積極的に取り組んでください。		
テキスト	矢羽々(他)：『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009		
参考文献			
評価方法	小テストを含む平常点と学期末統一試験の結果によって評価		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><目的>「基礎ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で習得したドイツ語の基本的能力をさらに中級レベルへステップアップさせます。具体的には「応用ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」を終えた時点でGoethe-Zertifikat B1または独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p><概要>ドイツ語圏の社会や文化をテーマとしたドイツ語のテキストを読みながら、文法・語法・表現などを総合的かつ応用的に習得していきます。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p><注意事項>効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止です。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまうし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。*1週に2回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p>		第1週 授業の概要説明 第2週 文法 第3週 文法 第4週 文法/小テスト 第5週 テキスト 第6週 テキスト 第7週 テキスト/小テスト 第8週 テキスト 第9週 テキスト 第10週 テキスト/小テスト 第11週 テキスト 第12週 テキスト 第13週 テキスト/小テスト 第14週 テキスト 第15週 小テスト	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指定されたテキストを精読し、練習問題も解いておいてください。また、授業で学習した文法・語法・表現などが定着するよう、しっかり復習しておいてください。		
テキスト	<テキスト>同人社編集部編『ドイツ語ワークブック 文法+問題集』（同人社）2017年。Raab/石井『Neuigkeiten aus Deutschland 2016/2017 時事ドイツ語 2018年度版』（朝日出版社）2018年。		
参考文献	適宜指示します。		
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20% *定期試験は全クラス共通の統一試験で、学期中の規定欠席回数を超えると受験できません。		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><目的>「基礎ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で習得したドイツ語の基本的能力をさらに中級レベルへステップアップさせます。具体的には「応用ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」を終えた時点でGoethe-Zertifikat B1または独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p><概要>ドイツ語圏の社会や文化をテーマとしたドイツ語のテキストを読みながら、文法・語法・表現などを総合的かつ応用的に習得していきます。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p><注意事項>効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止です。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまうし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。*1週に2回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p>		第1週 授業の概要説明/テキスト 第2週 テキスト 第3週 テキスト/小テスト 第4週 テキスト 第5週 テキスト 第6週 テキスト/小テスト 第7週 テキスト 第8週 テキスト 第9週 テキスト /小テスト 第10週 テキスト 第11週 テキスト 第12週 テキスト/小テスト 第13週 テキスト 第14週 テキスト 第15週 小テスト	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱うテキストは、初回の授業で指示します。事前に指定されたテキストを精読し、練習問題も解いておいてください。また、授業で学習した文法・語法・表現などが定着するよう、しっかり復習しておいてください。		
テキスト	<テキスト>同人社編集部編『ドイツ語ワークブック 文法+問題集』（同人社）2017年。Raab/石井『Neuigkeiten aus Deutschland 2016/2017 時事ドイツ語 2018年度版』（朝日出版社）2018年。		
参考文献	適宜指示します。		
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20% *定期試験は全クラス共通の統一試験で、学期中の規定欠席回数を超えると受験できません。		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Die Dialoge für diese Klasse geben die Unterhaltung zwischen einem Vater und seinem heranwachsenden Sohn wieder. Dabei geht es lustig zu, und manchmal sind sie richtig frech. Hoffentlich sind Sie im Unterricht dann auch lustig und frech...</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<p>1.-4. Rassismus 5.-8. Haare 9.-12. Papa hat nichts gegen Italiener 13.-15. Emanzipation</p>	
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2-3mal pro Semester schreiben Sie einen Aufsatz mit 200 Wörtern zu Themen, die sich im Unterricht ergeben.		
テキスト	Kopien		
参考文献			
評価方法	Es gibt Punkte für die schriftliche Hausaufgabe/das Referat. Auch die Mitarbeit im Unterricht bewerte ich.		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Die Dialoge für diese Klasse geben die Unterhaltung zwischen einem Vater und seinem heranwachsenden Sohn wieder. Dabei geht es lustig zu, und manchmal sind sie richtig frech. Hoffentlich sind Sie im Unterricht dann auch lustig und frech...</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<p>1.-4. Hausarbeit ist keine Arbeit 5.-8. Umweltverschmutzung 9.-12. Pressefreiheit 13.-15. Die Datenbank</p>	
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2-3mal im Semester schreiben Sie einen Aufsatz mit 200 Wörtern zu Themen, die sich im Unterricht ergeben.		
テキスト	Kopien		
参考文献			
評価方法	Es gibt Punkte für die schriftliche Hausaufgabe/das Referat, und auch die Mitarbeit im Unterricht bewerte ich.		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Die Studierenden sollen vor allem lernen, korrektes und möglichst schönes Deutsch zu schreiben. Dabei werden Aspekte wie Satzbau, Formen und Stil berücksichtigt. Wenn möglich, werden die erlernten Fertigkeiten auf verschiedene Textsorten angewendet.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer mögen, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>			
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語での確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bezüglich Zeitaufwand je nach Kursinhalt variierende Aufgaben zur Vor- und Nachbereitung des Unterrichts.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Vor allem die aktive Mitarbeit und Leistung während des Kurses. Dazu gehören mindestens zwei schriftliche Aufgaben, während des Unterrichts oder als Hausaufgabe.		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des schriftlichen Ausdrucks. Ziel ist es, die schriftlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Situationen bewältigen können. Je nach Bedarf und Möglichkeit werden noch unbekannte Textsorten und Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer mögen, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>			
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語での確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bezüglich Zeitaufwand je nach Kursinhalt variierende Aufgaben zur Vor- und Nachbereitung des Unterrichts.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Vor allem die aktive Mitarbeit und Leistung während des Kurses. Dazu gehören mindestens zwei schriftliche Aufgaben, während des Unterrichts oder als Hausaufgabe.		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir sprechen über eine reiche Auswahl von Themen, die zum Teil von den Studierenden selbst bestimmt werden. Meist arbeiten wir in kleinen Gruppen bzw. in Paaren, die sich im Laufe des Kurses oft neu konstituieren.</p> <p>Neben dem Sprechen wird besonderer Wert auf gutes Zuhören gelegt, eine Grundvoraussetzung für gezielte Reaktionen auf die Äußerungen der Gesprächspartner. Im Rahmen des Kurses werden Gespräche aus den verschiedensten Lebensbereichen simuliert.</p> <p>Stets ist der Inhalt praxisbezogen und die Teilnehmer sind dazu angehalten, ihre eigenen Interessen geltend zu machen und ihre Lebenserfahrungen (eventuell in Form einer Videoaufnahme) in den Kurs einzubringen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Gemeinsame Auswahl der Themen für das Semester. 2. Thema 1: Gruppenbildung und Vorarbeit. 3. Thema 1: Bearbeitung in der Gruppe, Präsentation. 4. Thema 2: Gruppenbildung und Vorarbeit. 5. Thema 2: Bearbeitung in der Gruppe, Präsentation. 6. Thema 3: Gruppenbildung und Vorarbeit. 7. Thema 3: Bearbeitung in der Gruppe, Präsentation. 8. Thema 4: Gruppenbildung und Vorarbeit. 9. Thema 4: Bearbeitung in der Gruppe, Präsentation. 10. Thema 5: Gruppenbildung und Vorarbeit. 11. Thema 5: Bearbeitung in der Gruppe, Präsentation. 12. Thema 6: Gruppenbildung und Vorarbeit. 13. Thema 6: Bearbeitung in der Gruppe, Präsentation. 14. Rückblickende Übung und Absprache in Gruppen. 15. Interviews zur Bewertung, Evaluierung des Kurses. 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>			
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Eigenständige oder gemeinsame Bearbeitung von ausgeteilten Kurzartikeln. Schriftliche Zusammenfassung der Ergebnisse von Gruppendiskussionen.		
テキスト	Zu Beginn des Unterrichts werden entweder Fotokopien oder andere Vorgaben ausgehändigt.		
参考文献	Wechselspiel NEU. Michael Dreke, Wolfgang Lind. Klett, 2013		
評価方法	Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht; mündlicher Test (Gespräch) am Ende des Semesters.		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Bereits bei der Themenauswahl wird den Erfahrungen der Studierenden in den Sommerferien, ihrer Teilnahme an Klubaktivitäten und außerschulischen Betätigungen Rechnung getragen. Wer also neugierig ist und seinen Wortschatz über das eigene Interessensgebiet hinaus erweitern möchte, kann allein durch gutes Zuhören in diesem Kurs profitieren .</p> <p>Wir üben sowohl die spontane Gesprächsaufnahme und das rasche verbale Reagieren mithilfe vorgegebener Gesprächsabläufe als auch das überlegtere Fragen als Zuhörer bei formalen Präsentationen.</p> <p>Die Teilnehmer finden laufend Gelegenheiten ihre Interessen geltend zu machen, indem sie diverse Aspekte aus dem eigenen Erfahrungsbereich in den Kurs einbringen (z.B. in Form einer Videoaufnahme).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Gemeinsame Auswahl der Themen für das Semester. 2. Thema 7: Gruppenbildung und Vorarbeit. 3. Thema 7: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 4. Thema 8: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit. 5. Thema 8: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 6. Thema 9: Gruppenbildung und Vorarbeit. 7. Thema 9: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 8. Thema 10: Gruppenbildung und Vorarbeit. 9. Thema 10: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 10. Thema 11: Gruppenbildung und Vorarbeit. 11. Thema 11: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 12. Thema 12: Gruppenbildung und Vorarbeit. 13. Thema 12: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation. 14. Rückblickende Absprache in kleinen Gruppen. 15. Evaluatives Interview im Paar-Format. 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>			
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Öfters werden in der vorangehenden Stunde Kurzartikel zur Bearbeitung ausgeteilt. Ergebnisse von Gruppendiskussionen sind als Hausaufgabe schriftlich zusammenzufassen.		
テキスト	Zu Beginn des Unterrichts werden entweder Fotokopien oder andere Vorgaben ausgehändigt.		
参考文献	Wechselspiel NEU. Michael Dreke, Wolfgang Lind. Klett, 2013		
評価方法	Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht; mündlicher Test (Gespräch) am Ende des Semesters.		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des Hörverstehens anhand praktischer Beispiele. Dabei verwenden wir Hörtexte aus typischen Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen. Auch Hörbücher oder Hörspiele können eingesetzt werden.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, diese Hörtexte zu verstehen, sowie damit verbundene Aufgaben lösen. Dadurch werden sie in die Lage versetzt, sich nach und nach in einem deutschen Sprachumfeld besser zu orientieren.</p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Inhalt und Schwierigkeitsgrad der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer; wenn nötig und möglich, mit Binnendifferenzierung. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
<p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bezüglich Zeitaufwand je nach Kursinhalt variierende Aufgaben zur Vor- und Nachbereitung des Unterrichts		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Die aktive Mitarbeit und Leistung während des Kurses, sowie zwei schriftliche Aufgaben zum Hörverstehen während des Unterrichts..		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an alle Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Hörverstehens. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, das Hörverstehen der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere Hörtexte und sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer ; wenn nötig und möglich, mit Binnendifferenzierung.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
<p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bezüglich Zeitaufwand je nach Kursinhalt variierende Aufgaben zur Vor- und Nachbereitung des Unterrichts		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Die aktive Mitarbeit und Leistung während des Kurses, sowie zwei schriftliche Aufgaben zum Hörverstehen während des Unterrichts..		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen gemeinsam Texte zu allgemeinen Themen. Global- und Detailverständnis werden durch gezielt vom KL formulierte Aufgaben gesteuert.</p> <p>Durch begleitende Übungen wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) soll das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut werden.</p> <p>Inhalte und Progression richten sich nach dem durchschnittlichen Niveau der KursteilnehmerInnen.</p> <p>Das Niveau der Texte ist A1-A1+.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
<p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p>			
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回予習・復習すること		
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt 授業の始めに配布する独自の教材のプリント		
参考文献	独和辞典		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 授業中に行われる小テスト 80%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 授業に臨む姿勢 20% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen gemeinsam Texte zu allgemeinen Themen. Durch begleitende Übungen wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) soll das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut werden.</p> <p>Inhalte und Progression richten sich nach dem durchschnittlichen Niveau der KursteilnehmerInnen.</p> <p>Das Niveau der Texte ist A1+-A2.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
<p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p>			
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回予習・復習すること		
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt 授業の始めに配布する独自の教材のプリント		
参考文献	独和辞典		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 授業中に行われる小テスト 80%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 授業に臨む姿勢 20% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden wir das Schreiben vielfältiger Texte und Textsorten lernen: von Kommentaren bis hin zum Verfassen von Lebensläufen und Bewerbungsschreiben.</p> <p>Wir werden vor und nach jeder Unterrichtseinheit auch einen Einblick in die Grammatik haben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Themenauswahl 2. Einblick in die Grammatik / Redewendungen (Lebenslauf) 3. Lebenslauf (1) 4. Lebenslauf (2) 5. Einblick in die Grammatik / Redewendungen (Lebenslauf) 6. Lebenslauf (1) 7. Lebenslauf (2) 8. Einblick in die Grammatik (Zitertechniken) 9. Beispiele (Zitieren) 10. Einblick in die Grammatik (Zusammenfassung) 11. Zusammenfassung (1) 12. Zusammenfassung (2) 13. Einblick in die Grammatik (Kommentar) 14. Kommentar (1) 15. Kommentar (2) 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Das Verfassen der Texte, die Wiederholung der wichtigsten Grammatik Punkte sowie das Erstellen von Vokabellisten erfordert eine Vor- und Nachbereitungszeit von ungefähr 4 Stunden.		
テキスト	Beispieltexte werden ausgehändigt		
参考文献			
評価方法	Gute Vorkenntnisse, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. In die Benotung geht ebenfalls das Einreichen von 2 schriftlichen Texten sowie die Erledigung der Hausaufgaben ein.		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs geht es grundsätzlich um das Verfassen von zusammenhängenden Geschichten. Wir werden in Gruppen verschiedene Texte erarbeiten, die jeweils unterschiedliche Themengebiete und Grammatikstrukturen beinhalten.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Themenauswahl 2. Thema 1 3. Kapitel 1 4. Kapitel 2 5. Kapitel 3 6. Thema 2 7. Kapitel 1 8. Kapitel 2 9. Kapitel 3 10. Thema 3 11. Kapitel 1 12. Kapitel 2 13. Kapitel 3 14. Zusammenfassung 15. Vergleich der Texte 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Das Verfassen der Texte, in einzel- sowie Partnerarbeit, sowie das Erstellen von Vokabellisten erfordert eine Vor- und Nachbereitungszeit von ungefähr 4 Stunden.		
テキスト	Beispieltexte werden ausgehändigt		
参考文献			
評価方法	Gute Vorkenntnisse, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. In die Benotung geht ebenfalls das Einreichen von 2 schriftlichen Texten sowie die Erledigung der Hausaufgaben ein.		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir beginnen einfach, mit langsamen Fortschritt. Aktive und stetige Mitarbeit ist erforderlich für einen erfolgreichen Abschluss. Die Grundlage für Kommunikation und Tests ist das Lehrbuch.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Wiederholungen aller Art 3. Deutschlandkunde 4. Lektion 1 5. Lektion 2a 6. Lektion 2b 7. Kleiner Test und Video 8. Lektion 3a 9. Lektion 3b 10. Lektion 4a 11. Lektion 4b 12. Kleiner Test und Video 13. Lektion 5a 14. Lektion 5b 15. Zusammenfassung 	
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung des besprochenen Stoffes: 30 Minuten Vorbereitung der Aufgaben: 30 Minuten		
テキスト	Szenen 2 (ISBN978-4-384-13083-6) Sanshusha		
参考文献			
評価方法	Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Gleiche wie oben wird angewandt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Wiederholungen aus dem ersten Semester 3. Lektion 6a 4. Lektion 6b 5. Lektion 7a 6. Lektion 7b 7. Lektion 8a 8. Lektion 8b 9. Kleiner Test und Video 10. Lektion 9a 11. Lektion 9b 12. Lektion 10a 13. Lektion 10b 14. Kleiner Test und Video 15. Zusammenfassung/Abschluss 	
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung des besprochenen Stoffes: 30 Minuten Vorbereitung der Aufgaben: 30 Minuten		
テキスト	Lehrbuch wie oben: Szenen 2 (ISBN978-4-384-13083-6) Sanshusha		
参考文献			
評価方法	Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	N. カネマツ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des Hörverstehens anhand von Hörtexten aus authentischen Situationen. Auch Hörbücher oder Hörspiele sowie kurze Videos können eingesetzt werden. Dabei soll sowohl das globale, selektive wie auch das detaillierte Hörverstehen geschult werden. Die Studierenden lernen Hörtexte aus verschiedenen Kommunikationssituationen zu verstehen, sowie damit verbundene Aufgaben zu lösen. Dadurch werden sie in die Lage versetzt, sich nach und nach in einem deutschen Sprachumfeld besser zu orientieren. Die Wünsche der Studierenden werden, soweit möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kennenlernen, Erklärung zum Kursablauf 2. Erweiterte Selbstvorstellung 3. Essen 4. Hobbys 5. Familie 6. Wohnung 7. Tiere 8. Schule 9. Sport 10. Musik 11. Hörbuch 1 12. Hörbuch 2 13. Hörbuch 3 14. Hörbuch 4 15. Sendung mit der Maus 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung von neuem Wortschatz/Redewendungen, Vorbereitung für den Themeneinstieg der nächsten Stunde durch Mindmaps, Internetrecherche etc.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献	Es wird empfohlen immer ein Wörterbuch zum Unterricht mitzubringen.		
評価方法	Aktive Teilnahme und Leistung (Ausgabenblätter etc.) im Unterricht, Tests		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	N. カネマツ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an alle Kursinhalte im Sommersemester soll das Hörverstehen in diesem Kurs noch weiter ausgebaut werden. Ziel ist es, das Hörverstehen der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere Hörtexte und sprachliche Situationen bewältigen können. Auch Hörbücher oder Hörspiele sowie kurze Videos können eingesetzt werden. Dabei soll sowohl das globale, selektive wie auch das detaillierte Hörverstehen geschult werden. Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kennenlernen und Erklärung zum Kursablauf 2. Freizeit 3. Kindheit 4. Tagesablauf 5. Auslandsstudium 6. Nach dem Studium 7. Geld 8. Fernsehen 9. Müll 10. Mentalität 11. Hörspiel 12. Hörspiel 13. Hörspiel 14. Hörspiel 15. Sendung mit der Maus 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung von neuem Wortschatz/Redewendungen, Vorbereitung für den Themeneinstieg der nächsten Stunde durch Mindmaps, Internetrecherche etc.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献	Es wird empfohlen immer ein Wörterbuch zum Unterricht mitzubringen.		
評価方法	Aktive Teilnahme und Leistung (Ausgabenblätter etc.) im Unterricht, Tests		

09年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course aims to (1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p><i>Minimum TOEIC score required: 450</i></p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 Week 3: Listening passage 1, planning session 1 Week 4: Reading passage 2, planning session 2 Week 5: Listening passage 2, planning session 3 Week 6: Group presentations Week 7: Group presentations Week 8: Reading passage 3 Week 9: Listening passage 3 Week 10: Reading passage 4 Week 11: Listening passage 4 Week 12: Listening passage 5 Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations</p>	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students' primary responsibility outside of class will be preparing for their presentations. This will require several hours of concentrated work. There will also be other assignments such as summaries.		
テキスト	There is no textbook for this class. Handouts will be provided in class.		
参考文献	To be announced in class.		
評価方法	Class participation (20%), assignments (20%), presentations (30% x 2 = 60%)		

09年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course aims to (1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p><i>Minimum TOEIC score required: 450</i></p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 Week 3: Listening passage 1, planning session 1 Week 4: Reading passage 2, planning session 2 Week 5: Listening passage 2, planning session 3 Week 6: Group presentations Week 7: Group presentations Week 8: Reading passage 3 Week 9: Listening passage 3 Week 10: Reading passage 4 Week 11: Listening passage 4 Week 12: Listening passage 5 Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations</p>	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students' primary responsibility outside of class will be preparing for their presentations. This will require several hours of concentrated work. There will also be other assignments such as summaries.		
テキスト	There is no textbook for this class. Handouts will be provided in class.		
参考文献	To be announced in class.		
評価方法	Class participation (20%), assignments (20%), presentations (30% x 2 = 60%)		

09年度以降	総合ドイツ語V (既修)	担当者	D. フジサワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 9-12</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語VI (既修)	担当者	D. フジサワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 13-16</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
参考文献			
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ（スーパー）	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, ohne Lehrbuch interessante aktuelle Themen zu bearbeiten Grundsätzlich werden alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren und Diskutieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, Ihnen individuell angemessene Unterstützung und Förderung beim Aufbau auf Ihr hohes Sprachniveau zu bieten. Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen sowie Ihren jeweiligen Forschungsthemen.		1. Vorstellung des Kurskonzepts / Ihrer Interessen 2. Gesellschaft (1) 3. Gesellschaft (2) 4. Politik (1) 5. Politik (2) 6. Wirtschaft (1) 7. Wirtschaft (2) 8. Kultur (1) 9. Kultur (2) 10. Wissenschaft (1) 11. Wissenschaft (2) 12. Ihre Forschungsthemen (1) 13. Ihre Forschungsthemen (2) 14. Ihre Forschungsthemen (3) 15. Evaluation, Kursfazit	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Texte oder Kopien werden verteilt		
参考文献			
評価方法	Aktive Teilnahme am Unterricht und Beteiligung an gemeinsamen Aufgaben, Präsentation		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ（スーパー）	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, ohne Lehrbuch interessante aktuelle Themen zu bearbeiten Grundsätzlich werden alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren und Diskutieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, Ihnen individuell angemessene Unterstützung und Förderung beim Aufbau auf Ihr hohes Sprachniveau zu bieten. Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen sowie Ihren jeweiligen Forschungsthemen.		1. Vorstellung des Kurskonzepts / Ihrer Interessen 2. Gesellschaft (3) 3. Gesellschaft (4) 4. Politik (3) 5. Politik (4) 6. Wirtschaft (3) 7. Wirtschaft (4) 8. Kultur (3) 9. Kultur (4) 10. Wissenschaft (3) 11. Wissenschaft (4) 12. Ihre Forschungsthemen (4) 13. Ihre Forschungsthemen (5) 14. Ihre Forschungsthemen (6) 15. Evaluation, Kursfazit	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Texte oder Kopien werden verteilt		
参考文献			
評価方法	Aktive Teilnahme am Unterricht und Beteiligung an gemeinsamen Aufgaben, Präsentation		

09年度以降	総合ドイツ語V (標準)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業(週2コマ)により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe-Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意! 未修クラスの学生用には、Aクラス(総合ドイツ語IVの成績がA以上の学生用)とBクラス(同、B以下の学生用)が開設されます。既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語V」(既修クラス用)を受講してください。詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1~7課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	『Schritte international 5 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) >初回授業時までに購入		
参考文献			
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語VI (標準)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業(週2コマ)により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe-Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意! 未修クラスの学生用には、Aクラス(総合ドイツ語Vの成績がA以上の学生用)とBクラス(同、B以下の学生用)が開設されます。既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語VI」(既修クラス用)を受講してください。詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの8~14課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	『Schritte international 6 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) >初回授業時までに購入		
参考文献			
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ（標準）	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 「総合ドイツ語Ⅶ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、「総合ドイツ語Ⅶ(Super-Deutsch)」（スーパー）を必ず受講してください。 詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1～4課 各教員が追加教材を適宜準備する</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）初回授業時までに購入。 （総合ドイツ語Ⅶ,Ⅷでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。）		
参考文献			
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ（標準）	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 「総合ドイツ語Ⅷ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、「総合ドイツ語Ⅷ (Super-Deutsch)」（スーパー）を必ず受講してください。 詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの5～8課 各教員が追加教材を適宜準備する</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber） （総合ドイツ語Ⅶ,Ⅷでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。）		
参考文献			
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden wir die Sicherheit beim Verstehen schriftlicher Texte (vor allem Zeitungsartikel aus "Der Zeit") fördern. Die Verbesserung der rezeptiven Fähigkeiten erfolgt durch Texte verschiedener Schwierigkeitsstufen, die -je nach Interesse und den individuellen Ansprüchen der Studierenden - sozialpolitische Aspekte behandeln.</p> <p>Der Kurs wendet sich an diejenigen, die schon Artikel aus dem Alltag sowie Berichte oder literarische Texte mit komplexen Satzstrukturen verstehen können.</p> <p>Begleitend zu den Artikeln werden wir uns auch mit anderen Textformen beschäftigen, die unter anderem das gleiche Thema behandeln. Auch soll es sprachliche Einheiten geben, bei denen über das Gelesene diskutiert wird.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Themenvorstellung 2. Strategien beim Lesen komplexer Texte 3. Aufbau von Zeitungstexten 4. Politik und Zeitgeschehen (1) 5. Politik und Zeitgeschehen (2) 6. Politik und Zeitgeschehen (3) 7. Verschiedenes 8. Gesellschaft und Kultur (1) 9. Gesellschaft und Kultur (2) 10. Gesellschaft und Kultur (3) 11. Gesellschaft und Kultur (4) 12. Verschiedenes 13. Sport (1) 14. Sport (2) 15. Sport (3) 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Das Verstehen der Texte, das Lösen der Hausaufgaben sowie das Erstellen von Vokabellisten erfordert eine Vor- und Nachbereitungszeit von ungefähr 4 Stunden.		
テキスト	Artikel werden ausgehändigt		
参考文献			
評価方法	Gute Vorkenntnisse, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. In die Benotung gehen ebenfalls 2 Tests und die Erledigung der Hausaufgaben ein.		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Literatur der 90er und der 00er Jahre</p> <p>In diesem Kurs werden wir literarische Texte deutscher Schriftsteller lesen und sie u.a. auch genauer nach textanalytischen Aspekten untersuchen. Dieses Seminar gibt uns auch begleitend zur Förderung des Leseverstehens einen interessanten Einblick in die Eigenheiten der erzählten Figuren.</p> <p>Die Liste der zu behandelnden Autoren kann sich ändern.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung, Kommentare, Kritiken und Artikel zu den literarischen Texten (1) 2. Kommentare, Kritiken und Artikel zu den literarischen Texten (2) 3. Christian Kracht 4. Christian Kracht 5. Christian Kracht 6. Rocko Schamoni 7. Rocko Schamoni 8. Rocko Schamoni 9. Heinz Strunk 10. Heinz Strunk 11. Heinz Strunk 12. Sven Regener 13. Sven Regener 14. Sven Regener 15. Frank Goosen 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Das Verstehen der Texte, das Lösen der Hausaufgaben sowie das Erstellen von Vokabellisten erfordert eine Vor- und Nachbereitungszeit von ungefähr 4 Stunden.		
テキスト	Artikel werden ausgehändigt		
参考文献			
評価方法	Gute Vorkenntnisse, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt. In die Benotung gehen ebenfalls 3 Tests und die Erledigung der Hausaufgaben ein.		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Mittelpunkt steht die kursorische Lektüre von Texten zu verschiedenen Themen zur Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Erörterung des Inhalts liegt der Schwerpunkt auf kulturvergleichenden Aspekten Japan-Deutschland.</p> <p>Globalverstehen wie Detailverstehen werden durch vom Kursleiter vorbereitete gezielt formulierte Aufgaben zum Text gesteuert. MP4-Dateien und Zusatzmaterialien aus diversen Medien dienen ergänzend zur Illustration des im Text vermittelten Inhalts.</p> <p>Durch begleitende Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) dienen der Wiederholung zentraler grammatischer Aspekte des in bisherigen Kursen wie den Sogo-Kursen erarbeiteten Stoffes. Das Niveau der Texte reicht von A2 bis B1.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
参考文献	独和辞典、インターネット検索		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 70%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 30% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Mittelpunkt steht die kursorische Lektüre von Texten zu verschiedenen Themen zur Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Erörterung des Inhalts liegt der Schwerpunkt auf kulturvergleichenden Aspekten Japan-Deutschland.</p> <p>Globalverstehen wie Detailverstehen werden durch vom Kursleiter vorbereitete gezielt formulierte Aufgaben zum Text gesteuert. MP4-Dateien und Zusatzmaterialien aus diversen Medien dienen ergänzend zur Illustration des im Text vermittelten Inhalts.</p> <p>Durch begleitende Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) dienen der Wiederholung zentraler grammatischer Aspekte des in bisherigen Kursen wie den Sogo-Kursen erarbeiteten Stoffes. Das Niveau der Texte reicht von B1 bis C1(ggf. C2).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
参考文献	独和辞典、インターネット検索		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 70%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 30% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Die Studierenden sollen vor allem lernen, korrektes und möglichst schönes Deutsch zu schreiben. Dabei werden Aspekte wie Satzbau, Formen und Stil berücksichtigt. Wenn möglich, werden die erlernten Fertigkeiten auf verschiedene Textsorten angewendet.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bezüglich Zeitaufwand je nach Kursinhalt variierende Aufgaben zur Vor- und Nachbereitung des Unterrichts.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Vor allem die aktive Mitarbeit und Leistung während des Kurses. Dazu gehören mindestens zwei schriftliche Aufgaben, während des Unterrichts oder als Hausaufgabe.		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des schriftlichen Ausdrucks. Ziel ist es, die schriftlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <p>Je nach Bedarf und Möglichkeit werden noch unbekannt Textsorten und Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bezüglich Zeitaufwand je nach Kursinhalt variierende Aufgaben zur Vor- und Nachbereitung des Unterrichts.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Vor allem die aktive Mitarbeit und Leistung während des Kurses. Dazu gehören mindestens zwei schriftliche Aufgaben, während des Unterrichts oder als Hausaufgabe.		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	N. カネマツ
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lernen die Studierenden sich in verschiedenen Textsorten passend und korrekt auszudrücken. Die schriftliche Ausdrucksfähigkeit steht im Mittelpunkt. Neben der Wiederholung und Vertiefung von Grammatik und Satzbau sollen auch die Textstruktur und der Stil trainiert sowie bestimmte Floskeln und Idiome eingeführt werden. Ergänzend werden thematisch passende Texte im Unterricht bearbeitet sowie aktiv diskutiert, so dass neben der Schreibfertigkeit auch das Lesen, Hören und Sprechen geübt wird. Weiterhin wird ein kurzes Projekt durchgeführt, bei dem verschiedene gesellschaftliche Themen in Bezug auf Japan und Deutschland verglichen werden. Wünsche der Studierenden werden soweit möglich, berücksichtigt.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kennenlernen und Erklärung zum Kursablauf 2. private SMS/ E-Mail 3. Brief/ Postkarte aus dem Urlaub 4. Tagebuch 5. Bildergeschichte 6. offizielle E-Mail 7. offizieller Brief 8. Bericht 1 9. Bericht 2 10. Projekt: Gesellschaft: Vergleich Japan–Deutschland 11. Projekt: Gesellschaft: Vergleich Japan–Deutschland 12. Projekt: Gesellschaft: Vergleich Japan–Deutschland 13. Projekt: Gesellschaft: Vergleich Japan–Deutschland 14. Stellungnahme 1 15. Stellungnahme 2 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Schriftliche Hausaufgaben in verschiedenem Umfang, entsprechend den jeweiligen Kursinhalten.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献	中島悠爾『必携 ドイツ文法総まとめ』白水社. Bitte auch immer ein Wörterbuch mitbringen.		
評価方法	Die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und benotete Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein schriftlicher Test.		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	N. カネマツ
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Schwerpunkt des Kurses liegt, wie schon im Sommersemester, auf dem schriftlichen Ausdruck. Studierende bearbeiten noch nicht behandelte Textsorten und vertiefen dabei ihr Wissen zur Grammatik, Satz- und Textstruktur und zum Stil. Für die Anlässe typische Redewendungen werden eingeführt. Zusätzlich wird mit zu den Themen passenden Texten gearbeitet und im Unterricht aktiv diskutiert, so dass neben der Schreibfertigkeit auch das Lesen, Hören und Sprechen geschult wird. Weiterhin wird ein Projekt durchgeführt, bei dem die Studierenden selbst eine Zeitung erstellen. Wünsche der Studierenden werden, soweit möglich, berücksichtigt.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kennenlernen, Erklärung zum Kursablauf 2. Buch-/Filmkritik 1 3. Buch-/Filmkritik 2 4. Interview 1 5. Interview 2 6. Porträt/Biografie 7. Kommentar 1 8. Kommentar 2 9. Werbung/Anzeigen 10. Comic /Rätsel 11. Projekt: Wir machen unsere Zeitung! 12. Projekt: Wir machen unsere Zeitung! 13. Projekt: Wir machen unsere Zeitung! 14. Projekt: Wir machen unsere Zeitung! 15. Projekt: Abschlussdiskussion 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Schriftliche Hausaufgaben in verschiedenem Umfang, entsprechend den jeweiligen Kursinhalten.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献	中島悠爾『必携 ドイツ文法総まとめ』白水社. Bitte auch immer ein Wörterbuch mitbringen.		
評価方法	Die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und benotete Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein schriftlicher Test.		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studentinnen und Studenten im dritten und vierten Studienjahr mit Niveau A2 / B1. Ziel des Unterrichts ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks. Geübt wird das Schreiben von Texten mit Alltagsbezug (insbesondere Briefe, E-Mail und andere schriftliche Mitteilungen). Der Unterricht verläuft in vier Schritten: (1) Vokabeln sammeln, (2) Vorstellung typischer Strukturen und Wendungen, (3) Texte mit Hilfestellungen schreiben und (4) Texte selbstständig verfassen.</p> <p>Die regelmäßige Teilnahme wird als selbstverständlich vorausgesetzt. Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer müssen für die Mitarbeit Schreibmaterial (A4-Papier, Stifte) sowie ein (elektronisches) Wörterbuch (aber kein Smartphone!) dabei haben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung in den Kurs 2. Thema 1: Einkaufen (1) 3. Thema 1: Einkaufen (2) 4. Thema 2: Wohnen (1) 5. Thema 2: Wohnen (2) 6. Thema 3: Arbeit (1) 7. Thema 3: Arbeit (2) 8. Zusammenfassung 1 (Thema 1, 2, 3) 9. Thema 4: Gesundheit (1) 10. Thema 4: Gesundheit (2) 11. Thema 5: Ausbildung (1) 12. Thema 5: Ausbildung (2) 13. Thema 6: Versicherung (1) 14. Thema 6: Versicherung (2) 15. Zusammenfassung 2 (Thema 4, 5, 6) 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Zur Wiederholung des gelernten Unterrichtsstoffes und zur Vorbereitung auf die nächste Unterrichtseinheit sollen die Teilnehmer rund 90 Minuten einplanen.		
テキスト	Die Unterrichtsmaterialien werden als Kopien im Kurs verteilt.		
参考文献			
評価方法	(1) aktive Mitarbeit im Unterricht 10%, (2) einzureichende schriftliche Arbeiten 40%, (3) zwei Kurztests im Rahmen des Unterrichts 50%		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studentinnen und Studenten im dritten und vierten Studienjahr mit Niveau A2 / B1. Ziel des Unterrichts ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks. Geübt wird das Schreiben von Texten mit Berufsbezug (insbesondere Briefe, E-Mail und andere schriftliche Mitteilungen). Jede Unterrichtseinheit besteht aus den folgenden drei Arbeitsschritten: (1) rezeptiv = Texte verstehen, (2) semi-reproduktiv = Texte mit Hilfestellungen schreiben und (3) produktiv = Texte selbstständig schreiben.</p> <p>Die regelmäßige Teilnahme wird als selbstverständlich vorausgesetzt. Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer müssen für die Mitarbeit Schreibmaterial (A4-Papier, Stifte) sowie ein (elektronisches) Wörterbuch (aber kein Smartphone!) dabei haben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung in den Kurs 2. Thema 1: Lebenslauf 3. Thema 2: Formulare 4. Thema 3: Interessen 5. Thema 4: Beruf und Ausbildung 6. Thema 5: Anschreiben 7. Wiederholungsübungen 8. Zusammenfassung 1 (Themen 1 bis 5) 9. Thema 6: Betriebsvorstellung 10. Thema 7: Termine 11. Thema 8: Aufträge 12. Thema 9: Praktikumsbericht 13. Thema 10: Verträge 14. Wiederholungsübungen 15. Zusammenfassung 2 (Themen 6 bis 10) 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Zur Wiederholung des gelernten Unterrichtsstoffes und zur Vorbereitung auf die nächste Unterrichtseinheit sollen die Teilnehmer rund 90 Minuten einplanen.		
テキスト	Die Unterrichtsmaterialien werden als Kopien im Kurs verteilt.		
参考文献			
評価方法	(1) aktive Mitarbeit im Unterricht 10%, (2) einzureichende schriftliche Arbeiten 40%, (3) zwei Kurztests im Rahmen des Unterrichts 50%		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	D. フジサワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Sprechen als produktive Sprachfertigkeit nimmt bei der zwischenmenschlichen Kommunikation eine primäre Stellung ein. Daher gilt es in diesem Kurs diese Fertigkeit zu trainieren, zu verbessern und auch im Kontakt mit DeutschsprecherInnen anzuwenden. Phonetikübungen (Phonemebene) schaffen dabei die Grundlage für eine authentische Aussprache. Zudem sollen Präsentationen zu unterschiedlichen Themen erarbeitet und in einer abschließenden Diskussion besprochen werden (allein, mit Partner und in Gruppen).</p> <p>Im Austausch mit deutschen Studierenden erfolgt außerdem ein Videochat-Projekt, das parallel zum Kurs abläuft, im Unterricht vorbereitet und von zu Hause aus koordiniert wird.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Semestereinführung 2. Einführung in die Phonetik I 3. Vorbereitung „Mein Lieblingsort“ 4. Präsentation „Mein Lieblingsort“ I 5. Präsentation „Mein Lieblingsort“ II 6. Präsentation „Mein Lieblingsort“ III 7. Vorbereitung „Ich interessiere mich für...“ 8. Präsentation „Ich interessiere mich für...“ I 9. Präsentation „Ich interessiere mich für...“ II 10. Präsentation „Ich interessiere mich für...“ III 11. Vorbereitung „Erfindungen“ 12. Präsentation „Erfindungen“ I 13. Präsentation „Erfindungen“ II 14. Präsentation „Erfindungen“ III 15. Kursabschluss: Zusammenfassung und Diskussion 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Themen zu den Präsentationen müssen zu Hause vorbereitet werden.		
テキスト	Alle Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Mitarbeit im Unterricht; Vorbereitung der Präsentationen; Präsentation zu den unterschiedlichen Themen als Einzel-, Partner- und Gruppenarbeit.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	D. フジサワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Auf Ebene der Prosodie (Wort- und Satzaccent, Intonation, Rhythmus, etc.) werden in diesem Kurs über das Semester verteilt mehrere kurze Phonetikübungen behandelt, um Hinweise für die Verbesserung der Aussprache zu liefern.</p> <p>Im Zentrum des Kurses stehen die Präsentationen zu den Themen „Aktuelle Nachrichten“, „Alltag an der Dokkyo Universität“, „Interview auf Deutsch“ und „Deutschland - Japan“. Die Präsentationen zu diesen Themen werden in Einzel-, Partner- und Gruppenarbeit erarbeitet und bieten in einer abschließenden Diskussion Gesprächsanlass zum weiteren Gedankenaustausch.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Semestereinführung 2. Einführung in die Phonetik II 3. Vorbereitung „Alltag an der Dokkyo Universität“ 4. Präsentation „Alltag an der Dokkyo Universität“ I 5. Präsentation „Alltag an der Dokkyo Universität“ II 6. Präsentation „Alltag an der Dokkyo Universität“ III 7. Vorbereitung „Interview auf Deutsch“ 8. Präsentation „Interview auf Deutsch“ I 9. Präsentation „Interview auf Deutsch“ II 10. Präsentation „Interview auf Deutsch“ III 11. Vorbereitung „Deutschland - Japan“ 12. Präsentation „Deutschland - Japan“ I 13. Präsentation „Deutschland - Japan“ II 14. Präsentation „Deutschland - Japan“ III 15. Kursabschluss: Zusammenfassung und Diskussion 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Themen zu den Präsentationen müssen zu Hause vorbereitet werden.		
テキスト	Alle Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Mitarbeit im Unterricht; Vorbereitung der Präsentationen; Präsentation zu den unterschiedlichen Themen als Einzel-, Partner- und Gruppenarbeit.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs soll Deutsch aufgefrischt werden und gefestigt werden. Hierzu dient ein Hörspiel „Der Auftrag“ um das Hörverstehen, das Leseverstehen, die Grammatik, den schriftlichen und den mündlichen Ausdruck zu verbessern. Das Hörspiel und der Text bestehen aus 28 Folgen, in denen eine systematische Progression (A1 bis Ende A2) bei Wortschatz, Grammatik und Schwierigkeit der Texte angelegt ist. Die Geschichte ist spannend und amüsant zugleich. Im Sommersemester 2018 wird der erste Teil Folge 1-14 gemacht. Der zweite Teil folgt dann im Wintersemester 2018/19 (Folge 15-28). In der vorletzten Stunde im Semester wird ein Test geschrieben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Erklärung des Kurses 2. Situation 1 HV 1 (HV Hörverstehen) 3. Situation 2 HV 2 4. Situation 3 HV 3 5. Situation 4 HV 4 6. Situation 5 HV 5 7. Situation 6 HV 6 8. Situation 7 HV 7 9. Situation 8 HV 8 10. Situation 9 HV 9 11. Situation 10 HV 10 12. Situation 11 HV 11 13. Situation 12 HV 12 14. Test, Situation 13 HV 13 15. Situation 14 HV 14 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, die Sprechübungen und die Redemittel zu Hause zu üben.		
テキスト	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.		
参考文献			
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Wintersemester 2018/19 wird der Kurs vom Sommersemester 2018 weitergeführt. (s.o.). Hierzu werden die Hörverstehentexte L.15-28 bearbeitet. In der vorletzten Stunde im Wintersemester wird ein Test geschrieben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Erklärung des Kurses 2. Wiederholung der bisherigen Geschichte 3. Situation 15 HV 15 4. Situation 16 HV 16 5. Situation 17 HV 17 6. Situation 18 HV 18 7. Situation 19 HV 19 8. Situation 20 HV 20 9. Situation 21 HV 21 10. Situation 22 HV 22 11. Situation 23 HV 23 12. Situation 24 HV 24 13. Situation 25 HV 25 14. Test, Situation 26 HV 26 15. Situation 27,28 HV 27,28 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, die Sprechübungen und Redemittel zu Hause zu üben.		
テキスト	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.		
参考文献			
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs wollen wir deutsche Lieder lesen und singen. Anhand der Texte lernen wir das Leben der Deutschen kennen.</p> <p>Wir machen kleine Interviews zu Themen, die Sie interessieren. Sie sollen lernen, Ihre Ideen auf Deutsch auszudrücken. Sie reden, nicht ich.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Der Winter ist vergangen 2. Im Märzen der Bauer 3. Der Mai ist gekommen 4. Wie schön blüht uns der Maien 5. Komm lieber Mai 6. Im Frühtau zu Berge 7. Das Wandern ist des Müllers Lust 8. Klar wie der Morgenstern 9. Wenn ich ein Vöglein wär 10. Aus grauer Städte Mauern 11. Muss i denn 12. Horch was kommt von draußen rein 13. Einst macht ich mich auf 14. Wenn ins wogende Gras 15. Nehmt Abschied, Brüder 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2-3mal im Semester schreiben Sie einen Aufsatz mit 200 Wörtern zu Themen, die sich beim Besprechen der Lieder ergeben, oder Sie halten ein Referat.		
テキスト	Wir benutzen Kopien.		
参考文献			
評価方法	Für die schriftlichen Hausaufgaben/das Referat gibt es Punkte, und für die Mitarbeit im Unterricht.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs wollen wir deutsche Lieder lesen und singen. Anhand der Texte lernen wir das Leben der Deutschen kennen.</p> <p>Wir machen kleine Interviews zu Themen, die Sie interessieren, damit Sie lernen, Ihre Ideen auf Deutsch auszudrücken. Sie sprechen, nicht ich.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Schiffe im Hafen 2. Heut kommt der Hans nach Haus 3. Sah ein Knab ein Röslein stehn 4. Am Brunnen vor dem Tore 5. Ich weiss nicht, was soll es bedeuten 6. O du lieber Augustin 7. Auf einem Baum ein Kuckuck 8. Heissa Kathreinerle 9. Guten Abend 10. Lass doch der Jugend ihren Lauf 11. Ja, mein Schatz ist wunderschön 12. Bunt sind schon die Wälder 13. Weihnachtslieder 14. Die Affen rasen durch den Wald 15. Kein schöner Land in dieser Zeit 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2-3mal im Semester schreiben Sie zu Hause einen Aufsatz mit 200 Wörtern, zu Themen, die sich beim Besprechen der Lieder ergeben.		
テキスト	Wir benutzen Kopien.		
参考文献			
評価方法	Für die schriftlichen Hausaufgaben/Referate gibt es Punkte, sowie für die Mitarbeit im Unterricht.		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Unterrichtsstruktur</i> Bewusstmachung des Themas, Vorabsammlung von Vokabular (Assoziogramm) Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien. Nach Bearbeitung jeweils eines Aufgabenblockes werden die Lösungen sowie der folgende Aufgabenblock verteilt. Die Inhalte und die Progression bestimmen sich aus dem durchschnittlichen Niveau der Teilnehmer.</p> <p><i>Themen (Auswahl)</i> Verwendet werden vom Kursleiter didaktisierte Materialien (MP3- / MP4-Dateien)</p> <ol style="list-style-type: none"> Liebe und Beziehungen (1): MP4 – Popsong Liebe und Beziehungen (2): MP4 – Lorient-Sketch 1 Liebe und Beziehungen (3): MP4 – Lorient-Sketch 2 Liebe und Beziehungen (4): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 1 Liebe und Beziehungen (5): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 2 Heimat und Erfahrung von Fremde (1): MP3/4 – Interview Heimat und Erfahrung von Fremde (2): MP3/4 – Interview Deutsche Kultur: MP3 – Radio-Interview Japaner in Deutschland: MP4 – Fernsehbericht Urlaub in Deutschland: MP3/MP4 – Fernsehbericht/Interviews Deutsche Geschichte: Wiedervereinigung: MP4 – kritischer Popsong Weihnachten in Deutschland (1): MP4 – Fernseh-Bericht Weihnachten in Deutschland (2): MP4 – Lorient-Sketch <p><i>Niveau</i> Das Niveau der vom Kursleiter zu den Materialien erstellten Aufgaben umfasst die Stufen A2 bis B2. Die Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas / Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung, Schütteltext etc.) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen: Fragen zum Vokabular, Lückentext, Diktat etc.).</p> <p><i>Arbeitsformen</i> Themenvorbereitung durch Diskussion in Plenum. Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit</p>		<ol style="list-style-type: none"> Einführung Thema 1 Thema 2 Zwischentest I Thema 3 Thema 4 Thema 5 Zwischentest II Thema 6 Thema 7 Thema 8 Zwischentest III Thema 9 Thema 10 Zwischentest IV 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung der Unterrichtsinhalte		
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
参考文献	独和辞典		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 70%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 30% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Unterrichtsstruktur</i> Bewusstmachung des Themas, Vorabsammlung von Vokabular (Assoziogramm) Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien. Nach Bearbeitung jeweils eines Aufgabenblockes werden die Lösungen sowie der folgende Aufgabenblock verteilt. Die Inhalte und die Progression bestimmen sich aus dem durchschnittlichen Niveau der Teilnehmer.</p> <p><i>Themen (Auswahl)</i> Verwendet werden vom Kursleiter didaktisierte Materialien</p> <ol style="list-style-type: none"> Telenovela Jojo 1 (33 Folgen): MP4 Folge einer aktuellen deutschen Krimiserie: MP4-Dateien <p><i>Niveau</i> Das Niveau der vom Kursleiter zu den Materialien erstellten Aufgaben umfasst die Stufen B1/B2 bis C1. Die Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas / Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung, Schütteltext etc.) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen: Fragen zum Vokabular, Lückentext, Diktat etc.).</p> <p><i>Arbeitsformen</i> Themenvorbereitung durch Diskussion in Plenum. Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit</p>		<ol style="list-style-type: none"> Einführung Jojo 1-5 Jojo 6-9 Jojo 10-13 Zwischentest I Jojo 14-17 Jojo 18-21 Jojo 22-25 Zwischentest II Jojo 26-29 Jojo 30-33 Zwischentest III Krimiserie (1) mit Leistungskontrolle Krimiserie (2) mit Leistungskontrolle Krimiserie (3) mit Leistungskontrolle 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung der Unterrichtsinhalte		
テキスト	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
参考文献	独和辞典		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 70%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 30% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studentinnen und Studenten im dritten und vierten Studienjahr. Hauptziel des Unterrichts ist die Verbesserung des Hörverständnisses.</p> <p>Inhaltlich werden Höraufgaben zu unterschiedlichen Situationen im Alltag gestellt.</p> <p>Die kontinuierliche Teilnahme am Kurs wird als selbstverständlich vorausgesetzt, ebenso das Interesse an der Zielsetzung des Kurses und die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Mitarbeit.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung in den Kurs / Einstiegsübungen 2. Thema 1: Zur Person 3. Thema 2: Wohnen (1) 4. Thema 2: Wohnen (2) 5. Thema 3: Freunde (1) 6. Thema 3: Freunde (2) 7. Thema 4: Geld 8. Thema 5: Sport 9. Thema 6: Arbeit (1) 10. Thema 6: Arbeit (2) 11. Thema 7: Reise 12. Thema 8: Medien (1) 13. Thema 8: Medien (2) 14. Thema 9: Alltag 15. Evaluation des Semesters 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Jede Unterrichtsstunde muss selbstständig intensiv wiederholt bzw. durch Aufgaben vorbereitet werden. Die Teilnehmer sollen hierzu rund 90 Minuten einplanen.		
テキスト	Materialien für den Unterricht werden als Kopien im Kurs verteilt.		
参考文献			
評価方法	Kurze Tests im Rahmen des Unterrichts (80%), aktive Mitarbeit im Unterricht (20%)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studentinnen und Studenten im dritten und vierten Studienjahr. Hauptziel des Unterrichts ist die Verbesserung des Hörverständnisses.</p> <p>In diesem Semester werden Hörspiele unterschiedlicher Länge aus verschiedenen Genres gehört. Ziel ist es, die Hörspiele in ihrer Gesamtheit zu erfassen und wichtige Textstellen möglichst genau zu verstehen.</p> <p>Die kontinuierliche Teilnahme am Kurs wird als selbstverständlich vorausgesetzt, ebenso das Interesse an der Zielsetzung des Kurses und die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Mitarbeit.</p> <p>Einige Hörspiele im MP3-Format können vom Uni-Computer heruntergeladen werden.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Hörspiel 1: Kinderhörspiel / Einführung in den Kurs 2. Hörspiel 2: Kinderhörspiel 3. Hörspiel 3: Märchen 4. Hörspiel 4: Phantasy – „Jules Verne“ (Teil 1) 5. Hörspiel 4: (Teil 2) 6. Hörspiel 4: (Teil 3) 7. Hörspiel 4: (Teil 4) 8. Hörspiel 5: Krimi – „Sherlock Holmes“ (Teil 1) 9. Hörspiel 5: (Teil 2) 10. Hörspiel 6: Krimi – „Der Verräter“ (Teil 1) 11. Hörspiel 6: (Teil 2) 12. Hörspiel 7: Theaterstück – „Terror“ (Teil 1) 13. Hörspiel 7: (Teil 2) 14. Hörspiel 7: (Teil 3) 15. Evaluation des Semesters 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Jede Unterrichtsstunde muss selbstständig intensiv wiederholt bzw. durch Aufgaben vorbereitet werden. Die Teilnehmer sollen hierzu rund 90 Minuten einplanen.		
テキスト	Materialien für den Unterricht werden als Kopien im Kurs verteilt.		
参考文献			
評価方法	Kurze Tests im Rahmen des Unterrichts (80%), aktive Mitarbeit im Unterricht (20%)		

09年度以降	中世ドイツ語 a	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Unterricht soll in die Lage versetzen, mittelhochdeutsche Texte lesen und übersetzen zu können.</p> <p>Neben der systematischen Beschreibung des Mittelhochdeutschen (Erwerb solider Grammatikkenntnisse) wird die historische Stellung des Mittelhochdeutschen innerhalb der Geschichte der deutschen Sprache besonders berücksichtigt, speziell die semantische Entwicklung, die Bedeutungsdivergenz mittelhochdeutscher und gegenwartsprachlicher Wörter, die syntaktischen und morphologischen Unterschiede sowie Genitivkonstruktionen, Negation, Formen der Verben.</p>		<p>Die Texte und Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3. Ritterlich-höfische Welt 4. Wolfram von Eschenbach, Parzival 5. Hartmann von Aue, Iwein 6. Hartmann von Aue, Erech 7. Bäuerliche Welt 8. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 9. Wittenwiler, Der Ring 10. Heldenepik 11. Nibelungenlied 1 12. Nibelungenlied 2 13. Nibelungenlied 3 14. Nibelungenlied 4 15. Wiederholung 	
到達目標	中世ドイツ語圏の文化の基礎、中世ドイツ語の基本文法を理解し、基本的な文章を読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung, eventuell Übersetzung ins Japanische (ca. 90 Minuten)		
テキスト	Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. im Unterricht verteilt bzw. im Unterricht verteilt		
参考文献	Hilker Weddige, Mittelhochdeutsch. Eine Einführung		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test		

09年度以降	中世ドイツ語 b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aus der Zeit des 12. bis 14. Jahrhunderts, der ersten Blütezeit der deutschsprachigen Literatur, sind viele interessante, komische, humorvolle und berührende Texte erhalten, die uns Einblick geben in das Denken und Leben und die Träume der mittelalterlichen Menschen.</p> <p>Solche Texte im Original zu lesen ist reizvoll und gar nicht so schwierig. Grammatik und Rechtschreibung waren nicht so kompliziert und geregelt wie im heutigen Deutsch.</p>		<p>Die Texte und Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hartmann von Aue, Iwein 1 2. Hartmann von Aue, Iwein 2 3. Hartmann von Aue, Iwein 3 4. Hartmann von Aue, Iwein 4 5. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 1 6. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 2 7. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 3 8. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 4 9. Wolfram von Eschenbach, Parzival 1 10. Wolfram von Eschenbach, Parzival 2 11. Wolfram von Eschenbach, Parzival 3 12. Wolfram von Eschenbach, Parzival 4 13. Wolfram von Eschenbach, Parzival 5 14. Wolfram von Eschenbach, Parzival 6 15. Wiederholung 	
到達目標	中世ドイツ語圏の文化の基礎、中世ドイツ語の基本文法を理解し、基本的な文章を読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung, eventuell Übersetzung ins Japanische (ca. 90 Minuten)		
テキスト	Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. im Unterricht verteilt bzw. im Unterricht verteilt		
参考文献	Hilker Weddige, Mittelhochdeutsch. Eine Einführung		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test		

09年度以降	ビジネスドイツ語 a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel dieses Kurses ist die Vertiefung und Erweiterung der Deutschkenntnisse in den vier sprachlichen Grundfertigkeiten Lesen, Schreiben, Hören und Sprechen im Bereich der Geschäftskommunikation. Geübt wird an praxisnahen Situationen aus dem Büro.</p> <p>Ergänzend werden nach Möglichkeit auch Artikel aus deutschsprachigen Zeitungen zum Thema Wirtschaft gelesen.</p> <p>Die kontinuierliche Teilnahme und die aktive Mitarbeit im Unterricht wird ebenso als vorausgesetzt wie das Interesse am Thema des Kurses.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung in den Kurs 2. Thema 1: Firmennachweis (1) 3. Thema 1: Firmennachweis (2) 4. Thema 2: Anfrage (1) 5. Thema 2: Anfrage (2) 6. Thema 3: Angebot (1) 7. Thema 3: Angebot (2) 8. Wiederholungsstation 1 9. Thema 4: Werbebrief (1) 10. Thema 4: Werbebrief (2) 11. Thema 5: Nachfassbrief (1) 12. Thema 5: Nachfassbrief (2) 13. Thema 6: Auftrag und Bestellung (1) 14. Thema 6: Auftrag und Bestellung (2) 15. Wiederholungsstation 2 	
到達目標	ビジネスの場面で使われるドイツ語を理解し、かつ応用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer müssen das Gelernte selbstständig oder / und durch Aufgaben intensiv wiederholen. Hierzu sollten die Teilnehmer rund 90 Minuten einplanen.		
テキスト	Unterrichtsmaterialien werden als Kopien im Kurs verteilt.		
参考文献			
評価方法	Aktive Mitarbeit im Unterricht 40%, zwei kurze Tests im Rahmen des Unterrichts 60%		

09年度以降	ビジネスドイツ語 b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist die Vertiefung und Erweiterung der Deutschkenntnisse in den vier sprachlichen Grundfertigkeiten Lesen, Schreiben, Hören und Sprechen im Bereich der Geschäftskommunikation. Geübt wird an praxisnahen Situationen aus dem Büro.</p> <p>Ergänzend werden nach Möglichkeit auch Artikel aus deutschsprachigen Zeitungen zum Thema Wirtschaft gelesen.</p> <p>Die kontinuierliche Teilnahme und die aktive Mitarbeit im Unterricht wird ebenso als vorausgesetzt wie das Interesse am Thema des Kurses.</p> <p>* Dieser Kurs setzt zwar den Kurs im Sommersemester fort. Für die Teilnahme an diesem Kurs ist die Teilnahme an 「ビジネスドイツ語a」 aber <u>nicht</u> erforderlich!</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung in den Kurs 2. Thema 1: Auftragseingang (1) 3. Thema 1: Auftragseingang (2) 4. Thema 2: Lieferung (1) 5. Thema 2: Lieferung (2) 6. Thema 3: Wareneingang (1) 7. Thema 3: Wareneingang (2) 8. Wiederholungsstation 1 9. Thema 4: Lieferverzögerung (1) 10. Thema 4: Lieferverzögerung (2) 11. Thema 5: Reklamation (1) 12. Thema 5: Reklamation (2) 13. Thema 6: Mahnung (1) 14. Thema 6: Mahnung (2) 15. Wiederholungsstation 2 	
到達目標	ビジネスの場面で使われるドイツ語を理解し、かつ応用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer müssen das Gelernte selbstständig oder / und durch Aufgaben intensiv wiederholen. Hierzu sollten die Teilnehmer rund 90 Minuten einplanen.		
テキスト	Unterrichtsmaterialien werden als Kopien im Kurs verteilt.		
参考文献			
評価方法	Aktive Mitarbeit im Unterricht 40%, zwei kurze Tests im Rahmen des Unterrichts 60%		

09年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目で、春・秋学期のいずれか、または両学期の履修が可能です。</p> <p>Academic Reading/Listening Strategies I-IIで培った、学術英語の基礎力を、専門的なテーマの研究、プレゼンテーション、論文作成に応用し、英語のリサーチスキルを習得することを目的とします。</p> <p>ドイツ語圏について各自またはグループで興味のあるテーマを選び、図書館やインターネットで、新聞・学術雑誌・オンライン記事などの文献を調査します。内容を理解し、批判的に考え、テーマの研究動向を整理して、自分の意見を表現できるようにします。文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。学術的な言語技能としては、図表の説明や論文でよく使われる表現、論展開のまとめ方を学びます。研究の成果はリサーチペーパー（1000-2000語）にまとめ、授業で発表します。授業活動は全て英語で行います。</p> <p>英語力の目安は、TOEIC 500点。German Studies in English I、またはAcademic Writing I, IIを履修し、英語パラグラフ・ライティングの基礎を理解していることが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Choosing and narrowing a topic 3. Library database guidance 4. Reading academic articles 5. Outline and Thesis statement 6. Writing an Introduction 7. Peer editing session 8. Summary, paraphrase, citation 9. Writing Body sections 10. Peer editing session 11. Tutorials 12. Writing a Conclusion 13. Presentation skills 14. Final presentations 15. Research paper submission & Self-evaluation 	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次より総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	図書館、インターネットおよびアンケートなどによるリサーチ。各週の課題は授業内の指示に従うこと。		
テキスト	教材はクラスで配布する。		
参考文献	Schreurs, Miranda A. (2003). <i>Environmental politics in Japan, Germany, and the United States</i> . Cambridge.		
評価方法	授業参加 20% 課題 10% 期末発表 30% リサーチペーパー 40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

09年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目で、春・秋学期のいずれか、または両学期の履修が可能です。</p> <p>Academic Reading/Listening Strategies I-IIで培った、学術英語の基礎力を、専門的なテーマの研究、プレゼンテーション、論文作成に応用し、英語のリサーチスキルを習得することを目的とします。</p> <p>ドイツ語圏について各自またはグループで興味のあるテーマを選び、図書館やインターネットで、新聞・学術雑誌・オンライン記事などの文献を調査します。内容を理解し、批判的に考え、テーマの研究動向を整理して、自分の意見を表現できるようにします。文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。学術的な言語技能としては、図表の説明や論文でよく使われる表現、論展開のまとめ方を学びます。研究の成果はリサーチペーパー（1000-2000語）にまとめ、授業で発表します。授業活動は全て英語で行います。</p> <p>英語力の目安は、TOEIC 500点。German Studies in English I、またはAcademic Writing I, IIを履修し、英語パラグラフ・ライティングの基礎を理解していることが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Choosing and narrowing a topic 3. Library database guidance 4. Reading academic articles 5. Outline and Thesis statement 6. Writing an Introduction 7. Peer editing session 8. Summary, paraphrase, citation 9. Writing Body sections 10. Peer editing session 11. Tutorials 12. Writing a Conclusion 13. Presentation skills 14. Final presentations 15. Research paper submission & Self-evaluation 	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次より総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	図書館、インターネットおよびアンケートなどによるリサーチ。各週の課題は授業内の指示に従うこと。		
テキスト	教材はクラスで配布する。		
参考文献	Hake, Sabine. (2008). <i>German National Cinema, 2nd edition</i> . New York: Routledge.		
評価方法	授業参加 20% 課題 10% 期末発表 30% リサーチペーパー 40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

09年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ	担当者	伊豆田 俊輔 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) これからみなさんがドイツ語学科で専門的に学ぶための基礎を習得します。また、自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究するために必要となる知的技術、批判的思考力の獲得を目指します。</p> <p>(重点項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ドイツ語学科の学生として必要不可欠な、ドイツ語圏に関する基礎知識を習得する。 2) 「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して履修することにより、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野やテーマ選択の手掛かりをつかむ。 3) 文献の検索方法、論文の一般的な形式、構造、読み方を学び、レポート作成についての基本的知識と技術を習得する。 		<p>毎回、異なる担当者が、それぞれの専門分野の視点から、ドイツ語圏に関する基礎知識を講義します。また、論文の読み方やレポートの書き方、自分のテーマに関連する文献、新聞記事、雑誌記事の検索方法を学びます。</p> <p>第1回の授業で、春学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、評価方法などを説明します。必修授業ですので、第1回から出席をとります。授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせすることがありますので、毎回必ず確認してください。</p> <p>※なお、①藤原辰史『トラクターの世界史』(中公新書、2017年)がテキストです。購入を前提に授業を行います。加えて②も、佐渡島紗織他編『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』(大修館書店、2015年)レポートの執筆に関係するので購入を勧めます。</p>	
到達目標	ドイツ語圏に関する必要最低限の知識と、大学で学んでいく上で必要な技術を習得し、入門的なドイツ語圏の研究分析ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業後にはしっかりと復習し、知識を定着させてください。		
テキスト	授業計画欄の①『トラクターの世界史』		
参考文献	授業計画案の②『「書き直し」ガイド』		
評価方法	毎回の講義内容についての「授業レポート」(コメントペーパー)に基づいて評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	伊豆田 俊輔 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) これからみなさんがドイツ語学科で専門的に学ぶための基礎を習得します。また、自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究するために必要となる知的技術、批判的思考力の獲得を目指します。</p> <p>(重点項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特定のテーマについて様々なアプローチから学ぶことによって、ドイツ語圏への関心を高め、ドイツ語やドイツ語圏について学ぶ意義を確認する。 2) これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野やテーマ選択の手掛かりをつかむ。 3) インターン経験者や卒業生の話を聞き、今後の自分の進路について考える。 		<p>秋学期は大きくふたつのパートに分かれています。ひとつ目のパートでは、共通テーマを設定しそのテーマに毎回異なる担当教員(とテーマに関係する専門家を外部講師として一回招き)がそれぞれの視点から迫っていきます。</p> <p>ふたつ目のパートでは、上級生、卒業生、外部講師による講演を通じて(外部講師による講演を2回予定)、ドイツ語学科での学習が将来どのように生きてくるかを学びます。</p> <p>第1回の授業で、秋学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、評価方法などを説明します。必修授業ですので、第1回から出席をとります。</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせすることがありますので、毎回必ず確認してください。</p>	
到達目標	ドイツ語圏に関する必要最低限の知識と、大学で学んでいく上で必要な技術を習得し、入門的なドイツ語圏の研究分析ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業後にはしっかりと復習し、知識を定着させてください。		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布し、その中で指示します。		
評価方法	毎回の講義内容についての「授業レポート」(コメントペーパー)に基づいて評価します。		

09年度以降	基礎演習 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」で修得した、ドイツ語圏に関する基礎知識をベースに、2年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3年次以降の専門演習に向けた準備を目標にします。</p> <p>「知のスキル」とは、具体的には以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① テキストを正確に理解する力 ② 論理的に思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成） <p>春学期は、共通テキストの輪読をもとに討論し、テキストのテーマに基づくレポートを2度、提出してもらいます。</p> <p>*なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ」、および「基礎演習ⅠまたはⅡ」を履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマⅠ：テキスト輪読とディスカッション① 3. 同② 4. 同③ 5. 同④、中間レポート課題提示 6. 同⑤ 7. 同⑥ 8. テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション①、中間レポート提出 9. 同② 10. 同③ 11. 中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 12. テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション④ 13. 同⑤ 14. 同⑥ 15. 秋学期の準備（グループ分け、テーマ決定等） <p>*さらに詳しい授業計画は、第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
到達目標	文献の内容要約や、自分の考えをグループおよび個人で口頭で発表し、さらにレポートとしてまとめ提出できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各クラス教員によって指定されたテキストを事前に精読し、積極的にディスカッションに参加してください。授業後には、各回のプレゼンテーションで指摘された点を復習し、学んだことを自分の発表に反映して行ってください。		
テキスト	各担当教員による指示。		
参考文献	佐渡島 紗織ほか『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』大修館書店、2015年		
評価方法	授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。		

09年度以降	基礎演習Ⅱ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、より専門的な内容について、適宜ディスカッションやディベートなども取り入れながら、「知のスキル」を高めることを目的とします。</p> <p>「グループ発表」「個人発表」の順序、やり方は、クラスの状況に応じて変更する可能性もあります。3年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。</p> <p>また、演習の内容に即して中間、期末のレポートを2回提出してもらいます。</p> <p>*なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ」、および「基礎演習ⅠまたはⅡ」を履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、春学期末レポート返却・講評 2. グループ発表① 3. 同② 4. 同③、中間レポート課題提示 5. 同④ 6. 個人発表① 7. 同② 8. 同③、中間レポート提出 9. 同④ 10. 同⑤ 11. 同⑥ 12. 同⑦、中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 13. 同⑧ 14. 同⑨ 15. 同⑩、まとめ <p>*さらに詳しい授業計画は第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
到達目標	文献の内容要約や、自分の考えをグループおよび個人で口頭で発表し、さらにレポートとしてまとめ提出できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各クラス教員によって指定されたテキストを事前に精読し、積極的にディスカッションに参加してください。授業後には、各回のプレゼンテーションで指摘された点を復習し、学んだことを自分の発表に反映して行ってください。		
テキスト	各担当教員による指示。		
参考文献	佐渡島 紗織ほか『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』大修館書店、2015年		
評価方法	授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。		

09年度以降	通訳特殊演習	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
通訳者になるための準備 この授業では通訳者や観光ガイドとして、あるいは国際会議などを企画運営するコンGRESS・オーガナイザーで働くことを考えている学生を対象に、それらの仕事に求められるドイツ語力習得のための学習計画やキャリアプランの立て方を学んでいきます。 通訳の仕事はすべて音声で伝えなければならないので、そのための発音練習や必須のスキルである記憶力の強化法などを紹介していきます。短期間の練習で実際の通訳者になることはできませんが、学習を通して仕事の内容を理解し、中・長期的な学習計画を立案できるように指導します。 通訳者の仕事は高い職業意識と責任感を求められます。明確な目標とそれに向けた積極的な勉学の姿勢を持った学生の受講を歓迎します。		1. 授業の進度計画と目標について 2. 通訳の仕事と必要な能力 3. 通訳スキルとは何か 4. 自分のドイツ語の検証と課題の発見 5. 記憶力（メモリー）トレーニングの紹介と実践 6. 発音とプレゼン（デリバリー）の改善 7. 日本語から日本語へ訳す(1)－訳すことの意味 8. 日本語から日本語へ訳す(2)－パラフレイズ 9. 内容理解の練習(1)－要約練習 10. 内容理解の練習(2)－テーマの把握と解説 11. 逐次通訳の練習－ドイツ語から日本語へ 12. 逐次通訳の練習－日本語からドイツ語へ 13. ドイツ語運用力の課題と解決方法 14. 通訳者へのキャリアパスを考える 15. 春学期のまとめと到達目標の確認	
到達目標	ドイツ語通訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の下調べ、課題の練習と継続的な発音改善の練習を課します。		
テキスト	テキストと資料はプリントで授業時に配布します。		
参考文献	必要に応じて参考文献リストを挙げます。		
評価方法	授業への参加度（40%）、課題の達成度（40%）、学習目標の総合的な達成度（20%）を考慮して判断します。		

09年度以降	通訳特殊演習	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
ボランティア通訳の心構え 秋学期の授業では2020年のオリンピック開催を念頭において、都市ボランティアなどのボランティア通訳者に求められる知識やスキルについて学んでいきます。首都圏に限らず、地方でも様々な機会に通訳ボランティアが必要とされています。本格的な会議通訳者を目指す入り口としても適しているボランティア通訳を目指してみましよう。 ボランティアとしての心構え、必要な語学力の習得法、ストーリーボードに則ったロールプレイなどを紹介していきます。 春学期と同じく明確な目標と積極的に課題に取り組む姿勢を持った学生の受講を歓迎します。		1. 授業の進度計画と目標の紹介 2. 大会ボランティアに求められる知識 3. 都市ボランティアに求められる知識 4. 通訳ガイドの種類と仕事の内容 5. ボランティア通訳として心がけること 6. 言葉の準備 7. ボランティア通訳に必要な場面シラバス 8. ストーリーボードによる場面と会話の流れの確認 9. ロールプレイ(1)－都内の名所を案内する 10. ロールプレイ(2)－競技をサポートする 11. 出現した課題の整理と解決方法 12. こんな人は通訳者には向いていない 13. 通訳者に求められる資質 14. ロールプレイ(3)－修正版ストーリーボードを使う 15. 秋学期のまとめと到達目標の確認	
到達目標	ドイツ語通訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の下調べ、課題の練習と継続的な発音改善の練習を課します。		
テキスト	テキストと資料はプリントで授業時に配布します。		
参考文献	必要に応じて参考文献リストを挙げます。		
評価方法	授業への参加度（40%）、課題の達成度（40%）、学習目標の総合的な達成度（20%）を考慮して判断します。		

09年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>口頭コミュニケーションの全盛の現代では、訳すことは流行りませんが、「翻訳」は中学・高校で先生に当てられてしどろもどろに訳すこととは違います。ドイツ語の文章の展開をきちんと把握して、それぞれの文を文法と語彙の両方から理解したうえで、適切な日本語で再現することです。それには、内容に関する調べ方も学ばなくてはなりません。副産物として日本語の表現能力も上がるはずです。</p> <p>授業では、出席者の到達段階を考慮した20行前後の文章をメールで全員に送り、授業の前日までに指定のアカウントに送り返してもらいます。</p> <p>授業では、それを段落ごとにまとめてプロジェクターで映しだしてチェックします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方と、実際の練習。 2. やさしいドイツ語文の訳（1） 3. やさしいドイツ語文の訳（2） 4. やさしいドイツ語文の訳（3） 5. 新聞記事等の訳（1） 6. 新聞記事等の訳（2） 7. 新聞記事等の訳（3） 8. 新聞記事等の訳（4） 9. 新聞記事等の訳（5） 10. ウィキの記事の訳（1） 11. ウィキの記事の訳（2） 12. ウィキの記事の訳（3） 13. ウィキの記事の訳（4） 14. ウィキの記事の訳（5） 15. まとめと今後の勉強法 	
到達目標	ドイツ語翻訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週、訳を提出する。		
テキスト	メールで配布		
参考文献	特になし		
評価方法	提出された訳で評価する。		

09年度以降	インターンシップ特殊演習	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Unterricht bereitet auf ein Firmenpraktikum und den Aufenthalt bei einer Gastfamilie in Deutschland vor, er vermittelt Hintergrundwissen über Deutschland und die deutsche Gesellschaft, über Gewohnheiten, Handlungsweisen und Erwartungen deutscher Firmen und deutscher Familien.</p> <p>Wir üben u.a. Gespräche (Gesprächsstrategien) mit Kollegen und Chefs, Telefongespräche, schreiben E-Mails und Geschäftsbriefe, lernen wichtige Ausdrücke des Wirtschaftsdeutsch und üben, wie man z. B. Vorschläge macht und in Problemsituationen seine Meinung deutlich ausdrückt.</p> <p>Festlegung des Unterrichtsplans in Absprache mit den Teilnehmern und auf Basis der Erfahrungen früherer InternshipteilnehmerInnen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Was ist ein Praktikum? 3. Lebenslauf 4. Bewerbungs-, Motivation-Schreiben 5. Selbstvorstellung 6. Hintergrund-Wissen über Deutschland 7. Gesellschaft 8. Gesellschaft 9. Firmen, andere Praktikumsstellen 10. Leben in Deutschland 11. Kontakt mit Kollegen, Chefs 12. Verhalten in der Praktikumsstelle 13. Wirtschaftsdeutsch 14. Wirtschaftsdeutsch 15. Zusammenfassung 	
到達目標	ドイツ語圏のインターンシップに必要な知識等を習得するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語圏での働き方や自己の職能・適性等を発見できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung von Texten, Hausaufgaben, eventuell auch im Team; jeweils ca. 90 Minuten Vor- und nachbereitung, Wiederholung		
テキスト	Kopien, werden zu Beginn des Semesters oder vor der nächsten Unterrichtsstunde verteilt		
参考文献	Wirtschaftsdeutsch Lehrbücher		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Präsentationen, Test		

09年度以降	留学準備特殊演習	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs können Sie sich inhaltlich und sprachlich auf ein Fachstudium in Deutschland, Österreich oder der Schweiz (D-A-CH) vorbereiten. Sie erweitern Ihr Wissen über Kultur und Gesellschaft der drei Länder, Sie lernen mehr über praktische Probleme des Lebens an der Universität und Sie beschäftigen sich mit kommunikativen Situationen, die man während eines Auslandsstudiums erleben kann. Dabei nutzen wir auch die Erfahrung älterer Dokkyo-Kommilitonen und den Rat von Austauschstudierenden. Sprachlich lernen Sie, in Situationen rund ums Studium zu handeln, aber auch wie man Nicht-Japanern etwas über Japan erklären kann. Natürlich lernen Sie auch viel Fachwortschatz zum Thema Studium u.a. Die Kurssprache ist Deutsch.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Universitäten in D-A-CH (Deutschland-Österreich-Schweiz) 3. Studieren in D-A-CH 4. Situationen an der Universität 5. Wohnen in D-A-CH 6. Studentenleben 7. Gesellschaft und Kultur in D-A-CH 8. Probleme und ihre Lösung 9. Japan erklären: Gesellschaft 10. Japan erklären: Kultur 11. Fragerunde mit deutschen Studierenden/Experten 12. Präsentationen (1) 13. Präsentationen (2) 14. Präsentationen (3) 15. Fazit, Kursabschluss 	
到達目標	ドイツ語圏の留学生活に必要な知識等を習得するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語圏大学への長期留学に必要な要件を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト	Materialien werden im Unterricht verteilt		
参考文献			
評価方法	Aktive Mitarbeit, schriftliche Hausaufgaben, Präsentation		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2年次から履修可</p> <p>Schwerpunkt: sprachliches Lernen In diesem Kurs trainieren Sie autonomes Lernen im <i>Tandem</i>. Ihre Lernziele für diesen Kurs bestimmen Sie. Wir arbeiten zusammen mit Studierenden des Zentrums für Sprache und Kommunikation der Universität Regensburg. Alle Teilnehmer bekommen eine(n) Partner(in). Sie treffen sich einmal in der Woche auf <i>Skype</i>, um auf D. und J. zu sprechen und so an Ihren Lernzielen zu arbeiten. Über Ihre Erfahrungen berichten Sie im Plenum. Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie: ein Sprachniveau von mindestens A2.2 haben UND motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner zu skypen.</p> <p>この授業の定員は10名前後です。第一回目の授業で履修選抜を行いますので、必ず参加して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. <i>Erste Videokonferenz: Kennenlernen</i> 3. Ihre Lernziele 4. Berichte aus den Tandems: Ihre Partner/-innen 5. Berichte aus den Tandems: Ihre Themen 6. <i>Zweite Videokonferenz: Themen im Tandem</i> 7. Ihre Lernziele: Zwischenfazit 8. Vorbereitung der dritten Videokonferenz 9. <i>Dritte Videokonferenz: Arbeit im Tandem</i> 10. Berichte aus den Tandems: Ihre Zusammenarbeit 11. Vorbereitung der vierten Videokonferenz (1) 12. Vorbereitung der vierten Videokonferenz (2) 13. Abschluss-Video-Konferenz: Präsentation (1) 14. Abschluss-Video-Konferenz: Präsentation (2) 15. Kursfazit 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer führen wöchentlich einen Skype-Chat mit ihrem Partner/ihrer Partnerin durch. Sie bereiten mündliche Berichte vor oder berichten schriftlich auf dem Kursblog.		
テキスト	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt bzw. von den Teilnehmenden selbst recherchiert.		
参考文献			
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht und in den Tandems, die Beiträge auf dem Blog sowie die Präsentation.		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2年次から履修可</p> <p>Schwerpunkt: fachliches Lernen Dieser Kurs ist ein <i>Fachkurs</i>, der gemeinsam mit Studierenden einer deutschen Universität gestaltet wird. Sie beschäftigen sich vergleichend mit gesellschaftlichen Fragen in Deutschland und Japan. Dabei lernen Sie, mit deutschen Studierenden an einem <i>Forschungsprojekt</i> zu arbeiten und das Ergebnis zu präsentieren. Sie treffen sich einmal in der Woche mit Ihren Partnern auf <i>Skype</i>, um an Ihrem Thema zu arbeiten. Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie: - ein Sprachniveau von mindestens B1 haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner zu skypen.</p> <p>この授業の定員は10名前後です。第一回目の授業で履修選抜を行いますので、必ず参加して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Einstieg ins Kursthema 3. <i>Erste Videokonferenz: Kennenlernen</i> 4. Überblick über das Kursthema 5. Ihr Thema, Ihre Fragestellung 6. Situation in Deutschland 1 7. Situation in Deutschland 2 8. Situation in Deutschland 3 9. Situation in Deutschland 4 10. Situation in Deutschland 5 11. <i>Zweite Videokonferenz: Präsentationen</i> 12. <i>Dritte Videokonferenz: Präsentationen</i> 13. <i>Vierte Videokonferenz: Präsentationen</i> 14. Kursfazit 15. Zukunftspläne 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer führen wöchentlich einen Skype-Chat mit ihrem Partner/ihrer Partnerin durch, für den sie selbstständig Informationen recherchieren, und kommunizieren auf der Kursplattform.		
テキスト	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt bzw. von den Teilnehmenden selbst recherchiert.		
参考文献			
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht und die Zusammenarbeit mit den Partnern in Regensburg, die Beiträge auf der Kurs-Plattform sowie die Präsentation.		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">3年次から履修可</div> <p>語学教育では、語学に必要な技能として、「4技能（話す・聞く・読む・書く）」という分け方をするが、このうち、「聞く」と「読む」は受動的とされている。しかし、たとえば語彙は、いわばベースとなる「貯蓄」のようなもので、これが不十分であれば、話すことも書くこともおぼつかない。その意味で、この授業では、このベースに重点を置き、実際に「被験者」として練習をしながら、その教育の方法を考えていく。同時にこうすることで、自分のドイツ語力を伸ばしてもらいたい。春学期の「翻訳練習」の要領で、それと耳を通して行う「聞き取り」を体験しながら、この面での教育について理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：この授業で行うこと 2. 翻訳と聞き取り 3. 翻訳の実際（1） 4. 翻訳の実際（2） 5. 翻訳の実際（3） 6. 翻訳の実際（4） 7. 翻訳の実際（5） 8. 翻訳と理解のまとめ 9. 聞き取り（1） 10. 聞き取り（2） 11. 聞き取り（3） 12. 聞き取り（4） 13. 聞き取り（5） 14. 聞き取りと理解のまとめ 15. 他の2つの技能との関係 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、訳と聞き取りの課題を課し、それを授業間に提出してもらう。		
テキスト	前もって課題としてメールで通知する。		
参考文献	特になし		
評価方法	毎回の提出された訳、あるいは聞き取り結果（文字起こし）で評価する。		

09年度以降	ドイツ語概論 a	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。</p> <p>講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、まずは言語についての一般的な問題を取り上げる。言語学概論と重なる部分も出てくるとは思うが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ことばの不思議 - 導入と年間計画 ことばの不思議 (1) ことばの不思議 (2) ことばの不思議 (3) ドイツ語の履歴書 - ドイツ語史 (1) ドイツ語の履歴書 - ドイツ語史 (2) それってドイツ語 - ドイツ語の方言 文法のお話 (1) - 品詞ってなに 文法のお話 (2) - 木を見て森を見ず 文法のお話 (3) - パンドラの箱 辞書は大きなおもちゃ箱 言語というブラックホール 言語のたのしみ まとめ まとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索		
テキスト	適時講義で指示		
参考文献	適時講義で指示		
評価方法	出席シートへの授業内容のまとめ、復習		

09年度以降	ドイツ語概論 b	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。</p> <p>講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 言語は怪人二十面相 言語学の歴史 音の世界 - 音声学・音韻論 形にこだわって - 形態論 文の組み立てについて - 統語論 意味って何 (1) - 意味論 意味って何 (2) - 意味論 言語は生き物 (1) - 実用論 言語は生き物 (2) - 実用論 言語と社会 - 社会言語学 言語と心 - 言語心理学あるいは認知 言語研究への道 言語研究への道 まとめ まとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索		
テキスト	適時講義で指示		
参考文献	適時講義で指示		
評価方法	出席シートへの授業内容のまとめ、復習		

09年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 a	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> いわゆるゲーテ時代のさまざまな人間観について吟味し、できるだけ現代の人間観、人間が抱える諸問題などと関連づけながら考察することを目標とします。</p> <p><講義概要> イマヌエル・カントのエッセイ「啓蒙とは何か？」を読んで当時の人間観について概観したのちに、同時代の他の文学作品などから人間に関する描写、考察、分析をしている箇所を拾い出して読んで行きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カント『啓蒙とは何か』を読む 3. カント『啓蒙とは何か』を読む／「啓蒙」によって得られるもの、失われるもの 4. 「啓蒙」によって得られるもの、失われるもの 5. ゲーテ『若きヴェルターの悩み』を読む 6. 「ヴェルター的悩み」とは？ 7. シラー『招霊妖術師』を読む 8. 「啓蒙」の時代とオカルト・ブーム 9. ゲーテ『ファウスト』を読む 10. 人間を「調合」？する 11. 『ファウスト』第二部、最終場面について 12. 『魔笛』を見る 13. 『魔笛』を読む 14. クニッゲ『人間交際術』を読む 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の文学・思想に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツ文学史を概観しておくといいいでしょう。 手塚富雄、神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波文庫		
テキスト	必要に応じてコピーで配布します。		
参考文献	必要に応じて指示します。		
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（30%）と、学期末の筆記試験（70%）により評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 b	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> ドイツ語で書かれた代表的な文学作品を、いわゆるジャンルごとについていくつか取り上げ、ジャンルとしての特徴などを検討しながら、楽しむ（深読みする？）ことを目標とします。</p> <p><講義概要> 右記の通り、ドイツ語で書かれたメルヒェン、詩、小説、ドラマの各ジャンルから代表作品を選び、内容を概観した上で、いろいろな視点から解釈（つまり、深読み）して行きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. メルヒェン (1) 3. メルヒェン (2) 4. メルヒェン (3) 5. ドイツの詩 (1) 6. ドイツの詩 (2) 7. ドイツの詩 (3) 8. ドイツの詩 (4) 9. ドイツの小説 (1) 10. ドイツの小説 (2) 11. ドイツの小説 (3) 12. ドイツのドラマ (1) 13. ドイツのドラマ (2) 14. ドイツのドラマ (3) 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の文学・思想に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツ文学史を概観しておくといいいでしょう。 手塚富雄、神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波文庫		
テキスト	必要に応じてコピーで配布します。		
参考文献	必要に応じて指示します。		
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（30%）と、学期末の筆記試験（70%）により評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の言語 a	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ことばの世界をより深く知り、調査・研究するために、基礎となる概念を解説します。</p> <p>春学期には、語や文といったまとまりがどのような仕組みで成り立っているのかという疑問から出発して、具体例を見ながら、ドイツ語の文法的特徴を皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。また、ドイツ語の歴史や、地域的なヴァリエーションについても概観します。</p> <p>講義の内容や順番は、受講者の関心に依じて、多少変更する可能性もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツ語の歴史 (1) 3. ドイツ語の歴史 (2) 4. ドイツ語の歴史 (3) 5. ドイツ語の歴史 (4) 6. ドイツ語の地域的ヴァリエーション (1) 7. ドイツ語の地域的ヴァリエーション (2) 8. 形態論 (1) 形態論の対象、形態素 9. 形態論 (2) 語形成 10. 形態論 (3) 語形成 11. 統語論 (1) 統語論の対象 12. 統語論 (2) 統語構造 13. 統語論 (3) 構成素、句構造 14. 統語論 (4) 格 15. 春学期のまとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の講義内容をよく復習し、疑問点があれば質問してください。		
テキスト	授業内でレジュメと資料プリントを配布します。		
参考文献	授業内で指示します。		
評価方法	毎回のコメントペーパー (50%) と、最終回に実施する筆記試験 (50%) に基づき評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の言語 b	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期には、主に語や文の内部構造を観察しましたが、秋学期には、語や文の示す意味や、実際の運用の仕方、コミュニケーション上の意図などについて解説します。</p> <p>春学期の講義内容を理解していることを前提にお話ししますが、秋学期からの履修も歓迎します。</p> <p>秋学期も、多くの例を見ながら、皆さんに考えてもらう形で進めていきます。それによって、今まで意識することのなかった「ことばの機能」を発見することが、この講義の目的です。</p> <p>講義の内容や順番は、受講者の関心に依じて、多少変更する可能性もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツ語の文字 3. 文法的性と格標示に関する言語間の比較 4. 意味論 (1) 意味論の対象、意味素性 5. 意味論 (2) プロトタイプ 6. 意味論 (3) 形式と意味に関する言語間の比較 7. 意味論 (4) 普遍主義と相対主義 8. 語用論 (1) 語用論の対象 9. 語用論 (2) 発話行為 10. 語用論 (3) 発話行為 11. 語用論 (4) ポライトネス 12. 語用論 (5) ポライトネス 13. ドイツ語圏の広がり (1) 14. ドイツ語圏の広がり (2) 15. 秋学期のまとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の講義内容をよく復習し、疑問点があれば質問してください。		
テキスト	授業内でレジュメと資料プリントを配布します。		
参考文献	授業内で指示します。		
評価方法	毎回のコメントペーパー (50%) と、最終回に実施する筆記試験 (50%) に基づき評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の文学 a	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ドイツのメルヒェン)</p> <p>グリムをはじめとするドイツ語圏のメルヒェンを知り、現在の私たちにとっての意味を考えます。</p> <p>メルヒェンとは何か。メルヒェンが「今」の「日本」で生きている「私たち」にとって、どのような意味を持っているのか。そうしたことを、グリムや他のメルヒェンを読みながら、皆さんと一緒に考えていきます。</p> <p>ドイツ語はできればいいですが、できなくてもかまいません。</p> <p>受講者は、積極的に授業に参加してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. メルヒェンの法則性 3. グリム以前のヨーロッパのメルヒェン 4. グリム・メルヒェンの成立 5～7. グリム・メルヒェンを読む 1-4 (書き換え、他のメルヒェン集との比較など) 8. ロマン派の創作メルヒェン 9～10. グリム以後のメルヒェンと児童文学 1-2 11～12. 映像化されたメルヒェン 1-2 13～14. 日本でのグリム受容 1-2 15. 最終授業時筆記試験とまとめ 	
到達目標	ドイツ文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	できるだけオリジナルを読んでください。		
テキスト	授業時にコピーを配布します。		
参考文献	授業時に適宜指示します。		
評価方法	授業時レポート 70%、最終授業時試験 30%で評価します。3回以上の欠席は評価の対象としません。		

09年度以降	ドイツ語圏の文学 b	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ドイツの子どもと青少年の文学)</p> <p>グリムから現代までのドイツ語圏の子どもと青少年の文学 (Kinder- und Jugendliteratur) を知り、現在の私たちにとっての意味を考えます。</p> <p>「児童」や「子ども」のための「文学」というのは、日本でもドイツ語圏でも19世紀(後半)の発明です。「子どものための文学」の名のもとに、どのような「子ども」と「文学」が求められ、どのように「大人の文学」と区別された(されなかった)のかなどを具体例をもとに皆さんと一緒に考えていきます。</p> <p>ドイツ語はできればいいですが、できなくてもかまいません。</p> <p>なお、春学期の「ドイツのメルヒェン」と、グリムに関する事項などで若干の重複があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. グリム以前の子どもと青少年の文学 3～6. グリムと同時代の子どもと青少年の文学 1-4 (Grimm, Bechstein など) 7. アンデルセンの創作メルヒェン 8. 「絵本」の誕生 (『もじゃもじゃペーター』など) 9. シュピリ『ハイジ』 10～12. 20世紀の子どもと青少年の文学 1-3 (ケストナー, エンデ, フンケなど) 13～14. 日本における受容 1-2 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	できるだけオリジナルを読んでください。		
テキスト	授業時にコピーを配布します。		
参考文献	授業時に適宜指示します。		
評価方法	授業時レポート 70%、最終レポート 30%で評価します。3回以上の欠席は評価の対象としません。		

09年度以降	ドイツ語圏の思想 a	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。</p> <p>具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。</p> <p>またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な時代を追っていくのにじっくり急がないつもりですが、しかし今学期もせめてカントまでは触れます。ドイツ語学科以外の学生の受講も歓迎します（ドイツ語の知識は前提にしない）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 古典について 3. 古典について 4. キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント 5. ルネッサンス 6. デカルトの思想 7. カントの思想(1) 8. カントの思想(2) 9. カントの思想(3) 10. カントの思想(4) 11. ドイツ観念論(1) 12. ドイツ観念論(2) 13. ドイツ観念論(3) 14. ドイツ観念論の問題点 15. 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏の文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後に18世紀ドイツ啓蒙までの思想文化の概略を把握する。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	配布したプリントの中で紹介します。		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。		

09年度以降	ドイツ語圏の思想 b	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主にドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していく。春学期の講義の続きではありますが、別個に受講してもよい。具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれます。テーマはドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してほしい。ドイツ語学科以外の学生も歓迎します（ドイツ語の知識は前提にしない）。今学期もハイデガーやベンヤミンなど現代思想に触れられたらいい。現代思想ゆえの過激な展開になります。関心がある学生は歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. ロマン派 3. ヘーゲルとマルクス 4. 若いマルクスと『資本論』のマルクス 5. 『資本論』と宗教批判 6. マルクス主義と現代思想(1) 7. マルクス主義と現代思想(2) 8. ニーチェ(1) 9. ニーチェ(2) 10. ニーチェ(3) 11. ハイデガー(1) 12. ハイデガー(2) 13. ハイデガー(3) 14. 現代の思想 15. 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏の文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後には19世紀以降の思想の概略を把握している。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	配布したプリントの中で紹介します。		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） a	担当者	D. フジサワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Was ist Literatur? Mit einer Auswahl von verschiedenen Textsorten wird in diesem Kurs versucht, diese Frage zu beantworten. Dabei soll auch die Beziehung von Inhalt und Form im Zentrum stehen und auf die literaturtheoretischen Konzepte „Tod des Autors“, „Literarizität“ und „symbolic competence“ eingegangen werden. Es gilt Literatur aus einem völlig anderen Blickwinkel zu betrachten.</p> <p>Alle Texte werden in Partnerarbeit bzw. Gruppenarbeit gelesen und besprochen. Zudem wird von jedem Studierenden der Roman „Tschick“ zu Hause gelesen und eine Präsentation zu einem freien Text erarbeitet. Eine Posterpräsentation bildet den Abschluss des Kurses.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Semestereinführung: Was ist Literatur? 2. Der Roman „Tschick“ 3. „ottos mops“ 4. „Niederungen“ (Auszug) 5. „Wandrer's Nachtlied“ 6. „Bewegung und Stillstand“ 7. „Rotkäppchen“ 8. „77ste Liebe“ 9. „Die Fische, die in den Himmel wollten“ 10. „Schreiben im Netz der Sprachen“ 11. Authentisches Lesen 12. Posterpräsentation I 13. Posterpräsentation II 14. Nachbesprechung zu „Tschick“ 15. Abschluss: Was ist Literatur? 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Alle Texte müssen zu Hause vorbereitet werden. Fragen zu den verschiedenen Texten dienen der Nachbereitung. Der Roman „Tschick“ ist außerhalb des Unterrichts zu lesen.		
テキスト	Die Texte werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Vorbereitung der Texte; Mitarbeit im Unterricht; die Vorstellung eines beliebigen Textes; Posterpräsentation; Zusammenfassung des Romans „Tschick“		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） b	担当者	D. フジサワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Konzept der Literarizität verfolgt die Idee, dass jeder Text ein literarischer Text sein kann. Es steht weniger der Text selbst, als vielmehr die sprachliche Gestalt und Struktur des Textes im Mittelpunkt.</p> <p>Dieser Kurs widmet sich dem Konzept der Literarizität näher und behandelt auch Texte, die konventionell nicht zu literarischen Texten zählen.</p> <p>Alle Texte werden in Partnerarbeit bzw. Gruppenarbeit gelesen und besprochen. Zudem wird von jedem Studierenden der Roman „Das fliegende Klassenzimmer“ zu Hause gelesen und eine Präsentation zu einem freien Text erarbeitet. Eine Posterpräsentation bildet den Abschluss des Kurses.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Semestereinführung: Jeder Text ist Literatur? 2. Der Roman „Das fliegende Klassenzimmer“ 3. „Grauer Salat“ 4. Pippi Langstrumpf I 5. Pippi Langstrumpf II 6. „schatzgrmm“ 7. „1984“ 8. „Die Verwandlung“ 9. „Der alte Mann und das Meer“ 10. „Die Ringparabel“ 11. Posterpräsentation I 12. Posterpräsentation II 13. Posterpräsentation III 14. Nachbesprechung zu „Das fliegende Klassenzimmer“ 15. Abschluss: Jeder Text ist Literatur? 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Alle Texte müssen zu Hause vorbereitet werden. Fragen zu den verschiedenen Texten dienen der Nachbereitung. Der Roman „Das fliegende Klassenzimmer“ ist außerhalb des Unterrichts zu lesen.		
テキスト	Die Texte werden im Unterricht zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Vorbereitung der Texte; Mitarbeit im Unterricht; die Vorstellung eines beliebigen Textes; Posterpräsentation; Zusammenfassung des Romans „Das fliegende Klassenzimmer“		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ <u>思想</u> ） a	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Klasse wollen wir Texte über grosse Musiker lesen, und ihre Musik anhören. Dabei schulen wir unser Ohr für Sprache, sowie unser musikalisches Gehör.		1.-2. J.S.Bach 3.-4. G.F.Haendel 5.-6. J.Haydn 7.-8. W.A.Mozart 9.-10. L.van Beethoven 11.-12. R.Schuhmann 13.-14. J.Brahms 15. R.Wagner	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2-3mal im Semester schreiben Sie einen Aufsatz mit 200 Wörtern zu Themen, die sich im Unterricht ergeben.		
テキスト	AUS DEM LEBEN GROSSER MUSIKER, Verlag Daisan Shobo		
参考文献			
評価方法	Für schriftliche Hausaufgaben/Referate gibt es Punkte. Die Mitarbeit im Unterricht bewerte ich auch.		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) a	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>母語にせよ、外国語にせよ、言語はコミュニケーション手段の一つとして捉えることができますが、その他にもさまざまな付随的側面があります。</p> <p>この授業では、ドイツ語のテキストを読みながら、言語と社会、文化、思想との関わり方を、ドイツ語を通して考えていこうと思います。受講者各自に担当箇所を決め、発表形式で行います。</p> <p>テーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多言語ということ 2) 言語とアイデンティティ 3) ヨーロッパ統合と複言語政策 4) 言語と文化的多様性 5) ドイツ語と英語の言語接触 6) 言語にとって規範とは何か 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要、ブレインストーミング 2. Eine philosophisch-soziologische Reflexion 1 3. “ 2 4. “ 3 5. ディスカッション 6. Die Grenzen der Sprache 1 7. “ 2 8. ディスカッション 9. Mehrsprachigkeit 10. Sprache und Identität 11. ディスカッション 12. Sprachen und europäische Integration 1 13. “ 2 14. ディスカッション 15. まとめと展望 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの精読(文法的説明、内容の把握)、関連資料を含めたハンドアウトの作成。授業後に、発表時の問題点、疑問点を整理し、次回の授業で報告する。		
テキスト	Limbach, J., Ruckteschell, K. v. (Hrsg.): Die Macht der Sprache. München, 2008 (プリント使用)		
参考文献	初回の授業で紹介する。		
評価方法	定期試験 50%。担当部分の発表 30%。ディスカッション、授業での発言、積極性 20%		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>母語にせよ、外国語にせよ、言語はコミュニケーション手段の一つとして捉えることができますが、その他にもさまざまな付随的側面があります。</p> <p>この授業では、ドイツ語のテキストを読みながら、言語と社会、文化、思想との関わり方を、ドイツ語を通して考えていこうと思います。受講者各自に担当箇所を決め、発表形式で行います。</p> <p>テーマは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多言語ということ 2) 言語とアイデンティティ 3) ヨーロッパ統合と複言語政策 4) 言語と文化的多様性 5) ドイツ語と英語の言語接触 6) 言語にとって規範とは何か 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Sprachenschutz und Sprachpflege 1 2. “ 2 3. ディスカッション 4. Mehrsprachigkeit und kulturelle Diversität 1 5. “ 2 6. Mehrsprachigkeit und kulturelle Diversität 3 7. “ 4 8. ディスカッション 9. Mehrsprachigkeit in der Europäischen Union 1 10. “ 2 11. “ 3 12. ディスカッション 13. Der deutsch-englische Sprachkontakt 1 14. “ 2 15. まとめと展望 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの精読(文法的説明、内容の把握)、関連資料を含めたハンドアウトの作成。授業後に、発表時の問題点、疑問点を整理し、次回の授業で報告する。		
テキスト	Limbach, J., Ruckteschell, K. v. (Hrsg.): Die Macht der Sprache. München, 2008 (プリント使用)		
参考文献	初回の授業で紹介する。		
評価方法	定期試験 50%。担当部分の発表 30%。ディスカッション、授業での発言、積極性 20%		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	中川 純子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では音声学の基礎とドイツ語発音の技法を学びます。言葉となる音はどの言語のどんな音でも音声器官を使って発せられます。つまり音声器官を自在に操れるようになれば、今まで出したことのない、あるいは聞いただけではどうしても出せなかった音が出せるようになるはずです。大人の学習者はリピート練習だけでは未知の音を習得することは難しいと言われています。まず日本語で使っている音を確認することから始めて、ドイツ語らしい音の出る仕組みを探ります。他方、個々の音をいくらか的確に発音しても、話すスピードが速すぎたり遅すぎたり、話し方があまりに単調であったり、間の取り方が適切でなかったりすると聞き手は話のつながりを見失い聞く気をなくしてしまいます。授業ではドイツ語テキストの朗読を通じてリズムやイントネーションがドイツ語の発音にどのような役割を果たしているのかも学んでいきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション (調音点と調音法・IPA) 2 日本語の発音 (50音図) 3~4 ドイツ語発音の基本ルール・母音 5~6 ドイツ語発音の基本ルール・子音 7~8 単語の発音 (音節・子音連続・氣息音) 9 アクセントグループ 10 文の発音 (音変化とリズム) 11 文章の発音 (意味まとまり・イントネーション・ポーズ) 12 朗読練習 13 朗読練習 14 まとめと発表 15 期末試験 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。レポートは家での準備と執筆が中心になります。本講座の参加は資料を調べ、執筆を行う時間があることを前提とします。		
テキスト	開講時に指示します。		
参考文献			
評価方法	小テスト 20% 期末テスト 30% 授業への参加度 20% 発表 30%		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ 思想 ） a	担当者	永本 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、近世ドイツのキリスト教の歴史と思想を理解することを目的とします。宗教改革後のドイツでは、カトリック、ルター派、改革派など様々な教会が並立し、それぞれ違った教えを説いていました。そのために、近世ドイツの歴史を扱った概説書 Franz Blendle, <i>Das konfessionelle Zeitalter</i> を読みながら、複雑な宗派的状況と宗派による思想の違いを学んでいきます。日本語文献も読みながら関連する問題に対する理解を深め、自分でまとめ、報告することが求められます。使用するテキストはコピーを配付します。		1 オリエンテーション 2 宗教改革と宗派化の時代についての説明。 3 キリスト教思想についての説明。 4 テキスト講読。 5 テキスト講読。 6 テキスト講読。 7 テキスト講読。 8 テキスト講読。 9 テキスト講読。 10 テキスト講読。 11 学生報告。 12 学生報告。 13 学生報告。 14 学生報告。 15 まとめ。	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	分からない概念や事柄を調べながら、事前にテキストを精読してきて下さい。学期後半の報告準備を適宜進めて下さい。		
テキスト	Blendle, Franz, <i>Das konfessionelle Zeitalter</i> , Berlin 2010.		
参考文献	A. E. マクグラス著、高柳俊一訳『宗教改革の思想』教文館、2000年。		
評価方法	授業への参加度 60%。授業中の発表 40%。		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ 思想 ） b	担当者	永本 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、近世ドイツのキリスト教の歴史と思想を理解することを目的とします。宗教改革後のドイツでは、カトリック、ルター派、改革派など様々な教会が並立し、それぞれ違った教えを説いていました。そのために、近世ドイツの歴史を扱った概説書 Franz Blendle, <i>Das konfessionelle Zeitalter</i> を読みながら、複雑な宗派的状況と宗派による思想の違いを学んでいきます。日本語文献も読みながら関連する問題に対する理解を深め、自分でまとめ、報告することが求められます。使用するテキストはコピーを配付します。		1 オリエンテーション 2 宗教改革と宗派化の時代についての説明。 3 キリスト教思想についての説明。 4 テキスト講読。 5 テキスト講読。 6 テキスト講読。 7 テキスト講読。 8 テキスト講読。 9 テキスト講読。 10 テキスト講読。 11 学生報告。 12 学生報告。 13 学生報告。 14 学生報告。 15 まとめ。	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	分からない概念や事柄を調べながら、事前にテキストを精読してきて下さい。学期後半の報告準備を適宜進めて下さい。		
テキスト	Blendle, Franz, <i>Das konfessionelle Zeitalter</i> , Berlin 2010.		
参考文献	A. E. マクグラス著、高柳俊一訳『宗教改革の思想』教文館、2000年。		
評価方法	授業への参加度 60%。授業中の発表 40%。		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) a	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
社会テーマをドイツ語で読む この授業ではドイツ語を2年以上学んだ学生を対象にドイツ語のSachtextと呼ばれるテキストタイプの文章を読みます。テキストの講読を通してテーマに関する知識の深化はもとより、テキストへの語学的アプローチ方法や語順、接続、態、話法などの中級文法の習得を目指します。 春学期はmultikulturelle Gesellschaft－多文化共生を中心のテーマに据えて、Migration, ethnische Konflikte, Pararellgesellschaft, nationale Minderheitenなどのキーワードを参考にテキストを選び、読んでいきます。 テキストを日本語に置き換えるのではなく、ドイツ語を深く理解・解釈してテキストのメッセージを正しく把握できる語学力を身に着けることを目指しましょう。		1. 授業計画と課題について 2. メインテーマ－「多文化共生」とは 3. テキストへの基本的なアプローチ法と文法知識 4. テキスト講読(1) 5. テキスト講読(2) 6. テキスト講読(3) 7. 文法と語彙の整理 8. テキスト講読(4) 9. テキスト講読(5) 10. テキスト講読(6) 11. 語彙とアプローチ法の整理 12. 専門語彙の造語的特徴について 13. 到達度の確認－テキスト講読(7) 14. Sachtextを読むために必要な文法知識 15. 春学期のまとめ	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題テキストを読み、語彙などの下調べをしておく。授業後には授業時の訳や情報を整理する。		
テキスト	教材はすべてプリントで配布します。		
参考文献	必要に応じて授業時に紹介していきます。		
評価方法	授業への参加度(50%)とドイツ語運用力の改善(20%)、学期末の課題(30%)で評価します。		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
社会テーマをドイツ語で読む この授業では春学期に続いて社会テーマを扱ったSachtextを講読しながら、ドイツ語テキストへのアプローチ方法に磨きをかけていきます。 テキストのメインテーマは春学期と同じく「多文化共生」ですが、テーマの切り口を少し変えてFlüchtlingspolitik, Einwanderung, Grenzüberschreitung等の政治の視点から見た多文化共生問題について読んでいきます。 グローバル化や国際化、またグローバル化や地域分散型社会について意見が飛び交うなかで、ドイツ語を通して情報や知見を集める方法を習得し、複数の角度から「多文化共生」について考えられるようにしましょう。		1. 授業計画と課題について 2. メインテーマ－Ausländerpolitik 3. テキストへの基本的なアプローチ法と文法知識 4. テキスト講読(1) 5. テキスト講読(2) 6. テキスト講読(3) 7. 文法と語彙の整理 8. テキスト講読(4) 9. テキスト講読(5) 10. テキスト講読(6) 11. 語彙とアプローチ法の整理 12. 到達度の確認－テキスト講読(7) 13. テキストを読むための文法とは 14. Multikulti関連の語彙を考える 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題テキストを読み、語彙などの下調べをしておく。授業後には授業時の訳や情報を整理する。		
テキスト	教材はすべてプリントで配布します。		
参考文献	必要に応じて授業時に紹介していきます。		
評価方法	授業への参加度(50%)とドイツ語運用力の改善(20%)、学期末の課題(30%)で評価します。		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） a	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 Friedrich NIETZSCHE (1844 -1900) の Also sprach Zarathustra 入門を目指しますが、何よりドイツ語力を磨く機会にしてみたいと思います。</p> <p>概要 Also sprach Zarathustra からその序説 Zarathustras Vorrede を読みます。</p> <p>佐々木中:『ツァラトゥストラかく語りき』（河出文庫）を手がかりに、丹念に原文に当たります。文体は古風ですが、そのリズムと豊穡な語彙に触れ、Zarathustra ひいては NIETZSCHE の世界に踏み込む機会になるよう願います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Als Zarathustra dreißig Jahre alt war, 3. Zarathustra stieg allein das Gebirge abwärts... 4. Der Heilige lachte über Zarathustra... 5. Was ist der Affe für den Menschen? 6. Seht, ich lehre euch den Übermenschen 7. Zarathustra aber sah das Volk an 8. Ich liebe den, 9. Als Zarathustra diese Worte gesprochen hatte, 10. Seht! Ich zeige euch den letzten Menschen. 11. Und hier endete die erste Rede Zarathustras, 12. Vorwärts, Lahmfuß, 13. Als Zarathustra dies zu seinem Herzen gesagt hatte, 14. Lange schlief Zarathustra... 15. Dies hatte Zarathustra zu seinem Herzen gesprochen. 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所を事前に音読並びに精読しておいて下さい。		
テキスト	F. NIETZSCHE: Also sprach Zarathustra テキストはプリントを配布します。		
参考文献	村井 則夫著『ニーチェ — ツァラトゥストラの謎』（中公新書）		
評価方法	定期試験 60%、平常授業における発表や貢献度を 40%で評価します。		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） b	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 Sigmund FREUD(1856-1939) の文学論 Das Motiv der Kästchenwahl を読み、原文読解の技法を身につけます。</p> <p>概要 心理学の立場から SHAKSPEARE の "Kaufmann von Venedig" および "König Lear" における「選択のモチーフ」が、読み解かれます。短い論ながら、古代神話やグリム童話などを手がかりに、女性に対する男性の関係が浮かび上がってきます。</p> <p>例にあげられた神話や童話についても検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Zwei Szenen aus Shakespeare, 3. Shakespeare hat das Orakel... 4. Fassen wir unseren Stoff nochmals ins Auge, 5. Die beiden älteren, Goneril und Regan, 6. Wer sind aber diese drei Schwestern 7. In den altgriechischen Erzählungen... 8. Ich greife hier das neunte der Grimmschen Volksmärchen heraus, 9. Ganz ähnlich werden im Märchen von den sechs Schwänen 10. Stellen wir die Sorge, 11. Die Beziehung zur Zeit blieb den Horen erhalten 12. Und nun ist es Zeit, 13. Aber wir werden daran denken, daß es Motive... 14. Dieselbe Erwägung beantwortet uns die Frage, 15. Lear ist ein alter Mann. 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト	S. FREUD: Das Motiv der Kästchenwahl テキストはプリントを配布します。		
参考文献	適宜授業中に指示します		
評価方法	定期試験 60%、平常授業における発表や貢献度を 40%で評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 a	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><講義概要> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>画像・映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン派までを扱う。春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2. ルネサンス・宗教改革期① 3. 同② 4. 同③ 5. 三十年戦争・バロック期① 6. 同② 7. 同③ 8. 啓蒙主義時代① 9. 同② 10. 同③ 11. ロマン派① 12. 同② 13. 同③ 14. グリムのメルヒェン 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の芸術・文化に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。		
テキスト	特に指定しない。テーマごとにレジюмеおよび資料プリントを配布する。		
参考文献	テーマごとのレジюме末尾に記載する。		
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%の割合で評価を行う。詳細は授業中に指示する。		

09年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 b	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><講義概要> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>画像・映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。秋学期は、19世紀後半から現代までを扱う。春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2. 19世紀後半① ニーチェとヴァーグナーをめぐって 3. 同② 4. 世紀転換期① ウィーン世紀末を中心に 5. 同② 6. モダニズム① ドイツ表現主義を中心に 7. 同② 8. ヴァイマル文化① 9. 同② 10. ナチズムと芸術① 11. 同② 12. 同③ 13. 現代へ：新たな芸術の展開① J. ボイスをめぐって 14. 同② 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の芸術・文化に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。		
テキスト	特に指定しない。テーマごとにレジюмеおよび資料プリントを配布する。		
参考文献	テーマごとのレジюме末尾に記載する。		
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%の割合で評価を行う。詳細は授業中に指示する。		

09年度以降	ドイツ語圏の美術 a	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、広くヨーロッパの美術の歴史を外観しながら、ドイツ語圏の美術の特質を浮き彫りにすることである。2017年はルターの宗教改革500周年にあたり、ルターと共に活躍したルーカス・クラナハの芸術を中心とする展覧会や催し物がドイツおよび日本において開催された。</p> <p>本年も引き続き、宗教改革時代の芸術を取り上げ、「近世」と言われる時代の転換期に、どのような形で芸術が変化したのか、前期はキリスト教美術の「祈念像 Andachtsbild」という絵画形態を中心に沿えて考えたい。</p> <p>15世紀から16世紀半ばにかけて、ドイツの美術はイタリア・ルネサンスを中心とした新たな芸術動向と、宗教改革においてルターと共に誕生した新しいプロテスタントの絵画の間で揺れ動く。この状況を具体的な作品研究を通じて浮き彫りにしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 祈念像とは何か①（パノフスキーを中心に） 3. 祈念像とは何か②（ベルティンクを中心に） 4. 祈念像とは何か③（問題提起） 5. 聖グレゴリウスのみサの画像展開（1） 6. 聖グレゴリウスのみサの画像展開（2） 7. 聖グレゴリウスのみサの画像展開（3） 8. ルーカス・クラナハと宗教改革（1） 9. ルーカス・クラナハと宗教改革（2） 10. ルーカス・クラナハと宗教改革（3） 11. イタリアにおける祈念像の展開（1） 12. イタリアにおける祈念像の展開（2） 13. イタリアにおける祈念像の展開（3） 14. 総括1 15. 総括2 	
到達目標	ドイツ語圏の美術に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で紹介した多数の絵画作品について各自で調べ、データを整理する		
テキスト	授業中に指示する		
参考文献	授業中に指示する		
評価方法	学期末に講義全体の内容に関する筆記試験を行う		

09年度以降	ドイツ語圏の美術 b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、広くヨーロッパの美術の歴史を外観しながら、ドイツ語圏の美術の特質を浮き彫りにすることである。2017年はルターの宗教改革500周年にあたり、ルターと共に活躍したルーカス・クラナハの芸術を中心とする展覧会や催し物がドイツおよび日本において開催された。</p> <p>後期は前期に引き続き、宗教改革時代の芸術を取り上げ、「近世」と言われる時代の転換期に、どのような形で芸術が変化したのか、ドイツを代表する画家アルブレヒト・デューラーの芸術を中心に考察する。</p> <p>15世紀から16世紀半ばにかけて、ドイツの美術はイタリア・ルネサンスを中心とした新たな芸術動向と、宗教改革においてルターと共に誕生した新しいプロテスタントの絵画の間で揺れ動く。この状況を具体的な作品研究を通じて浮き彫りにしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. アルブレヒト・デューラーの絵画論① 3. アルブレヒト・デューラーの絵画論② 4. アルブレヒト・デューラーの絵画論③ 5. アルブレヒト・デューラーの宗教画① 6. アルブレヒト・デューラーの宗教画② 7. アルブレヒト・デューラーの宗教画③ 8. アルブレヒト・デューラーの宗教画④ 9. アルブレヒト・デューラーの宗教画⑤ 10. アルブレヒト・デューラーとイタリア① 11. アルブレヒト・デューラーとイタリア② 12. アルブレヒト・デューラーとイタリア③ 13. 総括① 14. 総括② 15. 総括③ 	
到達目標	ドイツ語圏の美術に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で紹介した多数の絵画作品について各自で調べ、データを整理する		
テキスト	授業中に指示する		
参考文献	授業中に指示する		
評価方法	学期末に講義全体の内容に関する筆記試験を行う		

09年度以降	ドイツ語圏の音楽 a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（CD等）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。（音楽理論の予備知識は特になくても大丈夫です。）</p> <p>春学期には、中世から18世紀までに書かれた多様な音楽作品をとりあげます。普段耳にする機会の少ない作品もあるかも知れませんが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。</p> <p>◇注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p> <p>◇鑑賞がしやすいよう、なるべく教室の前半分に座ってください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J.S. バッハの生涯と器楽作品 8. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽 10. テレマンの音楽 11. 前古典派の音楽 12. J. ハイドンの音楽 13. W.A. モーツァルトの生涯と器楽作品 14. モーツァルトの声楽作品 15. まとめ・授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏の音楽史を概観し、ドイツ語圏の音楽に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。		
テキスト	コピーで配布		
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。		
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の3分の2以上の出席が評価の前提です。30分以上の遅刻は欠席扱いとします。		

09年度以降	ドイツ語圏の音楽 b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。</p> <p>秋学期には、18世紀終わり頃から現在までに書かれた音楽を、主に「作曲家とその作品」という観点からとりあげます。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、了承しておいてください。</p> <p>◇注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p> <p>◇鑑賞がしやすいよう、なるべく教室の前半分に座ってください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、ベートーヴェンの生涯と音楽 *初回授業の内容から、試験範囲に入ります。 2. ベートーヴェン 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン 5. シューマン 6. リスト 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. 19世紀終わり頃のドイツ語圏の音楽 10. 20世紀のドイツ語圏の音楽 11. ドイツ語圏の国歌 12. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 13. ドイツ語圏の民謡、ポップス 14. まとめ・授業内試験 15. 総括 	
到達目標	ドイツ語圏の音楽史を概観し、ドイツ語圏の音楽に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。		
テキスト	コピーで配布		
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。		
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の3分の2以上の出席が評価の前提です。30分以上の遅刻は欠席扱いとします。		

09年度以降	ドイツ語圏の演劇 a	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>演劇と映画は発生の時期は違うが、「演じる」「観る」という点では、たくさん共通したものがああります。大きな違いは、「技術」への依存度と「再現性」です。</p> <p>今学期は、前半に演劇の発生と発達の歴史をたどり、後半では無声映画からトーキーに至る映画の発達史を扱います。キリのいいところまで来るたびに、それまでの授業のポイントに各自の考えや調べたことを加えて、3000字くらいのレポートを書いてもらいます。</p> <p>なお、最近では授業中にスマホ等でメールを書いたりする学生がいますが、私の授業では厳禁です。見つかった場合は、以後の授業参加をお断りします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の内容紹介と基本問題 2. 演劇の発生 3. ドイツ演劇の源流 4. ドイツ演劇の展開 (1) 5. ドイツ演劇の展開 (2) 6. ドイツ演劇の近代化 (1) 7. ドイツ演劇の近代化 (2) 8. ドイツ演劇のまとめ 9. ドイツ映画の発生 (1) 10. ドイツ映画の発生 (2) 11. 初期のドイツ映画 (1) 12. 初期のドイツ映画 (2) 13. トーキー映画の発達 (1) 14. トーキー映画の発達 (2) 15. 演劇と映画のまとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の演劇に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	必要に応じて授業中に指示する。		
テキスト	必要に応じてコピーを事前配布		
参考文献	特になし		
評価方法	長めのレポートを2～3回提出してもらい、それで評価する。		

09年度以降	ドイツ語圏の演劇 b	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの演劇は、日本では観る機会が極端に少ないため、製作当初から再現可能な形で作られた映画を主として取り上げる。戦争直後、ドイツ分裂時代、そして現代までのドイツ映画の特徴を概観したあと、基本パターンの異なる映画をやや詳しく見ていく。そして、ときには内容要約をしてもらったり、途中まで見た映画のその後の展開を予想してもらったり、映画のパターンについて考えていく。切れ目が終わるごとに、それにに応じて短いレポート、あるいは長めのレポートを数回提出してもらおう。</p> <p>授業中にスマホ等を操作する学生は、その後の出席を断る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 演劇と映画、映画の特徴 2. 戦後期の映画 3. 西独映画の展開 4. 東独映画の特徴 5. ドイツ統一と映画 (1) 6. ドイツ統一と映画 (2) 7. ドイツ統一と映画 (3) 8. ドイツ映画の成功作 (1) 9. ドイツ映画の成功作 (2) 10. ストーリー性の強い映画 (1) 11. ストーリー性の強い映画 (2) 12. ストーリー性の強い映画 (3) 13. 特異な映画 (1) 14. 特異な映画 (2) 15. 戦後ドイツ映画のまとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の演劇に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	必要に応じて授業で指示する。		
テキスト	必要に応じてコピーを事前配布する		
参考文献	特になし		
評価方法	数回レポートを提出してもらい、それで評価する。		

09年度以降	ドイツ語圏のメディア文化 a	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〈ドイツの文化政策——思考アイテム入手編〉</p> <p>ドイツはしばしば、芸術家を惹き付けてやまない「芸術大国」と言われます。日本では足を踏み入れなくても、ドイツに旅行や留学をする際には、現地のオペラ座やコンサートホール、博物館（お城を含む）や美術館に行きたいと思っている人も少なくないでしょう。</p> <p>この講義では、ドイツが持つ文化面でのこうした「魅力」がどのように培われているのか、その背景を紐解きます。ドイツの「魅力」が培われた背景には、様々な歴史と特殊な思考回路があります。それは今見える「成功事例」だけを日本人の視点から見ても理解できません。まずは今の「ドイツ」を形成している歴史、政治や経済の考え方の基本を知り、日本とは違う背景やロジックをおさえた上で、ドイツでは芸術や文化がどのようなものと考えられて、支えられているのかを明らかにしていきましょう。</p>		<p>《芸術文化は、“育む”もの？一日独の視点の相違》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツ連邦共和国における政治—その原則と構造 3. ドイツにおける公権力と芸術文化をめぐる諸課題 4. 近代国家形成期の国家理論—文化国家と法治国家論 5. 「教養市民層」という存在と日本の近代化への影響 6. ボン基本法の構造と特色—ヴァイマル憲法との比較 7. 戦後西ドイツの経済原則—一日独の理念の比較 8. 補完性の原則に見るドイツおよびEUの政治姿勢 9. 戦後ドイツ社会の民主化—背景、理念、実践 10. 民主化への転機—アウシュヴィッツ裁判（映像） 11. 学生運動から「文化」の民主化へ 12. 社会問題を扱うドイツの映画（外部講師） 13. 「自由」の種類—公権力による制限の可否 14. 表現の自由と間文化的な摩擦 15. 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏のメディア文化に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時に予告したテキストの章あるいは、指定の文献を読んでから出席してください。		
テキスト	藤野一夫、秋野有紀、マティアス・T・フォークト編著『地方分権の国ドイツの文化政策』美学出版、2017		
参考文献	野村朋弘編『日本文化の源流を探る（22）』藝術学舎、2014、西田慎、近藤正基編著『現代ドイツ政治』ミネルヴァ書房 2014		
評価方法	授業内試験 80%、平常点 20%		

09年度以降	ドイツ語圏のメディア文化 b	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〈ドイツの文化政策——迷宮編〉</p> <p>春学期には、思考のツールを身に着けました。その上で秋学期は、芸術文化の各領域（劇場、ミュージアム、多文化共生、国際交流など）の具体的課題に目を向けて、一緒に考えてみましょう。世界各国で今動いている問題なので、「正解」はありません。2020年のオリンピックに向けて、日本は「文化」も発信していきますが、文化を扱う政策を知れば知るほど、何をすべきか、迷うことになるでしょう。「伝統」の真偽、多数決と質の高さの非両立性、資金と成功の因果関係の不透明性、プロパガンダと紙一重の危険、数値化・効率化を求める時勢……等々、様々に落とし穴があります。観光動員のために何かを仕掛けるのではなく、芸術や文化が育まれる環境を長期的視点で整え、文化的に「魅力」のある国・地域を作るという日独文化政策の今日の壮大な理念は、夢でしかないのでしょうか。</p>		<p>《何が「成功」なのか？どう評価するのか？》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日独の文化政策—産業規模と制度的背景 2. 芸術文化施設の機能変化—誰のため？何のため？ 3. 芸術文化を政策的に扱う手法（法的側面） 4. 芸術文化を政策的に扱う手法（文化経済学） 5. 劇場—ボウモル・ボウエンのコスト病と助成の是非 6. ミュージアム—機能、理念、政策構造、形態 7. ドイツと日本の「文化」概念と文化施設の違い 8. 戦後ドイツの対外イメージ戦略—政策と歴史 9. 戦後ドイツの対外イメージ戦略—手法と構造 10. 観光・産業資源化する歴史問題 11. 社会批判的なアート活動 12. 移民・難民—多文化共生政策の手法と効果 13. 文化政策における「成功」とは—多数決と質 14. 芸術文化を数値化して評価することの両義性 15. 授業内試験 <p>※春学期に基礎的な考え方を履修してから受講した方が理解は深まりますが、必須条件ではありません。</p>	
到達目標	ドイツ語圏のメディア文化に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の授業の最後に示される次回の事例問題について、各自考えてくる。		
テキスト	藤野一夫、秋野有紀、マティアス・T・フォークト編『地方分権の国ドイツの文化政策』美学出版、2017		
参考文献	伊藤裕夫、藤井慎太郎編『芸術と環境』論創社、2011、宮本直美『教養の歴史社会学』岩波書店、2006		
評価方法	授業内試験 80%、平常点 20%		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Unterricht lesen wir Texte aus dem Alten Testament. Kenntnisse der wichtigsten Episoden und Geschichten der Bibel sind unabdingbare Voraussetzung zum Verständnis zahlloser Werke der europäischen Kultur, auf dem Gebiet der Bildenden Kunst, der Musik, der Literatur. Die Texte werden in Absprache mit den TeilnehmerInnen festgelegt. Eine mögliche Auswahl ist:</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Genesis, Erschaffung der Welt 2. Adam und Eva 3. Kain und Abel 4. Noah 5. Noah 6. Der Turmbau zu Babel 7. Lot 8. Abrahams Opfer 9. Josef und seine Brüder 10. Josef und seine Brüder 11. Moses 12. Moses 13. Die ägyptischen Plagen 14. Auszug aus Ägypten 15. Jona 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitende Lektüre der Texte, schriftliche Zusammenfassungen, Recherche typischer Kunstwerke, Musikstücke etc. zu einzelnen Bibeltexten. (ca. 90 Minuten)		
テキスト	Kopien, der Texte und Bilder werden im Unterricht verteilt.		
参考文献	Das Alte Testament		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Vorbereitung, Aufgaben, Test		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、ドイツ語の入門書を使いながら、ドイツの美術に関する幅広い知識を身につけることである。本年は Gabriele Kopp-Schmidt の <i>Ikonographie und Ikonologie. Eine Einführung</i> (2004) を使いながら、西洋美術史を学ぶ上での重要な概念や方法論について学ぶ。</p> <p>前期は中世のキリスト教美術において重要な機能を果たした「祈念像 <i>Andachtsbild</i>」について学ぶ。</p> <p>授業ではテキストの中で扱われる多くの画像について、パワーポイントを使って解説を行う。</p> <p>受講者は必ず授業中に配布するドイツ語テキストの予習ならびに復習をすることが求められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. テキスト研究① 3. テキスト研究② 4. テキスト研究③ 5. テキスト研究④ 6. テキスト研究⑤ 7. テキスト研究⑥ 8. テキスト研究⑦ 9. テキスト研究⑧ 10. テキスト研究⑨ 11. テキスト研究⑩ 12. テキスト研究⑪ 13. テキスト研究⑫ 14. テキスト研究⑬ 15. 総括 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語テキストの予習ならびに復習		
テキスト	G. Kopp –Schmidt, <i>Ikonographie und Ikonologie. Eine Einführung</i> . Deubner Verlag für Kunst, 2004		
参考文献			
評価方法	学期末に筆記試験を行う		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、ドイツ語の入門書を使いながら、ドイツの美術に関する幅広い知識を身につけることである。本年は Gabriele Kopp-Schmidt の <i>Ikonographie und Ikonologie. Eine Einführung</i> (2004) を使いながら、西洋美術史を学ぶ上での重要な概念や方法論について学ぶ。</p> <p>後期は宗教改革と反宗教改革の両陣営でどのような芸術が生み出されたかについて学ぶ。</p> <p>授業ではテキストの中で扱われる多くの画像について、パワーポイントを使って解説を行う。</p> <p>受講者は必ず授業中に配布するドイツ語テキストの予習ならびに復習をすることが求められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. テキスト研究① 3. テキスト研究② 4. テキスト研究③ 5. テキスト研究④ 6. テキスト研究⑤ 7. テキスト研究⑥ 8. テキスト研究⑦ 9. テキスト研究⑧ 10. テキスト研究⑨ 11. テキスト研究⑩ 12. テキスト研究⑪ 13. テキスト研究⑫ 14. テキスト研究⑬ 15. 総括 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ドイツ語テキストの予習ならびに復習		
テキスト	G. Kopp –Schmidt, <i>Ikonographie und Ikonologie. Eine Einführung</i> . Deubner Verlag für Kunst, 2004		
参考文献			
評価方法	学期末に筆記試験を行う		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>2018年度は、《魔王 Erlkönig》で知られる作曲家シューベルト（1797～1828）に焦点をあて、その生涯と作品に関する文章を読んでいきます。歌曲の歌詞を訳す回も設ける予定です。また、文章の内容に関連した音楽を授業中にお聞かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。</p> <p>◇注意事項：毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。音楽の専門用語や19世紀のドイツ語特有の表現等が出てくることもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>1. シューベルトの生涯と音楽について *初回の授業で分担のしかた等を決めたいと思いますので、受講予定者は必ず出席してください。 (やむを得ず欠席する場合は、予めメール連絡を)</p> <p>2～14. シューベルトの生涯と作品 プリントで配布したドイツ語文を読み、文法事項も復習していきます。 *各回の授業は前の回までの授業内容を前提に進めますので、毎回必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合は、欠席回の内容を次の回までに確認し、次の回の予習もしてきてください。</p> <p>15. まとめ・授業内試験</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の予習・復習やテキストの内容に関する調査		
テキスト	プリントで配布		
参考文献	辞書は小学館の『独和大辞典』を用いてください。		
評価方法	平常点（予習含む）30%、試験70%。全授業回数の3分の2以上の出席が評価の前提です。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	佐藤 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「手紙から垣間見るモーツァルト家の人々の生活」</p> <p>この授業では、18世紀後半にモーツァルト家の人々が書き残した手紙を資料として、モーツァルト家の生活、また書き手の人となり、手紙を通じて垣間見てみたいと思います。モーツァルトおよび家族の人たちは、いったいどのような内容を、どのようなことばで伝え合っていたのでしょうか。</p> <p>春学期はモーツァルト誕生（1756年）から母の死（1778年）までの時期から、5つのトピックを扱います。3回目以降は、授業3回分を1ユニットとして構成し、各トピックにアプローチします。まずは各トピックについて内容紹介する発表（パワーポイントによるプレゼンテーション）を受講生にしてもらいます。そのあと手紙を実際に講読していきます、グループで意見を出しあい、全体討論を経て理解を深めます。ハンドアウトの作り方、発表の仕方等に関しては、そのつど具体的に指導します。</p>		<p>1 導入（授業についての説明、発表の分担決め） * 初回の授業で口頭発表の分担を決めますので、受講予定者は必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合は事前にメールで連絡してください。</p> <p>2 モーツァルト誕生（1756年：モーツァルト0歳） 教員による概要説明と手紙講読</p> <p>3-5 ヨーロッパ各地への演奏旅行（1762年～：6歳～） 受講生による発表と手紙講読</p> <p>6-8 父子のイタリア旅行（1769年～：13歳～） 受講生による発表と手紙講読</p> <p>9-11 ミュンヘン・マンハイム旅行（1777年～：21歳～） 受講生による発表と手紙講読</p> <p>12-14 パリ旅行と母の死（1778年：22歳） 受講生による発表と手紙講読</p> <p>15 総括</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に必ず予習をし、口頭発表をする際にはしっかり準備をして臨むようにしてください。		
テキスト	テキストはコピーで配布します。		
参考文献	授業で適宜、指示します。		
評価方法	授業への参加度と毎回配布するリアクションペーパー（60%）、および個人発表（40%）による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	佐藤 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「手紙から垣間見るモーツァルト家の人々の生活」</p> <p>春学期に引き続き、秋学期ではウィーンでの音楽活動（1781年）からモーツァルト最期の年（1791年）までの時期から、5つのトピックを扱います（ただし、受講生の希望によってテーマを変更する可能性もあります。）春学期同様、各ユニットの最初には、各トピックについて内容紹介する発表（パワーポイントによるプレゼンテーション）を受講生にしてもらいます。</p>		<p>1 導入（授業についての説明、発表の分担決め） * 初回の授業で口頭発表の分担を決めますので、受講予定者は必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合は事前にメールで連絡してください。</p> <p>2 ウィーンでの音楽活動（1781年～：モーツァルト25歳～） 教員による概要説明と手紙講読</p> <p>3-5 コンスタンツェとの結婚（1782年：26歳） 受講生による発表と手紙講読</p> <p>6-8 姉ナンネルの結婚（1784年：28歳） 受講生による発表と手紙講読</p> <p>9-11 父レオポルトの死（1787年：31歳） 受講生による発表と手紙講読</p> <p>12-14 モーツァルト最期の年（1791年：35歳） 受講生による発表と手紙講読</p> <p>15 総括</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に必ず予習をし、口頭発表をする際にはしっかり準備をして臨むようにしてください。		
テキスト	テキストはコピーで配布します。		
参考文献	授業で適宜、指示します。		
評価方法	授業への参加度と毎回配布するリアクションペーパー（60%）、および個人発表（40%）による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究 (芸術・文化) a (水曜4時限)	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
【水4】ドイツ中世の教会建築を学ぶ I ヨーロッパの多くの都市には、中世のロマネスク様式やゴシック様式の教会建築がある。これを知らずしてはドイツの芸術・文化も語れない。そこで、本学の協定校があるHildesheimで世界遺産 (Weltkulturerbe) に登録された聖ミハエリス教会 (St. Michaelis) のドイツ語解説文 (前半) により、ドイツ中世の教会建築について学ぶとともに、文章ドイツ語を読めるようになる。そのためには、文章ドイツ語の文法構造と意味とを精確に把握する必要がある。最初の数回で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続くテキスト読解にあたっては、日本語とドイツ語における意味のずれに着目するので、そのずれを隠蔽する訳読はしない。そうすれば、学習用教科書の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。		01. 文章ドイツ語解読のための文法1 02. 文章ドイツ語解読のための文法2 03. Hildesheimer St. Michaelis I-1 04. Hildesheimer St. Michaelis I-2 05. Hildesheimer St. Michaelis I-3 06. Hildesheimer St. Michaelis I-4 07. Hildesheimer St. Michaelis I-5 08. Hildesheimer St. Michaelis I-6 09. Hildesheimer St. Michaelis I-7 10. Hildesheimer St. Michaelis I-8 11. Hildesheimer St. Michaelis I-9 12. Hildesheimer St. Michaelis I-10 13. Hildesheimer St. Michaelis I-11 14. Hildesheimer St. Michaelis I-12 15. まとめ	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所を予め読んでおく。【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領 (学期冒頭にプリント配付) でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト	プリント		
参考文献	1. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社) / 2. Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール (60%)、および宿題と授業内小テスト (40%) の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究 (芸術・文化) b (水曜4時限)	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
【水4】ドイツ中世の教会建築を学ぶ II ヨーロッパの多くの都市には、中世のロマネスク様式やゴシック様式の教会建築がある。これを知らずしてはドイツの芸術・文化も語れない。そこで、本学の協定校があるHildesheimで世界遺産 (Weltkulturerbe) に登録された聖ミハエリス教会 (St. Michaelis) のドイツ語解説文 (後半) により、ドイツ中世の教会建築について学ぶとともに、文章ドイツ語を読めるようになる。そのためには、文章ドイツ語の文法構造と意味とを精確に把握する必要がある。最初の数回で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続くテキスト読解にあたっては、日本語とドイツ語における意味のずれに着目するので、そのずれを隠蔽する訳読はしない。そうすれば、学習用教科書の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。		01. 文章ドイツ語解読のための文法1 02. 文章ドイツ語解読のための文法2 03. Hildesheimer St. Michaelis II-1 04. Hildesheimer St. Michaelis II-2 05. Hildesheimer St. Michaelis II-3 06. Hildesheimer St. Michaelis II-4 07. Hildesheimer St. Michaelis II-5 08. Hildesheimer St. Michaelis II-6 09. Hildesheimer St. Michaelis II-7 10. Hildesheimer St. Michaelis II-8 11. Hildesheimer St. Michaelis II-9 12. Hildesheimer St. Michaelis II-10 13. Hildesheimer St. Michaelis II-11 14. Hildesheimer St. Michaelis II-12 15. まとめ	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所を予め読んでおく。【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領 (学期冒頭にプリント配付) でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト	プリント		
参考文献	1. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社) / 2. Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール (60%)、および宿題と授業内小テスト (40%) の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a （水曜5時限）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
【水5】日本庭園を語るドイツ語 I 私たちが、ドイツ語で日本について発信するとき、ドイツ語母語者の語る内容には含まれないことを語らざるをえない。ドイツにはない文化的事象が、日本にはあるからだ。そこで、ドイツの日本美術史家 Schaarschmidt-Richter の „Gartenkunst in Japan“（『日本の庭園芸術』）から、極楽浄土を現世に再現しようとした浄土庭園の説明（前半）を読もう。宇治の平等院がその中心だ。これを読めば、日本の伝統文化を説明するドイツ語も学べる。庭園や絵図の写真の助けも借りて、文章ドイツ語の文法構造と意味とを把握するのに注力しよう。そのためにも、日本語とドイツ語における意味のずれを覆い隠して原語の理解を妨げる訳読はしない。そうすれば、学習用教科書のドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かる。最初の数回で文章ドイツ語読解のための高橋文法も学ぶ。		01. 文章ドイツ語読解のための文法1 02. 文章ドイツ語読解のための文法2 03. 浄土庭園 I-1 04. 浄土庭園 I-2 05. 浄土庭園 I-3 06. 浄土庭園 I-4 07. 浄土庭園 I-5 08. 浄土庭園 I-6 09. 浄土庭園 I-7 10. 浄土庭園 I-8 11. 浄土庭園 I-9 12. 浄土庭園 I-10 13. 浄土庭園 I-11 14. 浄土庭園 I-12 15. まとめ	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所を予め読んでおく。【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領（学期冒頭にプリント配付）でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト	プリント		
参考文献	1. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社） / 2. Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%）、および宿題と授業内小テスト（40%）の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b （水曜5時限）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
【水5】日本庭園を語るドイツ語 II 私たちが、ドイツ語で日本について発信するとき、ドイツ語母語者の語る内容には含まれないことを語らざるをえない。ドイツにはない文化的事象が、日本にはあるからだ。そこで、ドイツの日本美術史家 Schaarschmidt-Richter の „Gartenkunst in Japan“（『日本の庭園芸術』）から、極楽浄土を現世に再現しようとした浄土庭園の説明（後半）を読もう。宇治の平等院がその中心だ。これを読めば、日本の伝統文化を説明するドイツ語も学べる。庭園や絵図の写真の助けも借りて、文章ドイツ語の文法構造と意味とを把握するのに注力しよう。そのためにも、日本語とドイツ語における意味のずれを覆い隠して原語の理解を妨げる訳読はしない。そうすれば、学習用教科書のドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かる。最初の数回で文章ドイツ語読解のための高橋文法も学ぶ。		01. 文章ドイツ語読解のための文法 1 02. 文章ドイツ語読解のための文法 2 03. 浄土庭園 II-1 04. 浄土庭園 II-2 05. 浄土庭園 II-3 06. 浄土庭園 II-4 07. 浄土庭園 II-5 08. 浄土庭園 II-6 09. 浄土庭園 II-7 10. 浄土庭園 II-8 11. 浄土庭園 II-9 12. 浄土庭園 II-10 13. 浄土庭園 II-11 14. 浄土庭園 II-12 15. まとめ	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所を予め読んでおく。【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領（学期冒頭にプリント配付）でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト	プリント		
参考文献	1. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社） / 2. Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%）、および宿題と授業内小テスト（40%）の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) 教材の『作曲家と作品』を通して芸術の理解を深める。 2) 教材を通してさらなるドイツ語の構文解析を習得する。 3) ドイツ語によるオペラ作品を鑑賞する。</p> <p>講義概要</p> <p>昨年度に引き続き『作曲家と作品』を精読する。ドイツ語によるオペラ作品を扱う。作品の一部を映像又は音源にて鑑賞する。受講者自身の調査による研究発表、又はレポート提出も実施の予定。</p> <p>尚、オペラ及び音楽の専門知識は問わないが、オペラや音楽を愛好する積極的な受講生の参加を希望する。</p>		<p>1. 講義の概要</p> <p>2. W. A. モーツァルト『魔笛』 I 3. W. A. モーツァルト『魔笛』 II 4. W. A. モーツァルト『魔笛』 III 5. W. A. モーツァルト『魔笛』 IV 6. W. A. モーツァルト『魔笛』 V 7. W. A. モーツァルト『魔笛』 VI 8. W. A. モーツァルト『魔笛』 VII 9. W. A. モーツァルト『魔笛』 VIII 10. W. A. モーツァルト『魔笛』 IX 11. W. A. モーツァルト『魔笛』 X 12. W. A. モーツァルト『魔笛』 XI 13. 研究発表 I 14. 研究発表 II 15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材の指定された箇所を必ず予習しておくこと。また授業後はノート整理等の復習を必ず行うこと。		
テキスト	『Die Zauberflöte』 Kurt Pahlen, Schott Music GmbH 2011 / 教材はプリントで配布。		
参考文献	オペラ対訳ライブラリー『モーツァルト 魔笛』 荒井秀直訳 音楽之友社 2016年		
評価方法	期末試験 60%、授業への参加度 20%、個人発表 20%		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) 教材の『作曲家と作品』を通して芸術の理解を深める。 2) 教材を通してさらなるドイツ語の構文解析を習得する。 3) ドイツ語によるオペラ作品を鑑賞する。</p> <p>講義概要</p> <p>昨年度に引き続き『作曲家と作品』を精読する。ドイツ語によるオペラ作品を扱う。作品の一部を映像又は音源にて鑑賞する。受講者自身の調査による研究発表、又はレポート提出も実施の予定。</p> <p>尚、オペラ及び音楽の専門知識は問わないが、オペラや音楽を愛好する積極的な受講生の参加を希望する。</p>		<p>1. 講義の概要</p> <p>2. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 I 3. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 II 4. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 III 5. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 IV 6. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 V 7. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 VI 8. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 VII 9. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 VIII 10. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 IX 11. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 X 12. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 XI 13. 研究発表 I 14. 研究発表 II 15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材の指定された箇所を必ず予習しておくこと。また授業後はノート整理等の復習を必ず行うこと。		
テキスト	『Die Meistersinger von Nürnberg』 Kurt Pahlen, Schott Music GmbH 2010 / 教材はプリントで配布。		
参考文献	オペラ対訳ライブラリー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 高辻知義訳 音楽之友社 2012年		
評価方法	期末試験 60%、授業への参加度 20%、個人発表 20%		

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この講義の目的は、現代ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の社会と文化を理解するために必要な基本情報を、わかりやすく受講生に提供することである。また、ドイツ語圏諸国で現在何が問題となっているかについても検討する。</p> <p>講義概要 この講義では、政治・経済だけではなく、多様な視点からドイツ、オーストリアに加えてスイスの事情を明らかにする。毎回授業の冒頭でドイツ語圏の最新ニュースを受講生に紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツ語圏の基本情報 3. ドイツの地形と自然 4. オーストリアおよびスイスの地形と自然 5. ドイツの政党と政治システム(1) 6. ドイツの政党と政治システム(2) 7. オーストリアの政党と政治システム 8. スイスの政党と政治システム 9. EUや世界との関係 10. 経済と産業 11. メディア 12. 食文化 13. ドイツのスポーツ 14. オーストリアとスイスのスポーツ 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の現代社会に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料や参考文献を予め読んでおくこと。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習すること。		
テキスト	資料は適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。		
参考文献			
評価方法	①学期末試験 70%、②レポート 30%		

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 この講義の目的は、現代のドイツとオーストリア（秋学期はスイスを除く）の社会と文化を理解するために必要な基本情報を受講生にわかりやすく提供することである。また、ドイツ、オーストリア両国で現在何が問題となっているかについても検討する。</p> <p>講義概要 秋学期ではまずドイツ、オーストリア両国の戦後史を概観する。その後、多様な視点からドイツ、オーストリア両国の実情を明らかにしていく。春学期に続いて今学期も、授業の冒頭でドイツ語圏の最新ニュースを受講生に紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツの戦後史(1) 分割占領から東西ドイツの成立 3. ドイツの戦後史(2) ドイツ統一まで 4. ドイツの戦後史(3) 現代まで 5. オーストリアの戦後史(1) 分割占領から永世中立まで 6. オーストリアの戦後史(2) 現代まで 7. 若者と教育(1) 8. 若者と教育(2) 9. 雇用と労働 10. 社会福祉と医療 11. ジェンダーと家族関係 12. 宗教 13. 移民・難民問題(1) 14. 移民・難民問題(2) 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の現代社会に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料や参考文献を予め読んでおくこと。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習すること。		
テキスト	資料は適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。		
参考文献			
評価方法	①学末試験 70%、②レポート 30%		

09年度以降	ドイツ語圏歴史概論 a	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な「ものの見方」の習得をめざす。</p> <p>講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦までを主要な対象時期に設定し、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、映像資料を使用し、解りやすい解説を心がける。</p>		<p>第1回：年間授業計画、評価方法、参考文献等について 第2回：歴史とは何か？（主要な歴史方法論の解説） 第3回：「記憶」をめぐる論争(1)ドイツ 第4回：「記憶」をめぐる論争(2)オーストリア／日本 第5回：ビデオ上映と解説：映画『ショア』関連 第6回：ハプスブルク帝国史(1)：マリア・テレジア以前 第7回：ハプスブルク帝国史(2)：マリア・テレジア時代 第8回：19世紀史(1)：ナポレオンとドイツ語圏 第9回：19世紀史(2)：1848年革命 第10回：19世紀史(3)：若きヒトラーと世紀末ウィーン 第11回：現代の開幕(1)：ドイツ統一と世界帝国への夢 第12回：現代の開幕(2)：第一次世界大戦（原因） 第13回：映像で見る第一次世界大戦 第14回：現代の開幕(3)：第一次世界大戦（経過と帰結） 第15回：まとめ</p>	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された箇所を事前に精読しておくこと。授業後は指示された関連文献を読みすすめ授業テーマについての理解を深めること。		
テキスト	原則として、毎回講義レジュメを配布する。		
参考文献	増谷英樹・古田善文『図説オーストリアの歴史』河出書房新社 2011		
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%		

09年度以降	ドイツ語圏歴史概論 b	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 講義の目標は、ドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の現代史（第一次世界大戦以降）を受講生にわかりやすく解説することである。受講生は 20 世紀および 21 世紀にこの地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な「ものの見方」の習得をめざす。</p> <p>講義概要： 秋学期は、(1)ドイツ革命とワイマール共和国、 (2)ヒトラーの独裁体制、 (3)第二次世界大戦、 (4)戦後ドイツの歩み、 を主要なテーマとして、ドイツ語圏の激動の現代史を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、映像資料を使用し、解りやすい解説を心がける。</p>		<p>第1回：革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命 第2回：ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第3回：ファシズムの誕生(1)：イタリア・ファシズムを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第4回：ファシズムの誕生(2)：ナチス運動の誕生 第5回：危機の30年代 (1)：民主政治システムの崩壊 第6回：危機の30年代 (2)：戦間期の国際政治 第7回：ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 第8回：受容と抵抗(1)：ナチスによる民衆統轄 第9回：受容と抵抗(2)：反ナチス抵抗運動の諸相 第10回：第二次世界大戦(1)：大戦の経過と帰結 第11回：第二次世界大戦(2)：大戦の経過と帰結 第12回：連合国によるドイツ占領改革 第13回：東西ドイツの成立から「ベルリンの壁」建設 第14回：「新東方外交」からドイツ統一まで 第15回：21世紀のドイツ連邦共和国：シュレーダー政権からメルケル政権まで</p>	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された箇所を事前に精読しておくこと。授業後は指示された関連文献を読みすすめ授業テーマについての理解を深めること。		
テキスト	原則として、毎回講義レジュメを配布する。		
参考文献	増谷英樹・古田善文『図説オーストリアの歴史』河出書房新社 2011		
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%		

09年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2017年秋の連邦議会選挙では二大政党が大きく議席を減らすなか、極右政党が大きく伸長し初めて国会に議席を獲得しました。政権合意は難航し、今後も政治的な不安定化が予想されます。ドイツはEU最大の経済大国ですが、ドイツの帰趨はイギリスのEU離脱、難民問題で揺れるヨーロッパや国際政治に大きな影響を及ぼすことになるのでしょうか。ドイツ政治はどのような方向に動こうとしているのでしょうか。</p> <p>春学期はこうした動きを横目に見ながら、政治領域に注目し、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。</p> <p>日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——講義の概要 2. 連邦主義：連邦制—単一国家、中央集権—地方自治 3. 立法：間接民主主義—直接民主主義 4. 行政：大統領制—議院内閣制 5. 司法：一元性—多元性、憲法裁判所 6. メディア：第四権力のあり方 7. 中央銀行：行政からの自立か、従属か 8. コーポラティズム：国際比較とドイツの特徴 9. 社会国家：ドイツの福祉国家の特徴は？ 10. 選挙：小選挙制か、比例代表制か 11. 政党：どのような政党があるか？ 12. 社会主義—共産主義—社会民主主義、東ドイツ 13. ポピュリズム：民主主義と何が違うか？ 14. 市民運動、住民参加 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の政治・経済に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。テーマごとに適宜指示する。		
参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治 統一後の20年』ミネルヴァ書房、2014年。		
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。		

09年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 b	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat（社会国家）という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。</p> <p>秋学期は、経済・社会の領域を対象とし、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。</p> <p>日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——講義の概要 2. 職業教育：職業資格の意味 3. 大学教育：勉強と就職の関係は？ 4. 教育と雇用へのつながり：日本との比較 5. 雇用システム：内部労働市場か、外部労働市場か 6. ワーク・ライフ・バランス：働き方の比較 7. 女性の就労：ドイツの特徴は？何が課題か？ 8. 労働組合：ドイツの特徴は？ 9. 労働者文化：特徴は？どのように変化してきたか？ 10. 経済民主主義、共同決定、コーポレート・ガバナンス 11. グローバリズム：メリットか、デメリットか？ 12. ネオ・リベラリズム：市場は善か、悪か？ 13. 貧困化：なぜ拡大するのか？課題は？ 14. 少子・高齢化：どのように対応すべきか？ 15. 外国人（移民、難民）：統合に限界はあるか？ 	
到達目標	ドイツ語圏の政治・経済に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。テーマごとに適宜指示する。		
参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治 統一後の20年』ミネルヴァ書房、2014年。		
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。		

09年度以降	ドイツ語圏の歴史 a	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、20世紀前半のドイツの歴史を学び、更に、歴史的な思考力を育むことを目的としています。具体的には、歴史上の「なぜ」に対して、因果関係を説明できること、多面的に見ることが必要な能力になります。</p> <p>春学期は4つの問いを扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第一次世界大戦はなぜ起きたのか？ 2. ヴァイマル共和国はなぜ崩壊したのか？ 3. ヒトラーは如何にして国民から『支持』を集めたのか？ 4. ホロコーストはなぜ起きたのか？ <p>本授業での課題は、①全体での講義を聞き、②グループごとに分かれて資料（史料）を読み、先ず一つの原因から説明できるようにし、③さらに別のグループを作って、②の結果を再検討する〔ここまでが授業内作業〕、さらに④自分で問いに対する答えを文章化すること、です。この④が評価の中心になります。<u>第一回目の授業に参加すること！</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 第一次世界大戦（1）—導入 3. 第一次世界大戦（2）—グループワーク①調査 4. 第一次世界大戦（3）—グループワーク②報告 5. ヴァイマル共和国（1）—導入 6. ヴァイマル共和国（2）—グループワーク①調査 7. ヴァイマル共和国（3）—グループワーク②報告 8. 課題講評（1） 9. ナチドイツ（1）—導入 10. ナチドイツ（2）—グループワーク①調査 11. ナチドイツ（3）—グループワーク②報告 12. ホロコースト（1）—導入 13. ホロコースト（2）—グループワーク①調査 14. ホロコースト（3）—グループワーク②報告 15. 課題講評（2） 	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習を心がけてください。大量の資料を毎回配るので、それを読み授業に臨むこと		
テキスト	テキストは指定しない。		
参考文献	適時指示する。		
評価方法	課題〔上記の④〕の評価をおおよそ 80%、授業への参加度合 20%を目安に総合的に判断する		

09年度以降	ドイツ語圏の歴史 b	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、20世紀後半の「ドイツ」の歴史を学び、更に、歴史的な思考力を育むことを目的としています。具体的には、歴史上の「なぜ」に対して、因果関係を説明できること、多面的に見ることが必要な能力になります。</p> <p>秋学期は4つの問いを扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冷戦はどうして起きたのか？ 2. なぜベルリンの壁が作られたのか？ 3. なぜ東ドイツは崩壊したのか？ 4. ナチズムの過去をどのように想起するべきなのか？ <p>本授業での課題は、①全体での講義を聞き、②グループごとに分かれて資料（史料）を読み、先ず一つの原因から説明できるようにし、③さらに別のグループを作って、②の結果を再検討する〔ここまでが授業内作業〕、さらに④自分で問いに対する答えを文章化すること、です。この④が評価の中心になります。<u>第一回目の授業に参加すること！</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 冷戦（1）—導入 3. 冷戦（2）—グループワーク①調査 4. 冷戦（3）—グループワーク②報告 5. ベルリンの壁（1）—導入 6. ベルリンの壁（2）—グループワーク①調査 7. ベルリンの壁（3）—グループワーク②報告 8. 課題講評（1） 9. 東ドイツの崩壊（1）—導入 10. 東ドイツの崩壊（2）—グループワーク①調査 11. 東ドイツの崩壊（3）—グループワーク②報告 12. 想起の文化（1）—導入 13. 想起の文化（2）—グループワーク①調査 14. 想起の文化（3）—グループワーク②報告 15. 課題講評（2） 	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習を心がけてください。大量の資料を毎回配るので、それを読み授業に臨むこと		
テキスト	テキストは指定しない。		
参考文献	適時指示する。		
評価方法	課題〔上記の④〕の評価をおおよそ 80%、授業への参加度合 20%を目安に総合的に判断する		

09年度以降	ドイツ語圏の地域・環境問題 a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。</p> <p><講義概要> ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。 春学期は主に、身近な問題である廃棄物・リサイクルを通じて環境問題への理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 環境問題・環境政策の概要 3. ドイツ環境行政の歴史としくみ 4. 各主体（緑の党・企業・NGO・市民など）の役割 5. 廃棄物・リサイクル（1） 6. 廃棄物・リサイクル（2） 7. 廃棄物・リサイクル（3） 8. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（1） 9. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（2） 10. 放射性廃棄物・核燃料サイクル（3） 11. 自然/動物保護 12. 食と環境（有機農業） 13. エコマーク 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の地域・環境問題に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。		
テキスト	資料は適宜プリントを配布します。		
参考文献	参考文献は必要に応じて指示します。		
評価方法	学期末試験 70%、平常点、授業への参加度 30%に基づいて評価します。 詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。		

09年度以降	ドイツ語圏の地域・環境問題 b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。 テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的、多角的に考察します。日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。</p> <p><講義概要> ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学びます。 秋学期は主に地球規模の環境問題について取り上げ、環境問題と他の社会問題とのつながりについて考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 旧東ドイツの環境問題 3. グローバル化と環境問題 4. 地球環境問題とは（1） 5. 地球環境問題とは（2） 6. 国際交渉と日本の役割（1） 7. 国際交渉と日本の役割（2） 8. 気候変動とエネルギー政策 9. 再生可能エネルギー（1） 10. 再生可能エネルギー（2） 11. 気候変動と大気汚染・交通政策 12. 環境と観光 13. 環境教育 14. 環境意識 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の地域・環境問題に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料を予習してください。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習をして下さい。		
テキスト	資料は適宜プリントを配布します。		
参考文献	参考文献は必要に応じて指示します。		
評価方法	学期末試験 70%、平常点、授業への参加度 30%に基づいて評価します。 詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。		

09年度以降	ドイツ語圏と EU a	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ地域論</p> <p>本講義では、ドイツ語圏とEU（ヨーロッパ連合）について、歴史的な背景から考察します。</p> <p>春学期では、二つの世界大戦と冷戦が、ヨーロッパ統合（現在のEU、欧州連合）に決定的な役割を果たしたことに留意し、ドイツ語圏とEUの歴史を重点的に論じます。この中でも、ヨーロッパ統合のはじまりから現在のEUに至るまで、中心的役割を果たしている「ドイツ」の歴史に的を絞り、ヨーロッパ統合とドイツの関係を見ていきます。</p> <p>なお、この講義では、毎回短いコメントを書くことを求めています。これが「参加度」として評価される部分です。課題や質問に返答することができて、はじめて出席と見做されますので、ただ「来るだけ・いるだけ」では欠席扱いになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. ドイツ帝国と第一次世界大戦 3. ヴァイマル共和国とヨーロッパ 4. ナチ・ドイツと第二次世界大戦 5. ドイツの敗戦と第二次世界大戦の帰結 6. 占領時代のドイツと冷戦のはじまり 7. 西ドイツ国家の誕生と西欧統合の始まり 8. アーデナウアーと西欧結合路線の推進 9. 西ドイツの「長い60年代」と西欧社会 10. ブラントの東方外交とヨーロッパ 11. 東ドイツ国家とヨーロッパ1949-1985 12. 1960-80年代の欧州統合の危機と進展 13. 冷戦終結と1989年の東欧革命 14. 東西ドイツ統一 15. 統一ドイツとEUの課題 	
到達目標	「ドイツ語圏とEU」に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	常に復習を心がけてください。授業中に紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
テキスト	教科書は指定しない。		
参考文献	参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	大よそ、期末テスト 70%、授業への参加度 30%を目安に、総合的に判断する。		

09年度以降	ドイツ語圏と EU b	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ヨーロッパ地域論</p> <p>本講義では、ドイツ連邦共和国とEU（ヨーロッパ連合）はどのような特徴を備えており、また、現在どのような課題を抱えているのかを考える講義です。講義は4部構成です。最初に、ドイツとEUの基本的な政治制度について概説します（1-4回）。続いて、EUを結びつけている価値観や文化的な連帯について考察します（5-6回）。三番目に、冷戦終結以後の「ドイツ」と欧州の変容について学び（7-10回）、最後に、現在EUの「危機」と呼ばれている諸現象を取り扱います（11-15回）。</p> <p>なお、この講義では、毎回短いコメントを書くことを求めています。これが「参加度」として評価される部分です。課題や質問に返答することができて、はじめて出席と見做されますので、ただ「来るだけ・いるだけ」では欠席扱いになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. 概説①—ドイツの政治制度 3. 概説②—EUの制度と課題 4. 概説③—ドイツのEU内における「大国化」？ 5. 「ソフト」な統合①—教育と歴史 6. 「ソフト」な統合②—EU市民権 7. ドイツとEUの変容①—東ドイツ問題 8. ドイツとEUの変容②—ドイツの移民国化 9. ドイツとEUの変容③—EUの拡大 10. ドイツとEUの変容④—EUの対外政策 11. EUの「危機」①—「統合」の終焉 12. EUの「危機」②—ユーロ危機 13. EUの「危機」③—Brexit 14. EUの「危機」④—「欧州難民危機」 15. EUの「危機」⑤—ポピュリズム 	
到達目標	「ドイツ語圏とEU」に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	常に復習を心がけてください。授業中に紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
テキスト	教科書は指定しない。		
参考文献	参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	大よそ、期末テスト 70%、授業への参加度 30%を目安に、総合的に判断する。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist das Arbeiten mit Texten und damit der Verbesserung des Leseverstehens. Dabei verwenden wir Lesetexte aus dem Bereich Moderne Gesellschaft und Soziologie im historischen Kontext.</p> <p>Nach Bedarf werden auch Lesetechniken erarbeitet, das heißt die Frage, wie man Texte effektiv liest.</p> <p>Zur Unterstützung des Leseverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Hören einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz und, soweit möglich, an den Wünschen der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bezüglich Zeitaufwand je nach Kursinhalt variierende Aufgaben zur Vor- und Nachbereitung des Unterrichts.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Vor allem die aktive Mitarbeit und Leistung während des Kurses. Dazu gehören mindestens zwei schriftliche Aufgaben zum Leseverstehen, während des Unterrichts oder als Hausaufgabe.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Leseverstehens auf dem Gebiet Moderne Gesellschaft und Soziologie im geschichtlichen Kontext. Eventuell erlernte Lesetechniken werden vertieft bzw. neue hinzugenommen.</p> <p>Ziel ist es unter anderem, den Studierenden Lust zu machen, selbständig Lesetexte auszuwählen und zu bearbeiten.</p> <p>Zur Unterstützung des Leseverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Hören einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz und, soweit möglich, an den Wünschen der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bezüglich Zeitaufwand je nach Kursinhalt variierende Aufgaben zur Vor- und Nachbereitung des Unterrichts.		
テキスト	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
参考文献			
評価方法	Vor allem die aktive Mitarbeit und Leistung während des Kurses. Dazu gehören mindestens zwei schriftliche Aufgaben zum Leseverstehen, während des Unterrichts oder als Hausaufgabe.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs sollen einige der wichtigsten Personen der deutschen Geschichte vorgestellt werden. Die Studenten sollen in kleinen Gruppen wichtige geschichtliche Informationen über die Person im Internet (Smartphone, Computer) suchen und zusammentragen. (Das gibt Extrapunkte für die mündliche Bewertung.) In einem der folgenden Unterrichtsstunden trägt ein Student aus der Gruppe die Informationen über die Persönlichkeit vor. Anschließend sollen die anderen Studenten dazu Fragen stellen. Im zweiten Teil der Stunde wird die germanistische Mythologie, Wagners „Ring des Nibelungen“ näher gebracht. Text: A2-Niveau. Zum Text gibt es Fragen. In der vorletzten Stunde im Semester wird ein Test geschrieben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Erklärung des Kurses 2. Person 1, Lektion 1 Die Götter 3. Person 2, Lektion 2 Wotan 4. Person 3, Lektion 3 Die Weltesche Yggdrasil 5. Person 4, Lektion 4 Der Bau Walhalls 6. Person 5, Lektion 5 Das Rheingold 7. Person 6, Lektion 6 Das Schwert Notung 8. Person 7, Lektion 7 Die Walküre 9. Person 8, Lektion 8 Siegfried 10. Person 9, Lektion 9 Die Gibichungen 11. Person 10, Lektion 10 Die Götterdämmerung 12. Person 11 13. Person 12 14. Test. Person 13 15. Person 14 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, sich auf den Minivortrag vorzubereiten.		
テキスト	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.		
参考文献			
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs sollen einige der wichtigsten deutschen Firmen bzw. Produkte vorgestellt werden. Die Studenten sollen in kleinen Gruppen wichtige geschichtliche Informationen über die Firmen bzw. über die Produkte im Internet (Smartphone, Computer) suchen und zusammentragen. Wie im Sommersemester trägt auch diesmal ein Student/in aus der Gruppe vor. (Das gibt Extrapunkte in der mündlichen Bewertung). Die anderen Studenten sollen dann dazu Fragen stellen. Im zweiten Teil des Unterrichts lesen wir internationale zusammengefasste Artikel aus dem „Neuigkeiten aus Deutschland 2016/17-Heft“. Dazu sollen Aufgaben gelöst werden. Niveau A2(B1). In der vorletzten Stunde wird ein Test geschrieben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Erklärung des Kurses 2. Firma 1, Artikel 1 3. Firma 2, Artikel 2 4. Firma 3, Artikel 3 5. Firma 4, Artikel 4 6. Firma 5, Artikel 5 7. Firma 6, Artikel 6 8. Firma 7, Artikel 7 9. Firma 8, Artikel 8 10. Firma 9, Artikel 9 11. Firma 10, Artikel 10 12. Firma 11, Artikel 11 13. Firma 12, Artikel 12 14. Test, Firma 13, Artikel 13 15. Firma 14, Artikel 14 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, sich auf den Minivortrag vorzubereiten		
テキスト	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.		
参考文献			
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen ein Buch, das von drei christlichen Heiligen erzählt. Der Text ist für den Unterricht aufbereitet. Es wird Anlass zu Diskussionen geben, und Sie dürfen Ihre Meinung gerne sagen. Anhand dieser Texte wollen wir die geschichtlichen Hintergründe studieren, sowie die Gesellschaft der damaligen Zeit.</p>		<p>1.-5. Stunde Text und anderes Material über Christofferus, 6.-10. Stunde Text und anderes Material über Ritter Georg 11.-15. Stunde Text und anderes Material über Elisabeth</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2-3mal im Semester schreiben Sie einen Aufsatz mit 200 Wörtern zu Themen, die sich im Unterricht ergeben.		
テキスト	Jakob Streit / Kozo Hirao, DIE HEILIGEN		
参考文献			
評価方法	Für die schriftlichen Hausaufgaben/Referate gibt es Punkte. Die Mitarbeit im Unterricht bewerte ich auch.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	秋山 大輔
講義目的、講義概要		授業計画	
ギュンター・グラスと考えるドイツ現代社会 (上) 1999年にノーベル文学賞を受賞したギュンター・グラス (1929-2015) の諸作品の抜粋 (Auszug im Original) を読みながら、ドイツ現代社会に横たわる諸問題を知り、考え、調べ、まとめ、それを披露する取り組みです。取り扱うテーマは、次の通りです: <u>グラスと「アウシュヴィッツの後で書くこと」</u> (グラスと戦争体験, グラスとナチス, グラスと戦争責任) ●『ブリキの太鼓』 Die Blechtrommel (1959) ●『猫と鼠』 Katz und Maus (1961) ●『犬の年』 Hundejahre (1963) ●『玉ねぎの皮をむきながら』 Beim Häuten der Zwiebel (2006) ●「アウシュヴィッツの後で書くこと」 Schreiben nach Auschwitz (1990)		1. 本講座の内容と評価方法の説明, テキストの配布 (※なお, 初回ではこれに引き続き, これまでに学習したドイツ語基礎を, ドイツ語で書かれたまとまった分量のテキストを読むためのknow-howを理解しているかを確認します。履修登録しなくとも, この初回分のみを受講するだけでも, ある程度の値打ちはあると思います。) 2.-8. - 9.-15. - (※履修者の関心により, 春学期と秋学期で取り扱うテーマの増減と入れ替わりが考えられます。) <u>グラスと環境問題</u> ●『女ねずみ』 Die Rättin (1986) ●Totes Holz (2002)	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Rom ist nicht an einem Tag erbaut worden: 時間をかけて丁寧に予習し、不明な点を洗いざらい書き出した上で授業に臨むことが大切です。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	授業内で紹介します。		
評価方法	授業には綿密に準備した上で積極的に参加することと、締め切りまでに課題を提出することと、そしてその出来によって評価します: 100% ※履修者が多い場合には、学期末テストあるいはレポートを課します。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	秋山 大輔
講義目的、講義概要		授業計画	
ギュンター・グラスと考えるドイツ現代社会 (下) 同上。 <u>グラスと東西問題</u> (ドイツ再統一, EU: 移民問題を含む) ●『鈴蛙の呼び声』 Unkenrufe (1992) ●Rede vom Verlust. Über den Niedergang der politischen Kultur im geeinten Deutschland (1992) ●『果てしなき荒野』 Ein weites Feld (1995) <u>グラスと南北問題</u> (アジアとヨーロッパ: 移民問題を含む) ●Kopfgeburten oder Die Deutschen sterben aus (1980) ●『女ねずみ』 Die Rättin (1986) ●Zunge zeigen. Ein Tagebuch in Zeichnungen (1988) <u>グラスと核問題</u> (核兵器, 核の「平和利用」, イスラエル) ●Kopfgeburten oder Die Deutschen sterben aus (1980) ●『女ねずみ』 Die Rättin (1986) ●Was gesagt werden muss. (2012)		1.-5. - 6.-10. - 11.-15. - (※履修者の関心により, 春学期と秋学期で取り扱うテーマの増減と入れ替わりが考えられます。) <u>付記</u> ドイツ語基礎 (文法) を一通り学習していることを履修の前提とします (→この条件を満たせば, 3・4年生以外の, あるいはドイツ語学科以外の学生の聴講も歓迎します。)。2018年4月もしくは2018年9月の時点でのその習熟の度合いは問いません。ただ予習を比較的多くしなければなりません。そして復習をそれより多くしなければなりません。またその努力が必ずしもすぐに目に見える成果として表れるとは限りません。しかしそうした中でも熱心に課題に取り組み, 継続して努力する学生が集うことを期待しています。	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Rom ist nicht an einem Tag erbaut worden: 時間をかけて丁寧に予習し、不明な点を洗いざらい書き出した上で授業に臨むことが大切です。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	授業内で紹介します。		
評価方法	授業には綿密に準備した上で積極的に参加することと、締め切りまでに課題を提出することと、そしてその出来によって評価します: 100% ※履修者が多い場合には、学年末テストあるいはレポートを課します。		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） a	担当者	有信 真美菜
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、ドイツの歴史地図のうち、ドイツ中世史の部分を取り上げ、ドイツ中世史を概観しつつ、近現代とは全く異なる、まだ「ドイツ」という国がなかった時代である中世の制度、社会、文化及び当時の人々の考え方について学ぶ。</p> <p>前半は全員でテキストを読み、専門用語を学ぶ。講読と並んで、ドイツ中世史のための資料調べの仕方や、レポート、論文の構成の仕方なども指導する。後半は個人若しくはグループで発表をしてもらい、その内容をまとめたものをレポートとして提出してもらう。</p> <p>使用するテキストはコピーを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、講義 2. 発表の振り分け、講義 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. 学生による発表 11. 学生による発表 12. 学生による発表 13. 学生による発表 14. 学生による発表 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定範囲を事前に精読してきてください。学期後半の発表の準備を順次進めてください。		
テキスト	E. Bruckmüller u. a. (Hg.), <i>Putzger – Atlas und Chronik zur Weltgeschichte</i> , Darmstadt 2002		
参考文献	初回授業で紹介		
評価方法	授業への参加度 40%、発表 30%、レポート 30%		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） b	担当者	有信 真美菜
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ヨーロッパ中世の騎士」とは何か？大抵の人にとって、何となく思い浮かぶイメージはあるが、具体的に説明するのは難しい存在である。この中世の騎士、特に中世ドイツの騎士について、2003年にシュパイアーで行われた騎士についての展示のカタログを読みながら学んでいく。</p> <p>前半は全員でテキストを読み、専門用語およびドイツでの専門的な内容の展示のカタログの特色を学ぶ。講読と並んで、ドイツ中世史のための資料調べの仕方や、レポート、論文の構成の仕方なども指導する。後半は個人若しくはグループで発表をもらい、その内容をまとめたものをレポートとして提出してもらう。</p> <p>使用するテキストはコピーを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、講義 2. 発表の振り分け、講義 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. 学生による発表 11. 学生による発表 12. 学生による発表 13. 学生による発表 14. 学生による発表 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定範囲を事前に精読してきてください。学期後半の発表の準備を順次進めてください。		
テキスト	A. Schlunk u. a. (Hg.), <i>Die Ritter: Geschichte, Kultur, Alltagsleben</i> , Stuttgart 2003		
参考文献	初回授業で紹介		
評価方法	授業への参加度 40%、発表 30%、レポート 30%		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） a	担当者	井上 周平
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化や歴史に関心を持つ人にとっては「文化史」という語も馴染みのあるものかも知れません。今日この語をタイトルに含む書籍は数多く出版されており、大型書店には文化史のコーナーが設置されているところもあります。しかし、改めて「文化史とはいったいどのようなものなのか」ということに答えるのは簡単ではありません。そもそも「文化」とは何なのでしょう。「文化」の「歴史」を「研究する」とはどういう営みなのでしょう。</p> <p>この授業では、ドイツの大学生を主たる想定読者として書かれた文化史の入門書を読んでいきます。まとまった分量のドイツ語の内容を正確に理解し、議論の展開を把握する力を養うだけでなく、記述の背景や関連事項、専門用語を調べることで読解を深め、類書との比較や書評調査などによって対象テキストの評価や位置づけを行うことも訓練します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の進め方とテキストの概要の説明） 2. 講読（内容の検討、討論） 3. 講読（内容の検討、討論） 4. 講読（内容の検討、討論） 5. 講読（内容の検討、討論） 6. 講読（内容の検討、討論） 7. 講読（内容の検討、討論）、小テスト1 8. 講読（内容の検討、討論） 9. 講読（内容の検討、討論） 10. 講読（内容の検討、討論） 11. 講読（内容の検討、討論） 12. 講読（内容の検討、討論） 13. 講読（内容の検討、討論） 14. 講読（内容の検討、討論）、小テスト2 15. 全体のまとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講者は全員が予定分のテキストを事前に読み、和訳文や要約文を用意する。受講人数によっては担当をあらかじめ決めることもある。要約や重要語句・背景に関する調査も分担して報告して貰う。		
テキスト	コピーを配布します。Achim Landwehr, <i>Kulturgeschichte</i> , Stuttgart 2009.		
参考文献	授業中に紹介します。		
評価方法	レポート 40%、講読への取り組み 40%、小テスト 20%		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） b	担当者	井上 周平
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期 a に引き続き、ドイツの大学生を主たる想定読者として書かれた文化史の入門書を読んでいきます。文化史はどのような広がりを持っているのでしょうか。</p> <p>この授業では、まとまった分量のドイツ語の内容を正確に理解し、議論の展開を把握する力を養うだけでなく、記述の背景や関連事項、専門用語を調べることで読解を深め、類書との比較や書評調査などによって対象テキストの評価や位置づけを行うことも訓練します。また日本語・英語・ドイツ語で参照可能な個別研究についても概要を調べ、文化史の具体的な展開を把握することも行いたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の進め方とテキストの概要の説明） 2. 講読（内容の検討、討論） 3. 講読（内容の検討、討論） 4. 講読（内容の検討、討論） 5. 講読（内容の検討、討論） 6. 講読（内容の検討、討論） 7. 講読（内容の検討、討論）、小テスト1 8. 講読（内容の検討、討論） 9. 講読（内容の検討、討論） 10. 講読（内容の検討、討論） 11. 講読（内容の検討、討論） 12. 講読（内容の検討、討論） 13. 講読（内容の検討、討論） 14. 講読（内容の検討、討論）、小テスト2 15. 全体のまとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講者は全員が予定分のテキストを事前に読み、和訳文や要約文を用意する。受講人数によっては担当をあらかじめ決めることもある。要約や重要語句・背景に関する調査も分担して報告して貰う。		
テキスト	コピーを配布します。Achim Landwehr, <i>Kulturgeschichte</i> , Stuttgart 2009.		
参考文献	授業中に紹介します。		
評価方法	レポート 40%、講読への取り組み 40%、小テスト 20%		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、現代ドイツにおける経済・社会問題を対象とします。春学期は雇用と社会保障の領域についてのドイツ語のテキストを読み、現状と問題点について考えていきます。</p> <p>具体的には、低賃金・不安定雇用問題、格差問題、少子化・高齢化、年金、介護問題、職業教育などを念頭においています。</p> <p>テキストは、主として連邦政治教育センター (Bundeszentrale für politische Bildung) のHPにある Soziale Situation in Deutschland から選びます。図表や統計を読み解きながら、ドイツの雇用や社会保障の問題を考えていきます。必要に応じて、それ以外の文献資料も取り上げます。</p> <p>学期末には、各自で授業の内容に関わるテーマについてレポート (日本語でよい) を作成・提出してもらいます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ~ 第13回 テキスト講読と討論</p> <p>第14回 全体討論</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の予習、レポート作成に向けた各自の学習。		
テキスト	Bundeszentrale für politische Bildung の HP (http://www.bpb.de) よりダウンロード		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	授業での参加度、期末レポートの総合評価		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、現代ドイツにおける経済・社会問題を対象とします。秋学期は移民・外国人問題についてのドイツ語のテキストを読み、現状と問題点について考えていきます。</p> <p>具体的には、少子高齢化・人口構造、移民・外国人の受け入れの歴史、統合の試みと課題、移民の雇用・職業教育などを扱います。</p> <p>テキストは、主として連邦政治教育センター (Bundeszentrale für politische Bildung) のHPにある Soziale Situation in Deutschland から選びます。図表や統計を読み解きながら、ドイツにおける移民・外国人の問題を考えていきます。必要に応じて、それ以外の文献資料も取り上げます。</p> <p>学期末には、各自で授業の内容に関わるテーマについてレポート (日本語でよい) を作成・提出してもらいます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ~ 第13回 テキスト講読と討論</p> <p>第14回 全体討論</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の予習、レポート作成に向けた各自の学習。		
テキスト	Bundeszentrale für politische Bildung の HP (http://www.bpb.de) よりダウンロード		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	授業での参加度、期末レポートの総合評価		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Unterrichtssprache: Deutsch Die Textanalyse ist erforderlich für die weiterführende Bearbeitung jedweder Textsorte. In diesem Kurs wird neben einer Analyse des Textaufbaus auch eine Inhaltsanalyse vorgenommen. Im Sommersemester beschäftigen wir uns mit politischen bzw. umweltpolitischen Themen. Zwei Themen sind vorgesehen, nämlich die Atomenergiepolitik und die Wahlen 2017, die endgültige Auswahl der Themen erfolgt aber erst nach der Einführung.</p> <p>Das Ziel im Sommersemester ist es, durch den Erwerb des Basiswissens und einer Basisvokabular Diskussionen und eigene Meinungsäußerungen zu diesem Themenkomplex zu ermöglichen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1: Textanalyse und Diskussion 3. Thema 1: Textanalyse und Diskussion 4. Thema 1: Textanalyse und Diskussion 5. Thema 1: Textanalyse und Diskussion 6. Thema 1: Präsentation 7. Thema 1: Präsentation 8. Thema 1: Evaluation 9. Thema 2: Textanalyse und Diskussion 10. Thema 2: Textanalyse und Diskussion 11. Thema 2: Textanalyse und Diskussion 12. Thema 2: Textanalyse und Diskussion 13. Thema 2: Präsentation 14. Thema 2: Präsentation 15. Thema 2: Evaluation 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung und Wiederholung		
テキスト	Kopien werden im Unterricht verteilt		
参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit40%, Präsentation60%		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Unterrichtssprache: Deutsch Textanalyse ist erforderlich für die weiterführende Bearbeitung jedweder Textsorte. In diesem Unterricht wird neben einer Analyse des Textaufbaus auch eine Inhaltsanalyse vorgenommen. Im Wintersemester beschäftigen wir uns mit einem der wichtigsten politischen Themen in Deutschland, mit der Klimapolitik, die aus unterschiedlichen Blickwinkeln betrachtet und behandelt werden kann. Zwei große klimarelevante Themenbereiche sind vorgesehen, nämlich die Energiewende und die Verkehrswende, die endgültige Auswahl der Themen erfolgt aber erst nach der Einführung. Im letzten Modul wird auf das Thema COP24 eingegangen.</p> <p>Das Ziel im Wintersemester ist sich mit dem Thema kritisch und interdisziplinär zu beschäftigen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema Klimawandel: Textanalyse und Diskussion 3. Thema Klimawandel: Textanalyse und Diskussion 4. Thema 1: Textanalyse und Diskussion 5. Thema 1: Textanalyse und Diskussion 6. Thema 1: Präsentation 7. Thema 1: Evaluation 8. Thema 2: Textanalyse und Diskussion 9. Thema 2: Textanalyse und Diskussion 10. Thema 2: Präsentation 11. Thema 2: Präsentation 12. Thema 2: Evaluation 13. Thema COP 24 14. Thema COP 24 15. Thema COP 24 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung und Wiederholung		
テキスト	Kopien werden im Unterricht verteilt		
参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit40%, Präsentation60%		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） a	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトで教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書から、受講者の関心のある項目を選んで読んでいきたいと思えます。</p> <p>ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなってきます。そして資料解釈と討論が歴史授業での重要な要素になっています。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、ドイツの教科書を読解することで歴史への新しい視点を獲得する機会となるでしょう。</p> <p>この授業では、ドイツの歴史の教科書を読むことによってドイツ史に関する知識を習得するとともに、単にドイツ語を日本語に翻訳するのではなく、内容を正確に把握して著者の意図を解析することに重点を置いています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス (授業の進め方・評価方法・テキストについて) ドイツの教育制度と歴史教育について ドイツの歴史教科書と学習に関する概説 ～14. 講読と解説、教科書の内容や課題に関する検討 (必要に応じて、映像資料を見たり、討論の時間をとります) まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業には予習をして臨むことが前提で、自発的に発表することが求められます。		
テキスト	ドイツの教科書より抜粋してプリント配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	試験 60%、授業中の発表 40%を目安に総合的には評価します。		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） b	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトで教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書から、受講者の関心のある項目を選んで読んでいきたいと思えます。</p> <p>ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなってきます。そして資料解釈と討論が歴史授業での重要な要素になっています。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、ドイツの教科書を読解することで歴史への新しい視点を獲得する機会となるでしょう。</p> <p>この授業では、ドイツの歴史の教科書を読むことによってドイツ史に関する知識を習得するとともに、単にドイツ語を日本語に翻訳するのではなく、内容を正確に把握して著者の意図を解析することに重点を置いています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス (授業の進め方・評価方法・テキストについて) ドイツの教育制度と歴史教育について ドイツの歴史教科書と学習に関する概説 ～14. 講読と解説、教科書の内容や課題に関する検討 (必要に応じて、映像資料を見たり、討論の時間をとります) まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業には予習をして臨むことが前提で、自発的に発表することが求められます。		
テキスト	ドイツの教科書より抜粋してプリント配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	試験 60%、授業中の発表 40%を目安に総合的には評価します。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	中川 純子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では新聞またはインターネットで配信された時事ニュースを読むこと、さらにテーマに基づいて各自がレポートを書き、学期の最後までに完成させることの二本立てで進めます。春学期のテーマは「多文化共生」を予定しています。本授業のレポートはただ調べてまとめるものではなく、問題意識を持ち、自分なりの主張や解決策を具体的に提案するものです。テーマは多文化共生に関するものであれば自由です。社会・文化・言語・教育など多角的な検討を通じて、様々な問題について考えていきたいと思えます。授業では各自のテーマ選びから文献収集、アウトライン執筆、第1稿から第3稿提出まで段階的に行います。全てのプロセスは授業内でグループワーク、発表などを通じ、ディスカッションしながら行います。レポートは2500字～3000字程度、授業内で中間発表、最終発表など随時発表と検討の機会を設けます。</p>		<p>毎回のテキスト読解のほか、レポート作成は以下の段階で進めます。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2～3回 レポートテーマ、資料整理 第4回 用語の定義・レポートの主張を整理 第5～6回 中間発表 第7～8回 アウトライン・参考文献 第9～10回 アウトラインチェック・第1稿執筆 第11～12回 第1稿チェック・第1稿評価 第13～15回 第2稿発表、第3稿提出</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。レポートは家での準備と執筆が中心になります。本講座の参加は資料を調べ、執筆を行う時間があることを前提とします。		
テキスト	テキストはプリントにて授業内で配布します。		
参考文献			
評価方法	アウトライン 10% 第1稿 10% 第2稿 20% 第3稿 30% 小テスト 20% 授業への参加度 10%		

交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。タイミングが合えば、航空関係者を招聘し特別講演を実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空とは何か 5. 航空の歴史 6. LCC（低コスト航空会社）が世界を変える 7. 航空事業の特性と運賃 8. 米国チャプター11（連邦破産法第11章） 9. JALの破綻と復活 10. 規制緩和とオープンスカイ政策 11. 航空機製造ビジネス 12. 三菱リージョナルジェット（MRJ）飛翔 13. 空港 14. 国際航空法 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	国際航空業の仕組みや成り立ち、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れに関する専門知識を習得し、わが国の空港行政の問題点や航空政策の現状と課題、及びLCCやアライアンス等の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習の実施		
テキスト	教科書：『最新・航空事業論（第2版）』（2016年12月、日本評論社）		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画30%、最終試験70%		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、旅行契約に関する具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関する法（主に民法）のあり様と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動をしながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表したうえ、それをレポートにまとめて提出します。</p> <p>この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度）、ただし法的思考の作法に従って、解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。</p> <p>具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. PBLガイダンス 3. PBL練習 4. 第1事例（その1） 5. 第1事例（その2） 6. 第1事例（その3） 7. 第2事例（その1） 8. 第2事例（その2） 9. 第2事例（その3） 10. 第3事例（その1） 11. 第3事例（その2） 12. 第3事例（その3） 13. 口頭発表会の準備 14. 口頭発表会 15. まとめと振り返り 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業3回に2回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。		
テキスト	特になし。学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集します。		
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します。		
評価方法	出席率、宿題提出率、口頭発表と最終レポート提出の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は複雑でこの欄に書き切れないため、第1回目のオリエンテーションで説明します。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 ガイダンス 2、 ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 3、 ツーリズム商品の特徴②：イメージ消費と身体的行為 4、 パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 5、 パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 6、 パッケージツアー③：身体化される団体旅行 7、 パッケージツアー④：スピリチュアリティの商品化 8、 パッケージツアー⑤：商品企画における「知識の管理」 9、 空間の管理とテーマ化 10、 テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、 感情労働 12、 テーマ化された空間に暮らす 13、 生活とツーリズム 14、 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業 15、 まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル化と子ども））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界では約1億7000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバル化や私たちがどのように関わっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。</p> <p>この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2. アジアの児童労働 3. タイのストリート・チルドレン 4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part I 6. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part II 7. ヒューマン・トラフィック撲滅への取り組み 8. 日本の子どもの貧困 9. 在日外国人の子どもの問題（アクティブラーニング） 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 国連の安全保障と子どもの保護 13. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 14. 子どもと教育について 15. 今学期のまとめ（質疑応答など） 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと、授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと		
テキスト	テキスト 初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015年）		
参考文献	授業で適宜紹介します		
評価方法	大福帳 15%、期末試験 85%		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①:メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②:宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①:ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④:ニューヨーク・タイムズの19世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20世紀とメディア①:国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20世紀とメディア②:ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③:湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②:ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③:トランスナショナル・メディアと現代 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本の敗戦から70年以上が経ち、戦争について語られる機会も少なくなりました。この授業では、メディアや学校、ミュージアムなどで、戦争がどのように記憶、表象されているかを調べ、記憶や表象の可能性について、受講生の皆さんと議論していきます。春学期は、2014年に『毎日新聞』に連載された記事「いま靖国から」を題材に、強制連行、慰安婦についても考えていきます。</p> <p>1945年、秋田県の花岡鉱山で、中国から強制連行されていた人たちが蜂起し、鎮圧されて400人以上が犠牲になりました。蜂起のあった6月30日には毎年、慰霊祭が営まれています。今年は土曜日にあたるので、(ちょっと遠距離ですが) 現地で課外授業をおこない、慰霊祭への参加、平和記念館の見学などを予定します。</p> <p>課外授業は、その他に靖国神社、女たちの戦争と平和資料館(wam)などでも実施の予定です。少なくとも1回は課外授業に参加することが、単位取得の条件になります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 中国人強制連行の政策と思想 3. 花岡事件とは 4. 花岡事件と和解、記憶の継承 5. 課外授業準備 6. 「慰安婦」か「性奴隷」か 7. 「慰安婦」か「性奴隷」か 8. 「慰安婦」か「性奴隷」か 9. いま靖国から 10. いま靖国から 11. いま靖国から 12. 課外授業準備 13. 女たちの戦争と平和資料館 14. 靖国神社と遊就館 15. まとめのディスカッション 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを十分に予習し、また背景となる歴史や社会状況について調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。		
テキスト	杉原達『中国人強制連行』（岩波新書、2002）ほか、『毎日新聞』の連載記事はプリントを配布します。		
参考文献	NHK取材班、『NHK スペシャル 幻の外務省報告書—中国人強制連行の記録』（NHK 出版、1994）ほか。		
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）*授業はディスカッション型で、積極的な参加が求められます。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムが社会にもたらす影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっています。それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。</p> <p>本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。</p> <p>具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思えます。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌1 4. グローバリゼーションの民族誌2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急1』 7. 表象の政治学—情報資本主義と観光 8. メディアと観光—「樂園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム—タイの事例 13. エスニック・ツーリズム—タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』『観光人類学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）、『観光人類学』（新曜社）		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義、平和））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2000年代に入り中国や東南アジアの成長はめざましい。中国はいまや世界第二位のGDPとなり、東アジアの平和のカギを握る存在となった。また、2015年に成立したASEAN共同体は6億人の巨大市場としても注目されている。また、インドもICT産業を牽引する国家である。みなさんは将来、出張先として、ビジネスパートナーとして中国、東南アジア、インドと向き合うことになる。したがって、この授業では、将来みなさんが向き合うことになるアジアの政治や社会—ナショナリズム、戦後の国民国家建設の歩み、そして紛争や平和の課題を理解し、日本との関係について、東南アジア地域研究の観点から考えることを目的とする。それはみなさんが将来、何らかの形でアジアと良い信頼関係を築き、東アジアの平和や安定を創り出す一端を担ってほしいからである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（予習・復習） 東南アジア地域の特徴 2. 近代以前の東南アジア 3. 帝国主義と植民地政策 4. 中国、ベトナム、インドのナショナリズム（民族運動） 5. 日本軍政と東南アジア 6. 冷戦と東南アジアの独立 7. 中国の文化大革命と改革開放 8. ベトナム戦争とアメリカ 9. ベトナム戦争とカンボジアのポルポト（大虐殺） 10. タイの国民国家—国王・軍・政治家・中間層 11. フィリピンの権威主義体制と民主化、NGO 12. インドネシアの権威主義体制とアジア通貨危機 13. マレーシア・シンガポールの国民統合と多文化主義 14. ASEANの地域統合と課題 15. 今学期のまとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを事前に熟読すること、復習については授業の最後で述べるポイントに従って、テキストを振り返ること		
テキスト	中野亜里・遠藤聡ほか『入門 東南アジア現代史（改訂版）』福村出版、2016年。		
参考文献	授業で紹介します		
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%		

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントの歴史、現状などについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションについて① 3. イベント・コンベンションについて② 4. 国際博覧会 5. 2020年東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. ビジネスの視点からのオリンピック① 10. ビジネスの視点からのオリンピック② 11. プレゼンテーション： 「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 12. " ② 13. " ③ 14. " ④ 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習		
テキスト	適宜個別資料を配布する		
参考文献	特に指定無し		
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画70%、プレゼンテーションとレポート30%		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造（1） 3. ツーリズムの基本構造（2） 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（北欧、ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディアを通して、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと		
テキスト	適宜個別資料を配布する		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画30%、最終試験70%		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をとまなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 ガイダンス 2、 ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3、 おみやげとスーベニア 4、 観光みやげの近代 5、 「民芸品」をめぐるまなざし 6、 観光みやげと「ものがたり」 7、 観光みやげのギフト性 8、 観光みやげと真正性 9、 観光みやげの儀礼的倒錯性 10、 こけしと木彫り熊 11、 旅するマトリョーシカ① 12、 旅するマトリョーシカ② 13、 民芸品としてのアジア雑貨 14、 アジアン雑貨が創る旅 15、 まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済のグローバル化が進展しているが、女性はどうのよ うな役割を果たし、影響を受けているのだろうか。それを知 るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよ いだろう。アジア開発銀行は『アジア2050－アジアの世紀 の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、 その名目GDPは世界全体の50%を超えたとし、21世紀はま さしくアジアの世紀だと述べた。授業では、このアジア経 済の成長を牽引する中心に女性の労働があると位置づけ、 グローバル経済の実態－古典的国際分業から今日のグロ ーバル経済を構成している3つの新国際分業を再解釈す る。</p> <p>日本女性の労働の問題もその観点から考える。女性の労 働の在り方を考えることは、男性の労働や家族との関係に についても考えるきっかけとなると考えている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス－授業の内容、進め方、予習復習について 2. 古典的国際分業とグローバル経済 3. 新植民地主義について『バナナの逆襲』から考える 4. 今日のグローバル経済（1）新国際分業の成立 5. 新国際分業について『トゥルーコスト』から考える 6. 今日のグローバル経済（2）再生産領域の新国際分業 7. 香港の家事労働者受入れ政策とフィリピン女性 8. フィリピン女性の移住労働と家族の問題 9. 日本の“輝ける女性”の活躍とフィリピン家事労働者 10. 資本主義の発展と再生産領域についてのまとめ 11. 今日のグローバル経済（3）サービス業の新国際分業 12. インド、中国、フィリピンのBPOの国際比較 13. 日本女性の労働と男女雇用機会均等法 14. 日本女性の労働と非正規雇用 15. 授業のまとめと質疑応答など 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組み、予習復習する。		
テキスト	授業でプリントを配布します		
参考文献	堀芳枝編『学生のためのピース・ノート2』コモンズ、2014年、ほか授業で適宜紹介します。		
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&ラスン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。</p> <p>そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り (Selfie)」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイメージーションの諸問題を考えることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③： 天皇のイメージとイメージーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②： 「自撮り」とセルフ・ポートレイト 14. 写真とツーリズム③：SNS時代の「観る」体験 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。それらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の1つである「LTD話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、中学3年生向けのシティズンシップ教育用教材（1時限分）を作成することを目指します。</p> <p>第1回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについて詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. グループ分け、LTDを支える教育理論と技法 3. 予習及びミーティングの解説と練習 4. LTDウォーミングアップ（練習用教材使用） 5. LTD（短縮型）（シティズンシップ教育論①） 6. LTD（1）（シティズンシップ教育論②） 7. LTD（1）の振り返り 8. LTD（2）（シティズンシップ教育の課題） 9. LTD（2）の振り返り 10. LTD（3）（シティズンシップの授業） 11. シティズンシップ教育用教材作成（その1） 12. シティズンシップ教育用教材作成（その2） 13. シティズンシップ教育用教材作成（その3） 14. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業） 15. 授業全体のまとめと振り返り、ラーニング・ポートフォリオについて説明 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修では、LTDの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのLTDミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。		
テキスト	教材は、必要に応じてその都度配布します。		
参考文献	LTD話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟・須藤文『LTD話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2014年）を参照してください。		
評価方法	出席率、宿題提出率、教材作成・模擬授業への参加の有無、及びラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の採点結果の組み合わせによって評価しますが、評価基準は、複雑でこの欄に書き切れないため、第1回目のオリエンテーションで説明します。		

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空事業、クルーズ事業のビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらにオンライン旅行市場について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館のビジネスの概要及び課題、さらに将来について学習する。航空事業、及び大きく成長しているクルーズ事業においては、最近の動向を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 旅行産業について（1） 3. オンライン旅行市場 4. 旅行産業について（2） 5. ホテル、旅館等宿泊産業について（1） 6. ホテル、旅館等宿泊産業について（2） 7. ツーリズム産業におけるキャリアデザイン 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空事業の最近の動向 10. クルーズ事業の最近の動向 11. プレゼンテーション① 12. プレゼンテーション② 13. プレゼンテーション③ 14. プレゼンテーション④ 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト	適宜個別資料を配布する。		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画70%、プレゼンテーションとレポート30%		

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害（生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等）を克服するために登場した「新しい」観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズム、場所性を取り入れたリゾートなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学や社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。</p> <p>本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族などの「第四世界」的状況の事例が中心となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 3. 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略 4. 環境主義の商品化—エコリゾート 5. 世界遺産と観光1—ラオス・ルアンパバンの事例 6. 世界遺産と観光2—中国・麗江の事例 7. 貧困の商品化—都市貧困とツーリズム 8. バックパッカーの歴史と現状 9. 先住民とアート—北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム—アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民1 12. エコツーリズムと先住民2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）等。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	中野 美季
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>始めに、味わうという行為を五感の仕組みから把握します。次に食の文化的側面についてイタリアをフィールドに考察します。イタリアにおける食の位置づけ、伝統食品の知恵、食の地域性と郷土料理について、写真資料とともに概観します。講義の参加者数、進度によりシラバスに記載の内容・順序は変更されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食と五感1 3. 食と五感2 4. おいしさとは何か 5. イタリアの味覚教育 6. イタリアにおける食 7. 生産物認証制度 8. 伝統食品1 9. 伝統食品2 10. 伝統食品3 11. 郷土と食1 12. 郷土と食2 13. 郷土と食3 14. 郷土と食4 15. まとめと試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出する		
テキスト	定めない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	定期試験（50%）、学期中課題（50%）		

13年度以降 12年度以前	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	中野 美季
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「食と農によるイタリアの地域振興」</p> <p>食と農を軸に近年のイタリアの地域振興を概観します。農業の持つ多面的機能を活かしたイタリア農村における経営多角化（アグリツーリズム、教育農場、社会的農業）、スローフード運動、イタリアの地産地消、新たなフードネットワーク等、近年見られる地域性へと向かう動きを考察します。講義の参加者数、進度によりシラバスに記載の内容・順序は変更されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. イタリアの概要 3. イタリアの地域性 4. EUとイタリア 5. イタリアの都市と農村 6. 農業の多面的機能1（アグリツーリズム） 7. 農業の多面的機能2（食育と教育農場） 8. 農業の多面的機能3（社会的農業） 9. スローフード運動 10. イタリアの社会的経済 11. イタリアの地産地消1 12. イタリアの地産地消2 13. フードネットワーク1 14. フードネットワーク2 15. まとめと試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出する		
テキスト	定めない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	定期試験（50%）、学期中課題（50%）		

13年度以降 12年度以前	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにつくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的發展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。</p> <p>ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

外国語学部共通科目シラバス

08年度以降	総合講座	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人は何かが見えているとき、本当に何かを見ているのであろうか。何かが見えていることは純粋に世界の何かを経験していると疑いなく言えるのであろうか。見る以前に見るべきモノやコトが客観的にあると言えるのだろうか。何が人に、<見える>という経験を確信させるのであろう。その経験の明証性はどこからくるのであろうか。</p> <p>これらの問いは、我々にとって<見える>という事実が自明であることから生じているようである。本講義では、このあまりに自明なく見える>という経験を問い直し、見えるという経験がいかに可能となるのかを考えてみたい。</p> <p>どのように<見える>のか、どのように見るのが(不)可能になり、何を見るのが許され(ず)、何が強いられるのか。<見える>という経験を考察する多様な学問の中で、見ることをより根本的な仕方で捉え直す様々な視点を本講義で提示してみたい。</p> <p><見える>という視覚経験は人間のさまざまな営みから形成される。化学や文学、芸術や文化、哲学や思想、メディア論やコミュニケーション論などの様々な学問のアプローチから、様々な<見える>ことの事例と共に、それらの事例に考察される<見える>とは何かを、講師がそれぞれの立場で講義していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション ——「<見える>を問い直す」開講にあたり (柿田秀樹) 2. 「パブリック・スクリーン」時代の視覚文化 (菅野 遼) 3. 空からバリを撮る——ナダールの写した19世紀 (福田美雪) 4. ポスト写真時代のリアリティ： タッチパネル・スクリーンショット・ゲーム (松本健太郎) 5. 「見る」と「観る」のメディア社会学 (山口誠) 6. (暗室) 箱の中の手——デヴィッド・ホックニーの逆遠近法 (柿田秀樹) 7. 像を拝むときひとは何を拝んでいるのか いくつかの事例から (森元庸介) 8. 戦争と作家：ヴァージニア・ウルフの『三ギニー』を中心に (片山亜紀) 9. 「能」における「見る・見えるもの」 (柿沼義孝) 10. 神の見え方を問い直す——宗教改革と聖画像の問題 (青山愛香) 11. 精神分析から「見える」を問い直す (若森栄樹) 12. ソマトフォビアと異性愛中心主義 ——ホロコースト博物館の髪の色展示論争から—— (藤巻光浩) 13. 視覚の文法——ヒトの脳は世界をどう表現するか—— (安井美代子) 14. 我々が知覚する世界はリアルと言えるか ——プラトンの「イデア」をめぐって (M. ビティヒ) 15. まとめ (柿田秀樹) 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後で、授業やプリント等で紹介された文献を読み、関心を持ったテーマについて自分で調べて理解を深めてほしい。必要な場合、事前の読書課題があるかもしれない。		
テキスト	テキストは授業内で適宜指示する。		
参考文献	参考文献は授業内で適宜指示する。		
評価方法	各講義後コメントペーパーを試験解答として提出するため、出席と講義の内容の復習が不可欠である。 75分の講義の後、担当の先生の各テーマについて15分ほどのテストを毎回行う。このテストをもとに成績を評価する。		

09年度以降	総合講座	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フィールドワーク」とは、研究対象が存在する環境の中で、研究者自身によって行われる実際の作業のことである。実験室や研究室ではなく、現場にある資料・データなどの調査や探索である。現場は大都市中心部、小部族の集落、会社、バスターミナルかもしれない。フィールドワーク作業は、対象への面談や観察を通しての人類学的・社会学的データの収集、対象言語の記述を目的としたデータ収集、あるいはアーカイブにある史料の書き写しなど実にさまざまである。人類学、社会学、言語学、民俗学、政治学、美術史学など広範囲の分野の研究者がフィールドワークを行う。フィールドワークは研究過程の中でもっとも興味深く価値ある部分であり、研究において、方法的、創造的に研究の翼を広げ、独創的要素と経験的信頼性を証明できる機会である。</p> <p>本講義では、さまざまな分野の研究者が実際に行ったフィールドワークについていろいろな角度から論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「フィールドワークの実践」開講にあたって (A. ゴーリンジャー) 2. 歩いて学ぶニューヨーク：パブリック・メモリーの考察 (板場良久) 3. 未定 (金井満/黒子葉子) 4. Research Interviews and Knowledge (Re)Production (工藤和宏) 5. 関わりながら知ること——民俗芸能の伝承と企業活動をめぐるフィールドワークの実践 (鈴木涼太郎) 6. Gaining Access: More Than Just Walking Through the Door (E. 本橋) 7. 脆弱国家支援の考察——シエラレオネ (佐野康子) 8. From Classrooms to Cities: Adventures in Data Collection and Fieldwork (J. N. ウェンデル) 9. ことばを守るということ (田中善英) 10. ドイツ現代史とフィールドワーク ——東ドイツ史研究の事例から (伊豆田俊輔) 11. 農村調査——フィリピンの農村でのフィールドワークの実践を中心に (堀芳枝) 12. 民俗学のフィールドワーク……民間の伝統的習俗 (行事・祭礼・生活等) の調査と観察 (飯島一彦) 13. 本ではわからない福祉の現場 (尾玉剛士) 14. ドイツでの企業調査からの教訓 (大重光太郎) 15. まとめ (A. ゴーリンジャー) 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントや授業内で紹介された参考文献をもとに自分が関心を持ったテーマを調べ理解を深める。		
テキスト	授業内で適宜指示する。		
参考文献	授業内で適宜指示する。		
評価方法	期末テストは行わず、毎回提出するコメントペーパーで評価する。		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
鍵盤音楽史① いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら音楽の歴史をたどっていく授業です。2018年度は、鍵盤楽器（ピアノ、オルガン、チェンバロ等）のための音楽に注目します。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。映像資料が少ないため、CD等の録音で鑑賞することが多くなると思いますが、ご了承ください。2015～2017年度に総合講座（西洋音楽史）を履修した方の重複履修も可能です。 ◇一度、外部講師による楽器説明の回を設ける予定です。 ◇注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。		1. 導入・概観、評価方法の説明等 2. 鍵盤楽器について 3. 鍵盤楽器について、14～16世紀の鍵盤音楽 4. 16～18世紀のイベリア半島とイタリアの鍵盤音楽 5. 16～18世紀のイギリスの鍵盤音楽 6. 17～18世紀のフランスの鍵盤音楽 7. スウェーデン、17世紀北ドイツの鍵盤音楽 8. 17世紀南ドイツの鍵盤音楽 9. J.S. バッハの生涯と鍵盤音楽 10. J.S. バッハのオルガン音楽 11. J.S. バッハのクラヴィア音楽 12. J.S. バッハの鍵盤楽器を含む室内楽曲等 13. バッハの息子たちの世代 14. ハイドン 15. まとめ・授業内試験	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』や『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。		
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の3分の2以上の出席が評価の前提です。		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
鍵盤音楽史② いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら音楽の歴史をたどっていく授業です。2018年度は、鍵盤楽器（ピアノ、オルガン、チェンバロ等）のための音楽に注目します。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の内容を踏まえての授業になりますので、ご了承ください。2015～2017年度に総合講座（西洋音楽史）を履修した方の重複履修も可能です。 ◇注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。		1. 18世紀中頃までの鍵盤音楽 2. モーツァルトの鍵盤音楽 3. ベートーヴェンの鍵盤音楽 4. シューベルトのピアノ音楽 5. 19世紀のピアノ音楽概観 6. ショパンのピアノ音楽 7. メンデルスゾーン、シューマンの鍵盤音楽 8. リスト、ブラームスのピアノ音楽 9. 国民楽派のピアノ音楽 10. ロシアのピアノ音楽 11. 1750年以降のオルガン音楽 12. 19世紀後半～20世紀のピアノ音楽 13. 20世紀のピアノ音楽 14. チェンバロの復興、20～21世紀のチェンバロ音楽 15. まとめ・授業内試験	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり（図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を利用）、文献を読んだりしてください。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』や『ニューグローヴ世界音楽大事典』等を参照してください。		
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%。全授業回数の3分の2以上の出席が評価の前提です。		

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。さらに、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要、データ表現、基数変換、論理演算 2. オペレーティングシステム (OS) 3. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5. プログラム言語 6. プログラミングの仕組み 7. コンピュータの構成要素 8. 自然言語とは 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 人工知能と言語処理 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト	学内ネットに開示するテキストを使用します。		
参考文献	特にありません。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%です。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：</p> <p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：</p> <p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際の発表（質疑応答も含む）を通じて、「わかりやすいプレゼンテーションとは何か」を考えていく半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、課題（演習）が締め切り日までに提出されなかったり、また提出はあっても、発表の準備をしていない場合は、実際の発表ができません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本知識と操作の確認 3. プレゼンテーションとは 4. スライドの作成法(1) 5. スライドの作成法(2) 6. 演習1：時間の意識 7. 発表(1) 8. 発表(2) 9. 演習2：配布資料の利用 10. 発表(1) 11. 発表(2) 12. 演習3：「言葉」の定義 13. 発表(1) 14. 発表(2) 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 演習（作成・発表・振り返り）90%、平常点（練習問題等）10%。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より指示する。		
テキスト	担当教員より指示する。		
参考文献	担当教員より指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、WordおよびExcel、PowerPointについて、より広い知識と活用法の習得を目的とする半期完結授業である。</p> <p>個々のソフトの基本的操作だけでなく、ソフトの連携による活用ができる力を養成することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>Word、Excel、PowerPointの基本を習得していることが望ましいが、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のガイダンス・基本操作の確認 2. Wordの基本操作の確認 3. Excelの基本操作 (セル参照・関数) の確認 (1) 4. Excelの基本操作 (関数・入力規則) の確認 (2) 5. Excelの基本操作 (グラフ・抽出) の確認 6. WordとExcelの連携処理 (1) 7. WordとExcelの連携処理の確認テスト 8. データベースの準備・作成 9. PowerPointの基本操作の確認 10. フィルタによるデータ抽出 11. プレゼンテーション資料作成 (1) 12. プレゼンテーション資料作成 (2) 13. プレゼンテーション実習 (1) 14. プレゼンテーション実習 (2) 15. レポートへのまとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の進行により随時指示する。		
テキスト	『情報活用法とアカデミック・スキル』(共立出版株式会社、2018年)		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	確認テスト 30%、授業内課題 20%、レポート 30%、プレゼンテーション実習 20%		

16年度以降 15年度以前	[応用] 情報科学各論 (コーパス言語学 a) [応用] 情報科学各論 (言語情報処理 1)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目的とします。</p> <p>コーパス言語学aでは、「コーパス (=言語データ) とは何か?」という基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題(Research question(s))をたて、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書(下記参照)に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・第1章「コーパス言語学への招待」 2. 第2章「コーパスとは何か」 3. 第3章「さまざまなコーパス」 4. 第5章「コーパス検索の技術」 5. 第6章「コーパス頻度の処理」 6. 第7章「コーパスと語彙」(1) 7. 第7章「コーパスと語彙」(2) 8. 第8章「コーパスと語法」(1) 9. 第8章「コーパスと語法」(2) 10. 第9章「コーパスと文法」(1) 11. 第9章「コーパスと文法」(2) 12. プレゼンテーション準備(1):RQを検討 13. プレゼンテーション準備(2):データ分析 14. プレゼンテーション準備(3):資料作成 15. プレゼンテーション 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。		
テキスト	『ベーシックコーパス言語学』(石川慎一郎著 ひつじ書房)		
参考文献	英語コーパス研究シリーズ(ひつじ書房)		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み(60%)、最終プレゼンテーション(40%)		

16年度以降 15年度以前	[応用] 情報科学各論 (コーパス言語学 b) [応用] 情報科学各論 (言語情報処理 2)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題(Research question)は、「日本人英語学習者の話す/書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する(あるいはしない)文法項目、誤り(error)などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおこなってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が高い人に向いている内容と言えます。</p> <p>授業では、演習が中心になります。コーパス言語学 a を履修していなくても構いません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集(1) 5. 学習者データの収集(2) 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備(1):RQを検討 13. プレゼンテーション準備(2):データ分析 14. プレゼンテーション準備(3):資料作成 15. プレゼンテーション 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。		
テキスト	テキストは使用せず。Ppt スライドを提示する。		
参考文献	英語コーパス研究シリーズ(ひつじ書房)		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み(60%)、最終プレゼンテーション(40%)		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級) (月5)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである「WWW (World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML (Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ (ホームページ) も作成する。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>コンピュータの言語 (Language) を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し (復習)」が極めて重要です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本知識と操作の確認、情報倫理 3. Webページとは、著作権 4. 文字中心のページ、リンク 5. 画像(1) 6. 画像(2)、表 7. FTP 8. 課題(1) 9. 課題(2) 10. 小鑑賞会、企画書の作成 11. CSS 12. 総合課題(1) 13. 総合課題(2) 14. 作品紹介のプレゼンテーション 15. 鑑賞会・まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備 (予習) 等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題 (作品) 40%、平常点 (課題、著作権のレポート等) 60%。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級) (木4)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである「WWW (World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML (Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>コンピュータの言語 (Language) を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し (復習)」が極めて重要です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本知識と操作の確認、情報倫理 3. Webページとは、著作権 4. 文字中心のページ、リンク 5. 画像(1) 6. 画像(2)、表 7. FTP 8. 課題(1) 9. 課題(2) 10. 小鑑賞会、企画書の作成 11. CSS 12. 総合課題(1) 13. 総合課題(2) 14. 作品紹介のプレゼンテーション 15. 鑑賞会・まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「情報科学各論 (HTML初級)」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたWebページ作成技術を習得した人 (FTPの理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページの作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>まず、コンピュータとネットワーク (インターネット) の基礎知識の確認、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意：授業内容や評価方法等を詳しく説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。原則として、HTML初級を履修済みであること。プログラミングの授業なので、特に欠席や遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>抽象度が高いので、準備と復習をしっかり行い、こまめにメモを取ることが必須です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. HTMLとFTPの復習(1) 3. HTMLとFTPの復習(2) 4. インタラクティブなページとは 5. プログラミングの基礎知識 6. JavaScript(1) 7. JavaScript(2) 8. JavaScript(3) 9. JavaScript(4) 10. JavaScript(5) 11. CGIの利用 12. 総合課題(1) 13. 総合課題(2) 14. 総合課題(3) 15. 鑑賞会・まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）70%、平常点（課題等）30%。		

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約 3. 家計の行動②－効用最大化 4. 家計の行動③－消費者余剰の概念 5. 企業の行動①－生産技術の決定 6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7. 企業の行動③－生産者余剰の概念 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得分配の決定 13. 政府の役割①－規制および補助金政策 14. 政府の役割②－租税政策 15. まとめ 	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 企業投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政政策の有効性 9. 金融政策の有効性 10. 国際収支と為替レートの決定要因 11. 開放マクロ経済下での経済政策 12. 公債発行と財政赤字 13. 経済成長の決定要因 14. 日本の公的債務と経済成長 15. まとめ 	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情勢的影響 12. 社会的影響(3)： 「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. まとめと振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力 	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000；スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）		
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09年度以降	社会心理学 b（金2）	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)： 言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)： コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. まとめと振り返り 15. 社会心理学の未来 	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000；スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）		
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09年度以降	社会心理学 b (金3)	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. まとめと振り返り 15. 社会心理学の未来 	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学 (有斐閣, 2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』(新曜社, 2017)		
評価方法	中間レポート 30%, 期末試験 60%, その他 10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

シラバス ドイツ語学科

2018年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	